

深江町の復興・振興

に関するアンケート調査報告書

1999(平成 11)年 8 月

長崎大学工学部社会開発工学科
土木構造学研究室

高橋 和雄

伊東 義信

塩津 雅子

深江町の復興・振興

に関するアンケート調査報告書

1999(平成11)年8月

長崎大学工学部社会開発工学科
土木構造学研究室

高橋 和雄

伊東 義信

塩津 雅子

目 次

第1章 まえがき	1
第2章 深江町の復興・振興に関するアンケート調査	2
2. 1 まえがき	2
2. 2 アンケート調査の概要	2
2. 3 近隣付き合いの変化について	4
2. 4 深江町での生活について	5
2. 5 災害による被害と避難について	11
2. 6 まちづくりについて	13
2. 7 深江町復興計画について	16
2. 8 旧大野木場小学校被災校舎現地保存構想について	22
2. 9 がまだす計画について	26
2. 10 災害時の被災対策について	32
2. 11 防災まちづくりについて	37
2. 12 農業について	41
2. 13 まとめ	43
第3章 アンケート調査に見る島原市と深江町の地域差の分析	45
3. 1 まえがき	45
3. 2 島原市および深江町の災害の比較	45
3. 3 アンケート結果の比較	45
3. 4 まとめ	59
参考文献	60
謝辞	60
付録Ⅰ：「深江町の復興・振興に関するアンケート調査」 依頼状および調査表	61
付録Ⅱ：「深江町の復興・振興に関するアンケート調査」 単純集計	62
付録Ⅲ：「深江町の復興・振興に関するアンケート調査」 クロス集計（地区別、職業別）	91

第1章 まえがき

雲仙普賢岳の噴火災害(1990年-1995年)によって直接被害を受けた島原市、深江町はじめ、農業、漁業、商工業などが島原半島全域にわたって被害を受けた。島原市の南部に隣接する深江町では人的被害は受けなかったものの、土石流、火砕流、火山灰などによって家屋、農地などが大きな被害を受けた。大野木場地区においては、地域住民のコミュニティのシンボルである深江町町立大野木場小学校が平成3年9月15日の火砕流で焼失した。また、国道251号、国道57号および島原鉄道の水無川流域における不通にもなって通勤・通学・買物・通院などの日常生活にも大きな故障が生じた。

深江町ではこの噴火災害からの復興を目指して平成5年5月に深江町復興計画を策定した。これに基づいて生活再建、防災まちづくりおよび地域振興の3本柱のもとに復興事業が推進されている。平成7年5月には噴火活動が終息し、平成9年3月には島原地域全域を視野に入れた本復興計画である島原地域再生行動計画(通称がまだす計画)が策定された。道の駅の整備事業、土石流災害遺構保存公園整備事業、島原・深江地区農地区画整備事業、島原火山科学博物館(仮称)建設事業など、深江町に関係が深い事業も新たに作成され着手している。

著者らは島原市においてはこれまで復興に関する調査を実施してきたが、深江町においてはこれまで調査が実施されていない。深江町と島原市ではコミュニティ、被害の程度、財政規模、合意形成プロセス、住民意識などが異なるため、この災害に対する受け取り方がかなり違うことが予想される。そこで、著者らは平成11年10月に深江町の復興・振興に関するアンケート調査を実施した。このアンケートの調査表は平成9年9月に島原市に対して実施したアンケート調査を深江町用に書換えたもので、深江町と島原市の結果を比較できるようにしている。

本報告書はこのアンケートの調査結果をまとめたものである。第2章では、アンケート調査に基づいて近隣の付き合いの変化、深江町での生活、災害による被害と避難、まちづくり、深江町復興計画、旧大野木場小学校被災校舎現地保存構想、がまだす計画、災害時の避難対策、防災まちづくりおよび農業について分析している。さらに、第3章では深江町と島原市に対して実施したアンケート調査の共通設問に関する回答の比較を行っている。なお、本研究は平成10年、11年度の河川環境管理財団の研究助成を受けたことを付記する。

平成11年8月1日

高橋 和雄

第2章 深江町の復興・振興に関するアンケート調査

2.1 まえがき

深江町は島原市の南部に隣接し、雲仙普賢岳の噴火災害（1990年～1995年）により、大野木場小学校や多くの家屋が流焼失した大野木場地区および土石流被害を受けた瀬野地区をはじめ、降灰などによって基幹産業の農業が町全域で被害を受けた。島原市では復興に関して各種の調査が実施されているが、深江町では復興・振興に関するアンケート調査が実施されていない。

本章では、深江町住民の現在の復興・振興に関する意向を明らかにする目的で行ったアンケート調査の結果をもとに、災害が地域社会に与えた影響、各種の災害復興計画、地域の活性化プロジェクトに対する住民の受け取り、今後のまちづくりへの課題、防災対策および営農問題を明らかにする。

2.2 アンケート調査の概要

アンケート調査は、平成10年11月に深江町の20歳以上の町民を対象に無作為に選挙人名簿から約15%を抽出し、郵送方式により実施した。

アンケートの配布数940部、回収数346部、および回収率は36.8%であった。また、深江町は、「大野木場」、「瀬野」、「諏訪」、「馬場」、「船津」および「小林」の6地区（図-2.1）からなり、この地域区分によって分析を行った。地区別の回収率、質問項目は、それぞれ表-2.1、表-2.2に示す。

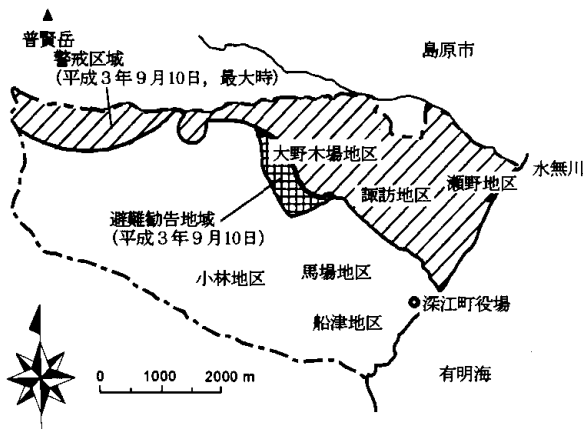


図-2.1 深江町の位置と火山災害危険区域

表-2.1 地区別の配布数、回収数および回収率

地区	配布数	回収数	回収率(%)
大野木場地区	164	59	36.0
瀬野地区	116	39	33.6
諏訪地区	183	59	32.2
馬場地区	121	52	43.0
船津地区	128	49	38.3
小林地区	228	77	33.8
地区名不明	—	11	—
合計	940	346	36.8

回答者の属性は、男性が43.1%、女性が54.6%となっており、回答者の年齢構成、職業および居住歴を表-2.3、表-2.4および表-2.5に示す。居住年数では70%近くが20年以上となっている。10年未満は11.6%で80%近くが今回の噴火災害以前からの居住者である。また、年齢構成でも、高齢者が多く、職業別で「無

職」，「農林業」および「会社員」が多い。

表-2.2 アンケートの質問項目

質 問 項 目	設 問 数
住まいの地区の状況について	6
深江町での生活について	3
雲仙普賢岳の噴火災害の被害等について	6
まちづくりについて	3
深江町復興計画について	11
がまだす計画について	5
災害時の避難対策について	5
防災まちづくりについて	6
農業について	5

表-2.3 回答者の年齢構成

年 齢	人 数 (人)	(%)
20歳代	23	6.6
30歳代	45	13.0
40歳代	67	19.4
50歳代	56	16.2
60歳代	76	22.0
70歳代以上	70	20.2
無回答, 無効回	9	2.6

表-2.4 回答者の職業

職 業	人 数 (人)	(%)
農林業	49	14.2
漁業	5	1.4
自営工業	5	1.4
自営商業	18	5.2
公務員	20	5.8
会社員	58	16.8
専門職・自由業	16	4.6
家庭婦人	39	11.3
学生	3	0.9
無職	90	26.0
その他	25	7.2
無回答, 無効回答	18	5.2

表-2.5 回答者の居住歴

住 まい 年 数	人 数 (人)	(%)
1年未満	5	1.5
1年以上5年未満	17	4.9
5年以上10年未満	18	5.2
10年以上15年未満	21	6.1
15年以上20年未満	27	7.8
20年以上	242	69.9
無回答	16	4.6

2. 3 近隣付き合いの変化について

「自治会行事に参加をしているか」を聞いたところ、図-2.2のような結果が得られている。「毎回参加する」、「よく参加する」とする積極的な参加は64.2%で、「めったに参加しない」（14.4%）とする回答を大幅に上回っており、深江町住民の自治会行事への参加率は高いと言える。

また、「火山災害前後での近隣付き合いの変化」は図-2.3のような結果となっている。避難対象地域に含まれた「瀬野地区」では、「非常に親密になった」、「多少親密になった」がそれぞれ10.2%、12.8%と他の地区に比べて多く近隣付き合いは好転し、「大野木場地区」では、「親密になった」と「悪化した」が同程度となっており、噴火災害により住民の間の結束は深まったが、一方では住宅移転問題などによる付き合いの悪化もあるようである。

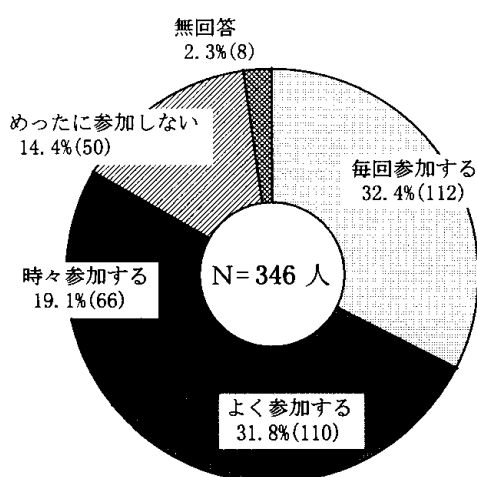


図-2.2 自治会行事への参加状況

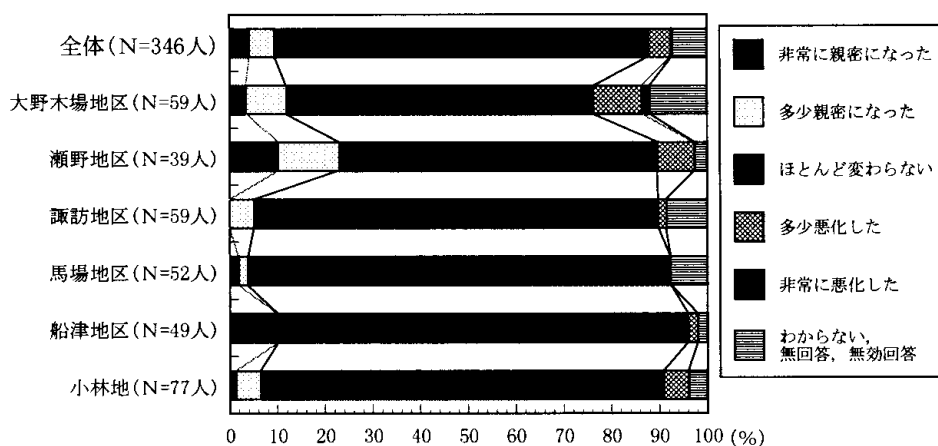


図-2.3 噴火前と現在の近隣付き合いの変化

2. 4 深江町での生活について

「これからも深江町に住み続けたいか」という問に対して、年齢別、職業別にそれぞれ図-2.4、図-2.5のような結果が得られている。先ず、年齢別に見ると「40歳代」を除いては年齢の低下に伴い「他の市町村に移りたい」とする回答が多くなっており、特に「20歳代」において21.7%と全体に比べ多いが、このことは深江町に限ったことではない。次に、職業別では、「専門職・自由業」で「他の市町村に移りたい」とする回答が目立って高く25.0%となっている。さらに、警戒区域が最大となった平成3年9月において、「大野木場地区」、「瀬野地区」および「諏訪地区」は警戒区域に含まれ避難を余儀なくされたが、この3地区を避難対象地域、他の3地区を非避難対象地域として見ると図-2.6の結果となっている。避難対象地域に含まれた「大野木場地区」、「瀬野地区」および「諏訪地区」では、非避難対象地域であった「馬場地区」、「船津地区」および「小林地区」に比べわずかではあるが「他の市町村に移りたい」とする回答が多くなっている。

住み続けたい、住み続けたくない理由をそれぞれ図-2.7、図-2.8に示す。住み続けたい理由としては、「家屋や農地が深江町にある」が74.0%と最も高く、次いで「深江町に愛着がある」、「友人が深江町に多い」の順となっており、このような結果となったことは、回答者の職業は農業が多く、かつ年齢層が高く居住歴が長いことから納得できる(表-2.3、表-2.5)。一方、住み続けたくない理由は、「収入が少なく、生活ができない」と回答したのは42.1%で最も多く、「普賢岳の再噴火による被害のおそれがある」とする回答は21.1%と少ない。

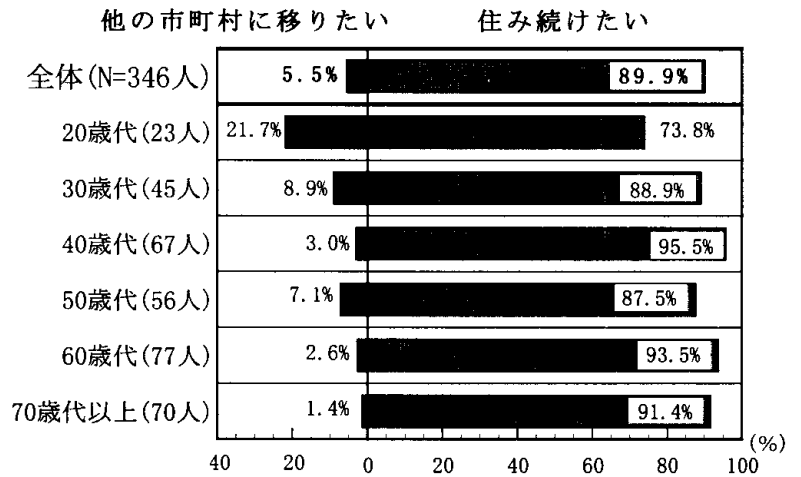


図-2.4 今後も深江町に住み続けたいかどうか (年齢別)
(無回答、無効回答を除く)

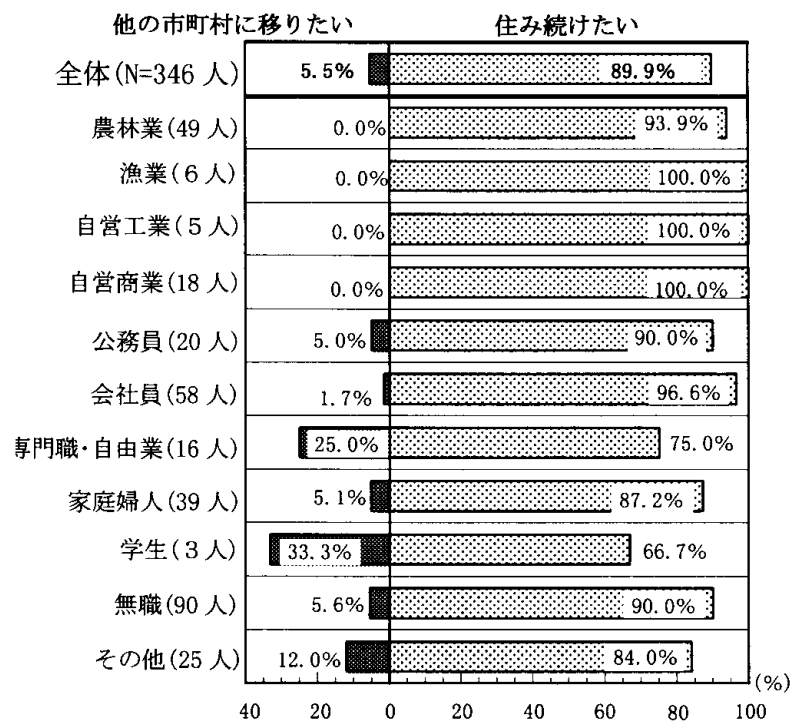


図-2.5 今後も深江町に住み続けたいかどうか (職業別)
(無回答、無効回答を除く)

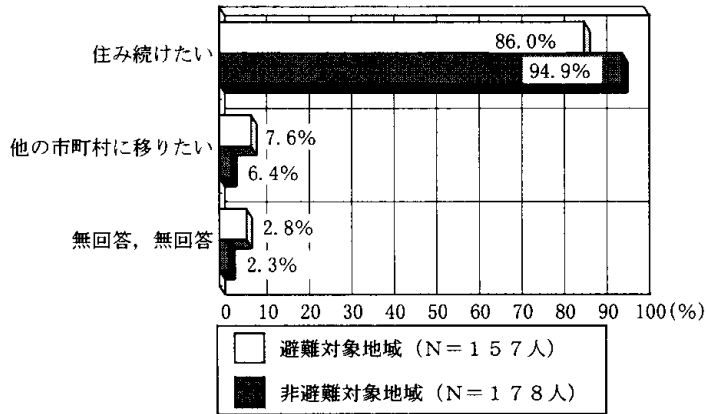


図-2.6 今後も深江町に住み続けたいかどうか

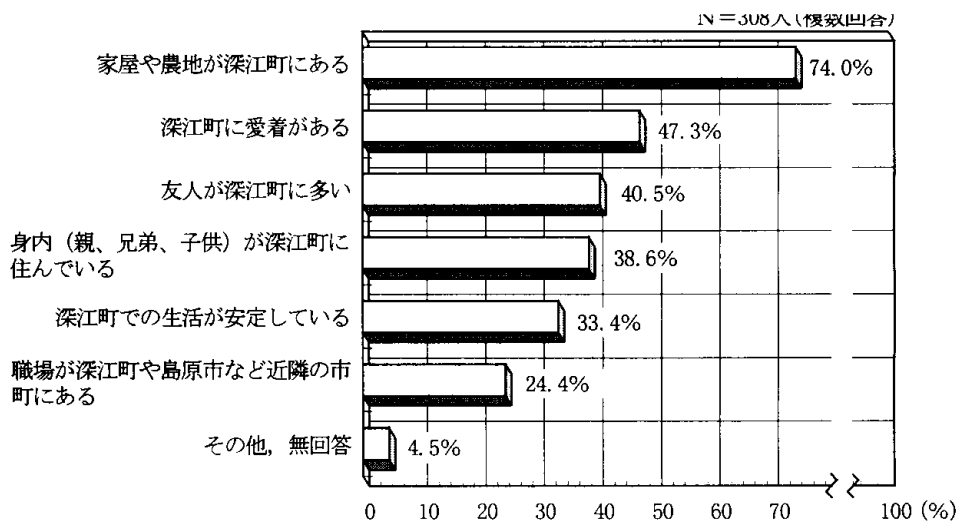


図-2.7 住み続けたい理由

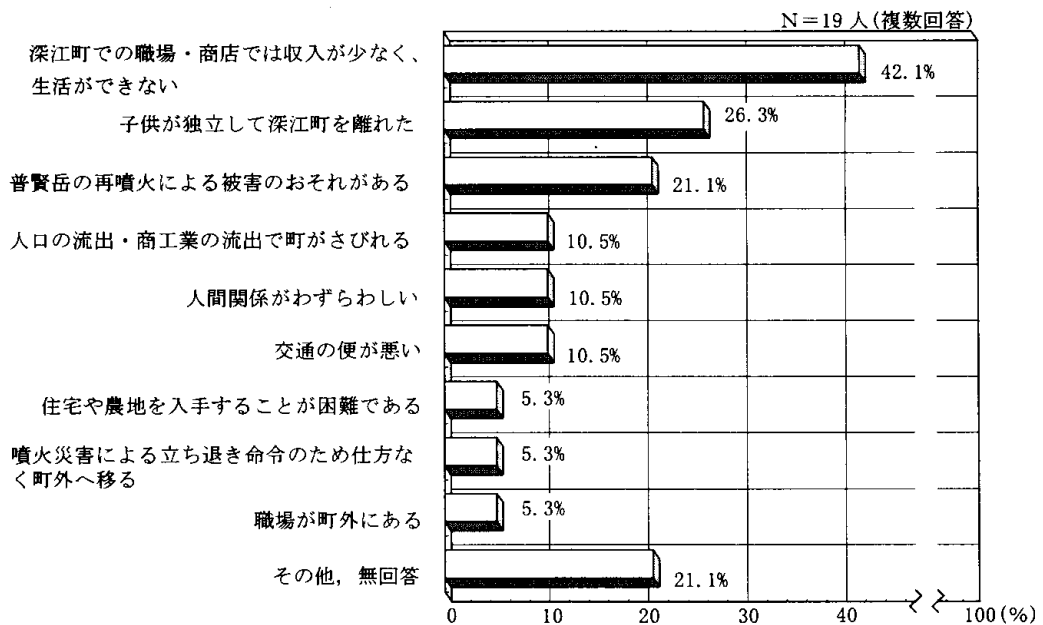


図-2.8 住み続けたくない理由

次に、「現在の生活における不便・不満」を聞いたところ、表-2.6のような結果となっている。最も多い「交通の便」の37.3%に続いて「収入」(28.3%)、「都市下水・廃水処理」(24.3%)の順となっている。また、地区別に見ると表-2.7の結果となっている。国道25号から最も離れ、町の中心地との連絡道路の整備が十分でない「大野木場地区」、「小林地区」では表-2.8に示すように「交通の便」とする回答がそれぞれ52.5%、46.8%と目立って高い。職業別では噴火災害の影響を直接的・間接的に受けた「農業」、「漁業」、「自営商業」および「自由業・専門職」で「収入」が1位を占めている。また、「公務員」は、「都市下・廃水処理」(60.0%)、「交通の便」(30.0%)、「文化活動」(25.0%)と個人の立場から見た上位3位ではなく、町としてのあり方をみた回答結果となっている。

表-2.6 現在の生活における不便・不満 (全体)

N=346人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
交通の便	129	37.3
収入	98	28.3
都市下水・廃水処理	84	24.3
仕事	77	22.3
買物	62	17.9
高齢者福祉	61	17.6
健康・医療	51	14.7
情報の入手	35	10.1
子供の教育	31	9.0
人間関係	31	9.0

表-2.7 現在の生活における不便・不満 (地区別)

N=346人(複数回答)

地区 \ 順位	1	2	3	4	5
大野木場 (N=59人)	交通の便 (52.5%)	買物 (30.5%)	収入 (23.7%)	高齢者福祉 (22.0%)	仕事 (18.6%)
瀬野 (N=39人)	交通の便 (35.9%)	都市下水・ 廃水処理 (28.2%)	買物 (25.6%)	健康・医療 災害 (20.5%)	
諏訪 (N=59人)	収入 (32.2%)	仕事 (22.0%)	都市下水・ 廃水処理 (20.3%)	健康・医療 (18.6%)	高齢者福祉 (16.9%)
馬場 (N=52人)	交通の便 (36.5%)	都市下水・ 廃水処理 (30.8%)	収入 (26.9%)	仕事 (21.2%)	高齢者福祉 (19.2%)
船津 (N=49人)	収入 交通の便 (32.7%)		仕事 (30.6%)	都市下水・ 廃水処理 (28.6%)	健康・医療 高齢者福祉 (18.4%)
小林 (N=77人)	交通の便 (46.8%)	収入 (33.8%)	仕事 都市下水・廃水処理		買物 (15.6%)

表-2.8 現在の生活における不便・不満（職業別）

N=346人(複数回答)

順位 職業	1	2	3	4	5
農 林 業 (N=49人)	収入 (36.7%)	交通の便 (26.5%)	都市下水・ 廃水処理 (22.4%)	仕事 (16.3%)	健康・医療 (14.3%)
漁 業 (N=5人)	収入 (60.0%)	健康・医療 交通の便 駐車場 (20.5%)			住宅 仕事 プライバシー 交通安全 (20.0%)
自 営 商 業 (N=18人)	収入 (50.0%)	交通の便 都市下水・廃水処理 (33.3%)		仕事 文化活動 (22.2%) 買物 (22.2%)	
公 務 員 (N=20人)	都市下水・ 廃水処理 (60.0%)	交通の便 (30.0%)	文化活動 (25.0%)	高齢者福祉 (20.0%)	健康・医療 衛生 (15.0%)
会 社 員 (N=58人)	交通の便 (48.3%)	収入 (32.8%)	仕事 (22.4%)	都市下水・ 廃水処理 (20.7%)	買物 高齢者福祉 (19.0%)
自 由 業・ 専 門 職 (N=16人)	収入 (56.3%)	プライバシー (37.5%)	仕事 交通の便 (31.3%)		都市下水・ 廃水処理 人間関係 (25.0%)
家 庭 婦 人 (N=39人)	交通の便 (38.5%)	仕事 (30.8%)	収入 買物 (23.1%)		都市下水・ 廃水処理 (15.4%)
無 職 (N=90人)	交通の便 (41.1%)	高齢者福祉 (31.1%)	都市下水・廃水処理 買物 (25.6%)		仕事 (24.4%)

「災害前と比べて災害中に生活（経済）はどう変わったか」という問に対して図-2.9のような結果が得られている。「大野木場地区」，「瀬野地区」および「諏訪地区」の3地区では、「非常に苦しくなった」，「かなり苦しくなった」および「少し苦しくなった」を合わせた回答が54.2%，41.4%，39.0%と高い。一方、「馬場地区」では、「変わらない」と「楽になった」とを合わせた回答が71.2%で他の地区に比べ高く、噴火災害による生活への影響が最もなかった地区であると言える。次に、職業別に見た結果を図-2.10に示す。「農林業」，「漁業」および「自営商業」においては、「少し苦しくなった」がそれぞれ36.7%，60.0%，44.4%で最も多く、「専門職・自由業」では、「かなり苦しくなった」とする回答は25.0%と他の職業に比べ高い。これは噴火災害による農地や漁場の被害および人口の流出による売上減少が原因であると考えられる。また、「公務員」，「会社員」および「家庭婦人」では、「変わらない」が、それぞれ75.0%，63.7%，79.5%で最も多くを占めている。

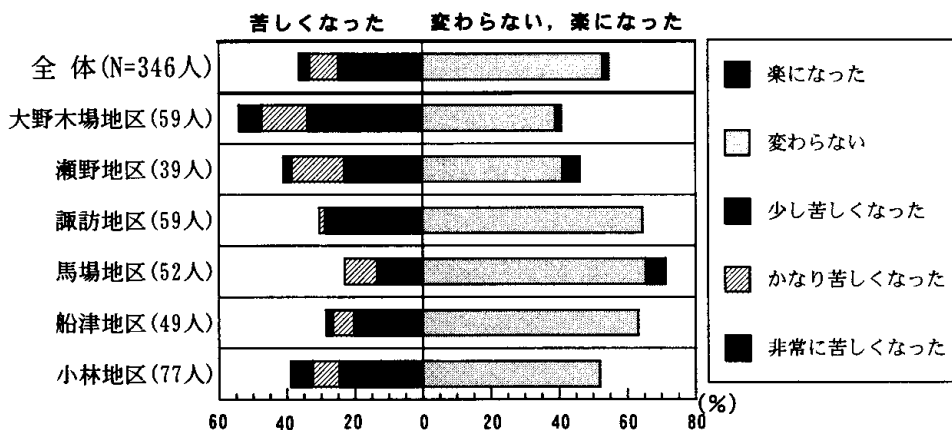


図-2.9 災害前と比べた災害中の生活(経済)の変化(地区別)
(無回答, 無効回答を除く)

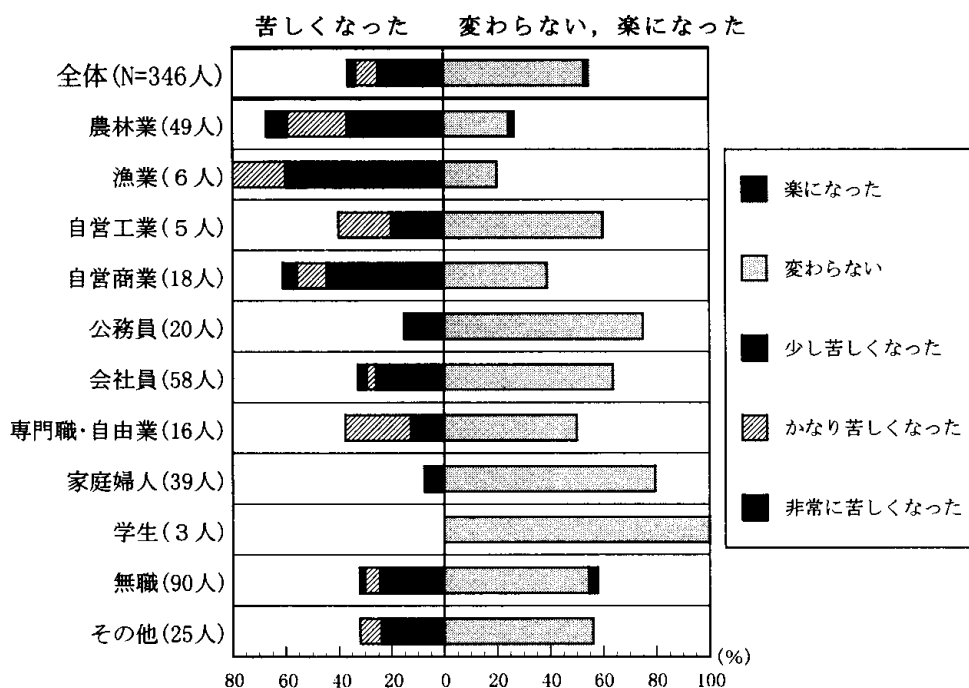


図-2.10 災害前と比べた災害中の生活(経済)の変化(職業別)
(無回答, 無効回答を除く)

さらに、「苦しくなった」と回答した人に「噴火が終息して3年経過した現在の生活の状況」を聞いたところ、「回復して噴火前に戻った」のは28.6%にとどまっており、噴火前に戻っていないとする回答は67.4%もある。「大野木場地区」, 「諏訪地区」, 「船津地区」および「小林地区」では、「かえって苦しくなった」とする回答がそれぞれ12.5%, 11.1%, 28.6%, 10.0%を占めており、噴火が終息して3年経過しても、回復が急がれているものの、依然苦しい生活が続いている(図-2.11)。

深江町でも20歳代の若年層が少ないのに対し、60歳代以上が多く(表-2.3)、今後益々高齢化社会になることが考えられる。そこで、「高齢化社会に向けてどのような対策が必要か」を聞いたところ、表-2.9に示すように「訪問看護事業の充実」(39.3%), 「デイサービスの充実」(38.4%), 「バス回数券やタクシーチケットなどの支給」(35.5%)、 「ホームヘルプサービスの充実」(34.7%) および「特別養護老人ホームの整備」(34.7%) が上位5つを占めている。

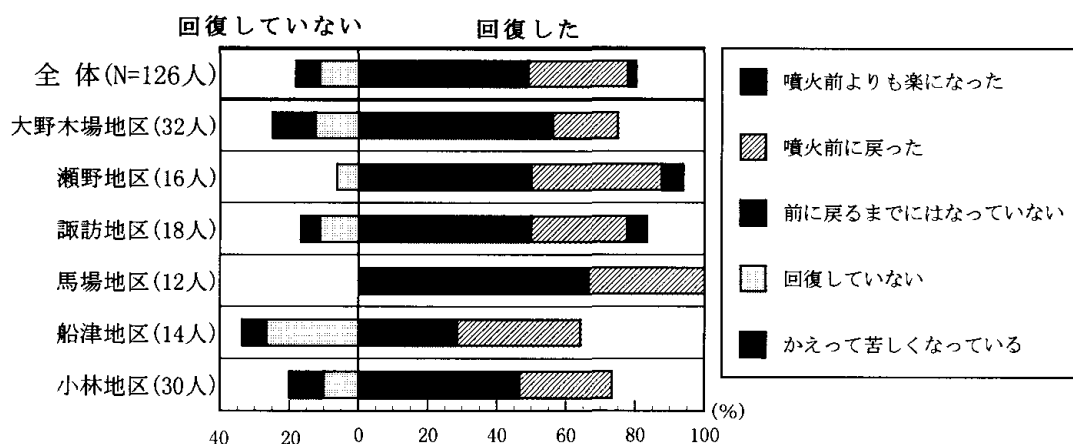


図-2.11 現在の生活(経済)の状況 (地区別)

表-2.9 高齢化社会に向けて必要とされる対策

N = 346人(複数回答)			
項目	人数(人)	%	
訪問看護事業の充実	136	39.3	
デイサービスの充実	133	38.4	
通院に対するバス回数券やタクシーチケットなどの支給	123	35.5	
ホームヘルプサービスの充実	120	34.7	
特別養護老人ホームの整備	120	34.7	
老人保健施設の整備	105	30.3	
社会参加の機会の提供 (シルバー人材センターの充実)	96	27.7	
買物などの生活支援サービス	92	26.6	
バス路線の新設	73	21.1	
歩道にベンチの設置	52	15.0	
ショートステイの充実	44	12.7	
その他, 無回答	42	12.1	

2. 5 災害による被害と避難について

平成3年5月からの土石流に対する避難勧告、平成3年6月からの警戒区域の設定などにより、住民は長期間の避難を強いられた。「噴火継続中の規制」および「避難の有無」は、それぞれ図-2.12、図-2.13に示す結果となっている。「大野木場地区」，「瀬野地区」および「諏訪地区」においては、「警戒区域」または「避難勧告」に含まれたのは、それぞれ52.5%、53.8%、30.5%を占めており、「避難した」とする回答も93.2%、89.7%、83.0%となっている。一方、「馬場地区」，「小林地区」では「規制を受けなかった」と

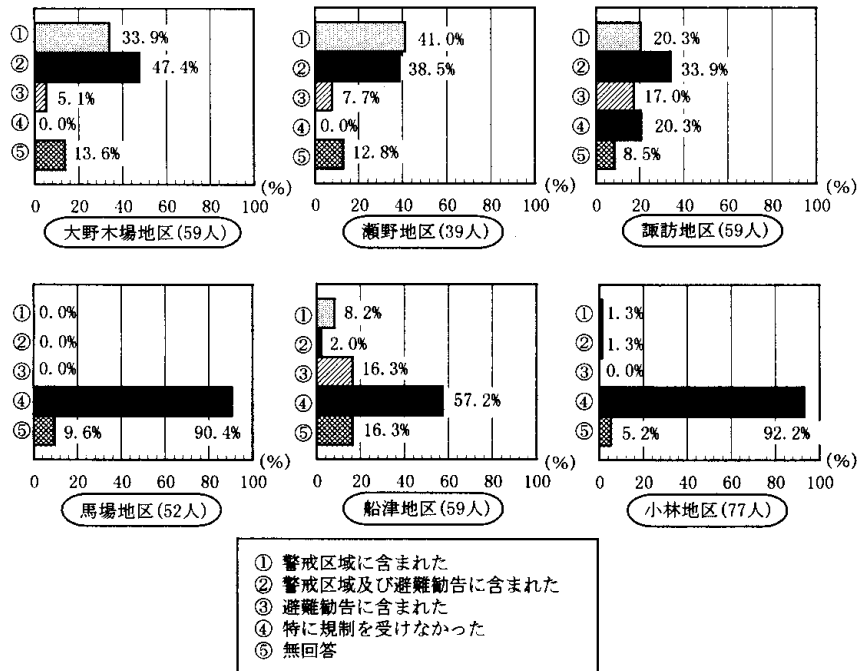


図-2.12 噴火継続中の規制 (地区別)

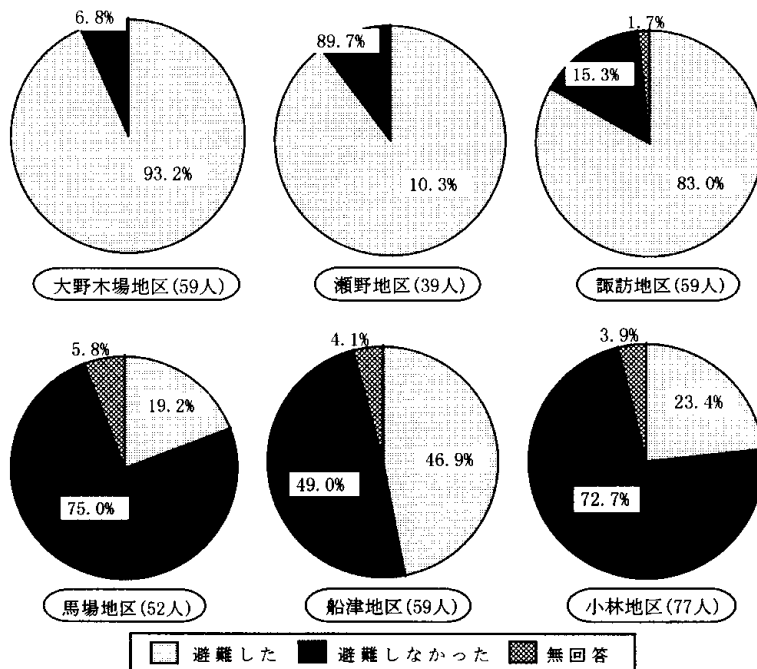


図-2.13 避難の有無 (地区別)

する回答が約90%を占めており、「避難した」とする回答も19.2%, 23.4%と少ない。

さらに、噴火中の避難場所としては集団避難から個別避難までさまざまな避難形態が見受けられる（表-2.10）。行政が用意した避難対策と個人で確保した避難先が同程度となっている。

表-2.10 噴火中の避難場所

N = 194人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
学校の体育館、公民館	96	49.5
親戚・家族の家	95	49.0
応急仮設住宅	63	32.5
長崎県が借り上げた旅館・ホテル	46	23.7
新たに借り上げた家やアパート	39	20.1
知人の家	22	11.3
公営住宅	17	8.8
勤務先の社宅、寮	4	2.1
長崎県が借り上げた船	1	0.5
その他	18	9.3

次に、「被害の内容」については、表-2.11に示すとおりである。大部分が農地である「大野木場地区」では、警戒区域の設定による「家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた」(44.1%)が1位を占めている。同地区は、「瀬野地区」とともに水無川に隣接していることもあって、「山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた」がともに3位となっている。中ノ間川流域に位置する「小林地区」でも「山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた」(10.4%)が4位にある。有明海に面した「船津地区」では、土石流、流木などで「漁場が被害を受けた」(18.4%)が2位となっている。

表-2.11 被害の内容 (地区別)

N = 346人(複数回答)

順位 地区	1	2	3	4
大野木場 (N=59人)	家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた (44.1%)	作物が収穫できなかった (33.9%)	山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた (30.5%)	その他 (22.0%)
瀬野 (N=39人)	家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた (48.7%)	作物が収穫できなかった (28.2%)	山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた 被害はなかった (23.1%)	
諏訪 (N=59人)	家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた (39.0%)	被害はなかった (35.6%)	作物が収穫できなかった (28.8%)	その他 (11.9%)
馬場 (N=52人)	被害はなかった (51.9%)	作物が収穫できなかった (23.1%)	その他 (21.2%)	家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた (5.8%)
船津 (N=49人)	被害はなかった (34.7%)	漁場が被害を受けた (18.4%)	その他 (14.3%)	作物が収穫できなかった (8.2%)
小林 (N=77人)	作物が収穫できなかった (40.3%)	その他 (31.2%)	被害はなかった (23.4%)	山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた (10.4%)

2. 6 まちづくりについて

深江町の人口は、平成2年までは8,422人と増加傾向にあったが、噴火活動が始まった平成2年11月以降は噴火災害の影響を受けて減少し続け、平成7年には7,877人になった。「深江町の人口は今後どうなるか」を聞いたところ、図-2.14の結果を得ている。「平成7年の人口が続く」および「減少し続ける」とする回答が71.4%を占め、今後の人口増加に期待をもっていないようである。

次に、島原半島を活性化するために、市町村合併を行うべきとする意見があり、がまだす計画²⁾でも検討中である。そこで、「市町村合併についての賛否」を聞いたところ、図-2.15のように「賛成」が34.7%で「反対」とする19.1%を上回っているが。しかし、どちらとも言えないが41.6%で最も多い状況である。また、市町村合併についての賛否の理由については図-2.16、図-2.17に示す。期待できる理由としては、「広域行政によって行政改革ができる」が59.2%、「地方分権の時代には町の単位では小さすぎて対応できない」が49.2%と上位1、2位を占めており、がまだす計画²⁾の島原半島市町村合併調査検討事業のねらいでもある広域行政の推進にそった回答となっている。逆に、期待できない理由は、「地域の特性に対応したきめ細かい対策ができなくなる」(66.7%)、「メリットがはっきりしない」(63.6%)が同程度で主な理由となっている。さらに、「合併する場合の市町村の組み合わせ」については、「深江町と島原市」とする回答が最も多く44.2%となっている(図-2.18)。

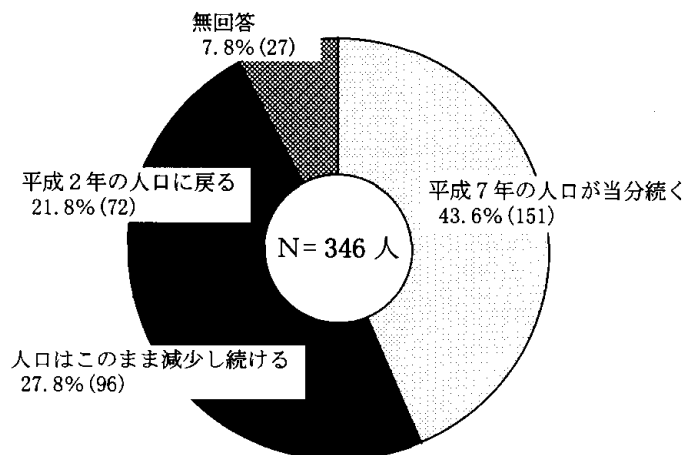


図-2.14 今後の深江町の人口

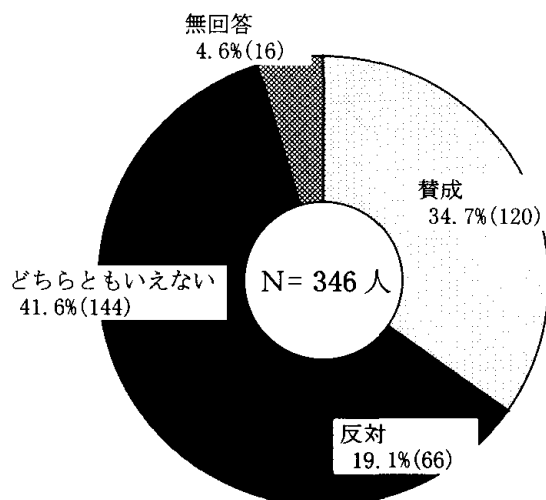


図-2.15 市町村合併についての賛否

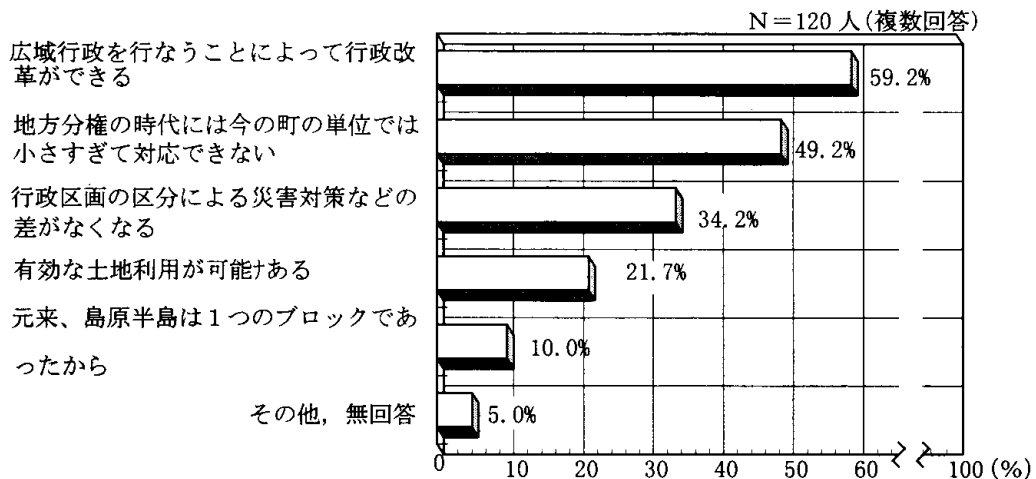


図-2.16 市町村合併への賛成の理由

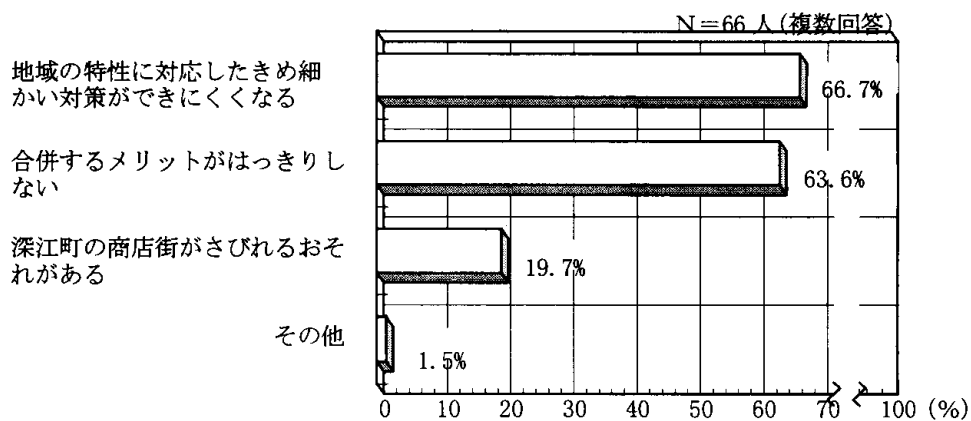


図-2.17 市町村合併への反対の理由

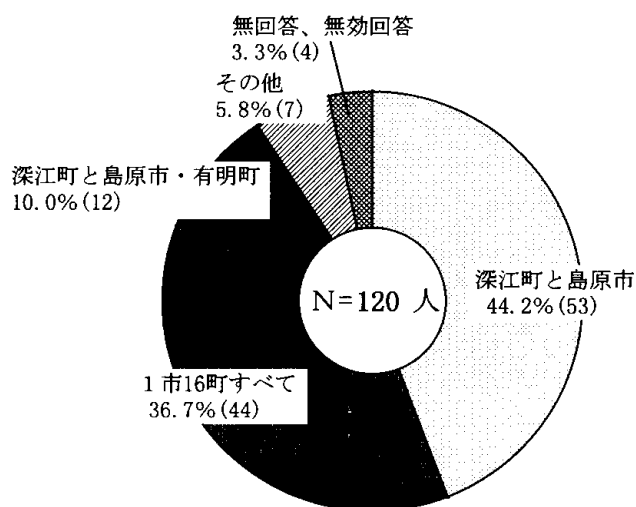


図-2.18 合併する場合の市町村の組み合わせ

島原地域では地域の活性化の大きな柱として噴火災害を逆利用した火山観光化を目指しており、これまで農業が中心で観光資源がない深江町でも噴火災害後には、火山観光化を復興の柱としており、がまだす計画²⁾における道の駅および土石流災害遺構保存公園(仮称)をはじめ、大野木場小学校被災校舎現地保存等各種の計画が進められている。「火山観光化に対する期待度」を図-2.19に示す。「大いに期待できる」と「かなり期待できる」を合わせた値は27.7%で、「あまり期待できない」30.2%で最も多く、火山観光化への期待はあまり高くないと言える。「火山観光化に期待できる理由」および「期待できない理由」を図-2.20および図-2.21に示す。「火山観光化に期待できる理由」としては、「平成新山のイメージが全国的に知られているので、全国から人が訪れることが期待できる」が最も高く64.6%、次いで「がまだす計画で火山観光化に向かって事業が具体化しつつある」(40.2%)の順となっており、火山観光化に地域住民は積極的でないことが窺える。一方、「期待できない理由」としては、「火山観光化のために作った博物館、土石流遺構などの維持管理費の負担が大きくなるおそれがある」が最も高く58.9%となっており、運営していく上での経費に不安を抱いている。

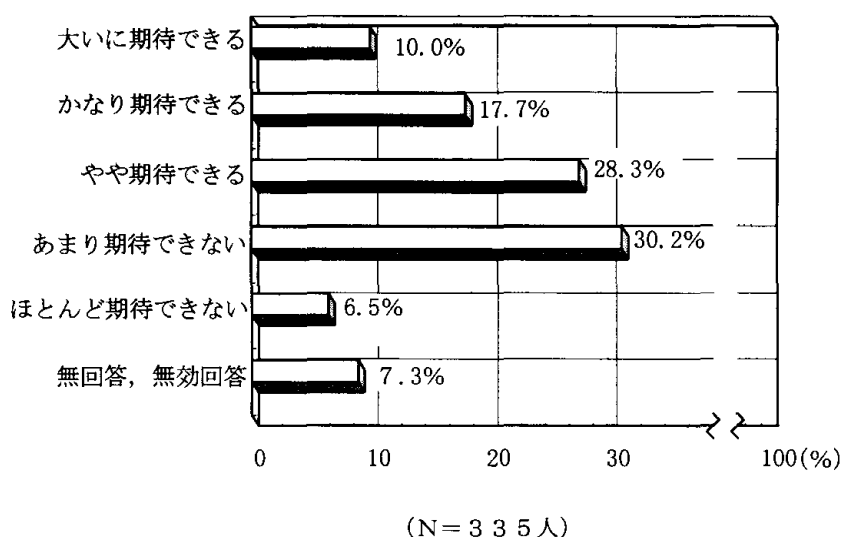


図-2.19 火山観光化への期待度

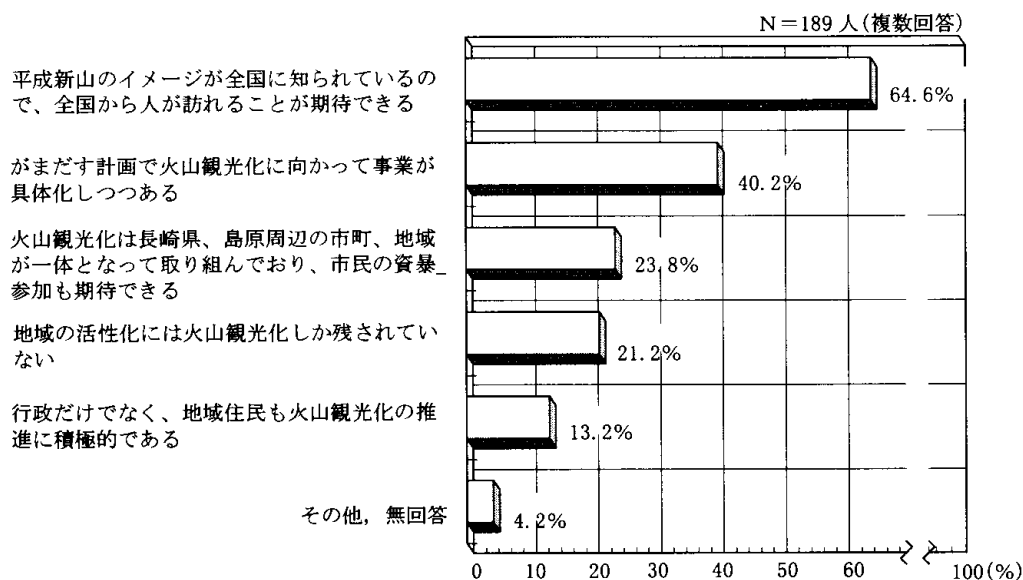


図-2.20 火山観光化に期待できる理由

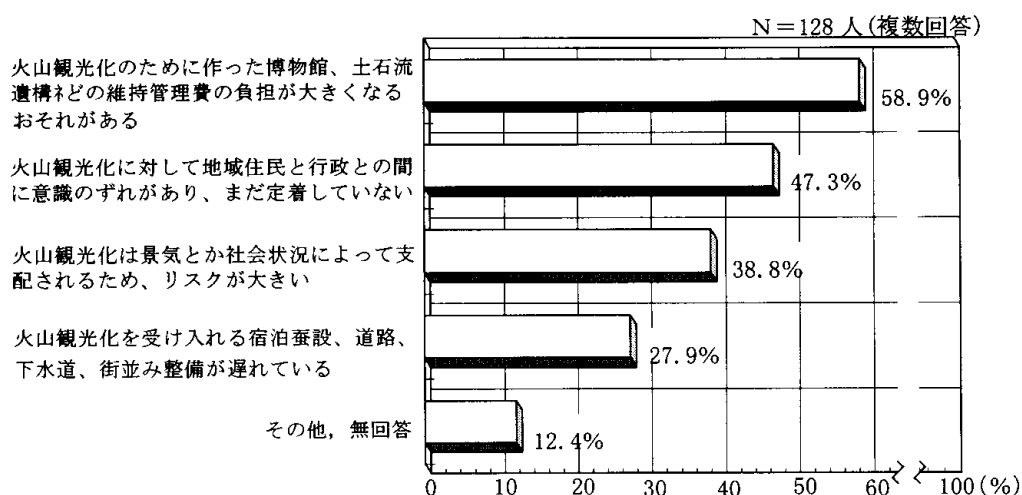


図-2.21 火山観光化に期待できない理由

2. 7 深江町復興計画¹⁾について

平成5年5月に深江町は「深江町復興計画¹⁾」を策定した。この計画は、今回の噴火災害によって被害を受けた深江町の復興と発展、そして郷土全域の防災対策の再編成と農水産業の建て直しを図ろうとするもので、生活再建、防災まちづくりおよび地域振興の3つの柱からなる。「平成5年5月に深江町復興計画¹⁾が策定されたことを知っているか」という問に対して、「はい」とする回答は59.8%となっており、町の最重要課題であるにもかかわらず、周知の割合は高くない(図-2.22)。さらに、「はい」と回答した人に「深江町復興計画への地域住民意向の反映状況」を聞いたところ、図-2.23ような回答結果が得られている。「よく反映されている」と「だいたい反映されている」とを合わせた回答は、48.3%にとどまっており、深江町復興計画の策定時において行政と地域住民との合意形成が十分になされていないようである。「深江町

復興計画に基づいた復興が図られているかどうか」という問に対しては、「はい」と回答したのは58.4%で必ずしも高くない(図-2.24)。

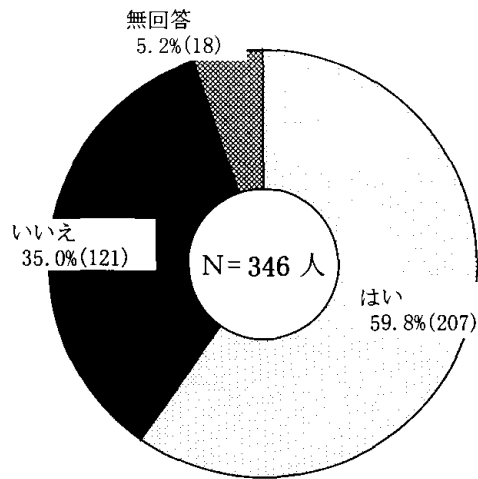


図-2.22 深江町復興計画の策定を知っているかどうか

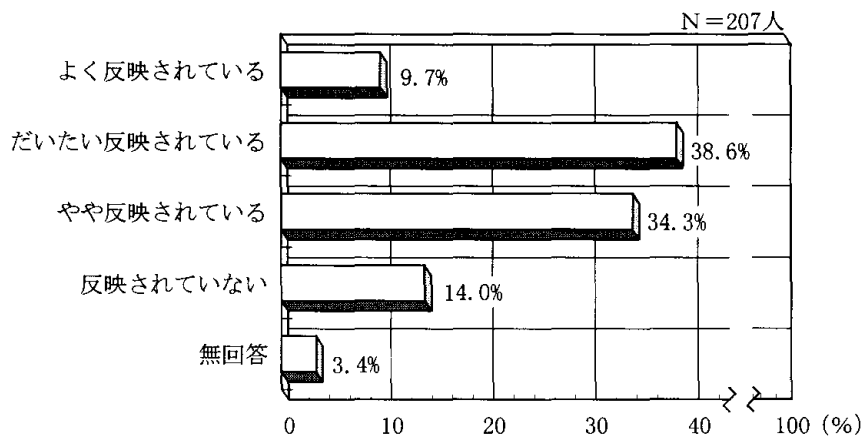


図-2.23 深江町復興計画への地域住民意向の反映状況

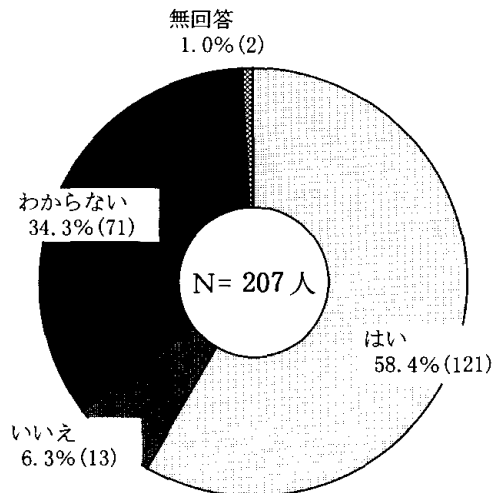


図-2.24 深江町復興計画に基づいた復興が図られているかどうか

また、「深江町復興計画は生活再建，防災まちづくりおよび地域振興の3つを柱としているが、これら
 のことについて知っているか」という問に対しては図-2.25のように、72.9%が「知っている」と回答してお
 り、「生活再建で挙げられている主要項目の達成状況」，「防災まちづくりで挙げられている主要項目の達
 成状況」および「地域振興で挙げられている主要項目の達成状況」がどの程度であるかを100%，70%，
 50%，20%，0%の5段階で評価してもらった結果を図-2.26，図-2.27および図-2.28に示す。「生活再建」
 のうち、「公営住宅の確保」および「住宅団地の確保」については「70%」および「100%」達成したとする
 回答がそれぞれ80.4%、78.6%となっており、緊急対策である生活再建についてはほぼ完成していることを
 地域住民は認めている。「防災まちづくり」に関しては、全ての項目において「70%」および「100%」完成
 したとする判断が約60%となっている。さらに「地域振興」については、恒久対策である「農地復旧」，
 「水産基盤の再整備」および「災害遺物の保存」については「70%」および「100%」達成した回答はそれぞ
 れ66.0%、46.3%、49.7%となっている。「火山観光化施設の整備」は「70%」および「100%」とする回答
 が30.3%にとどまっており、これからの課題であると住民は思っている。

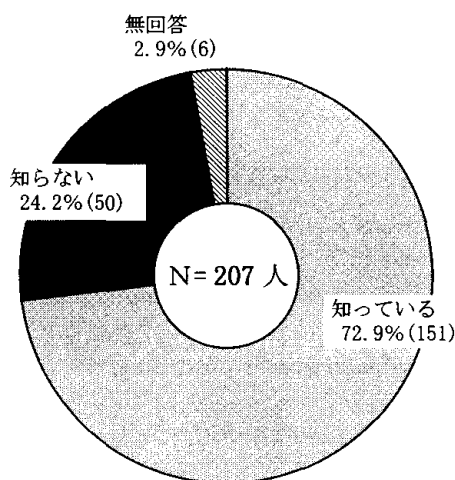


図-2.25 深江町復興計画は生活再建，防災まちづくり
 および地域振興のことについて知っているか

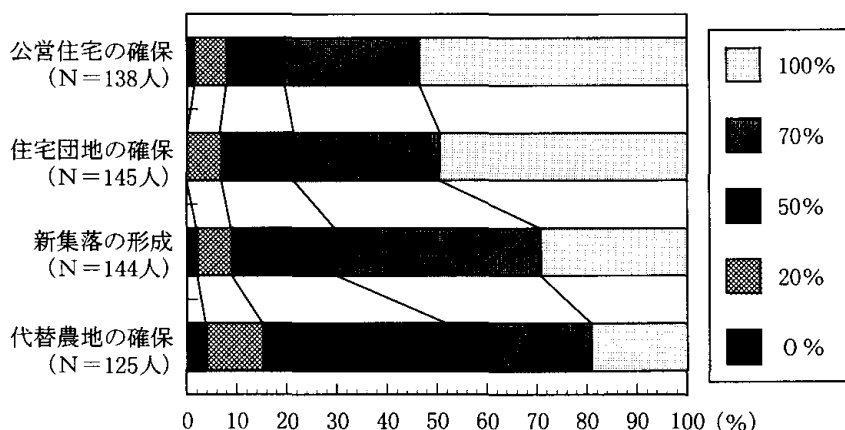


図-2.26 生活再建で挙げられている主要項目の達成状況
 (無回答，無効回答を除く)

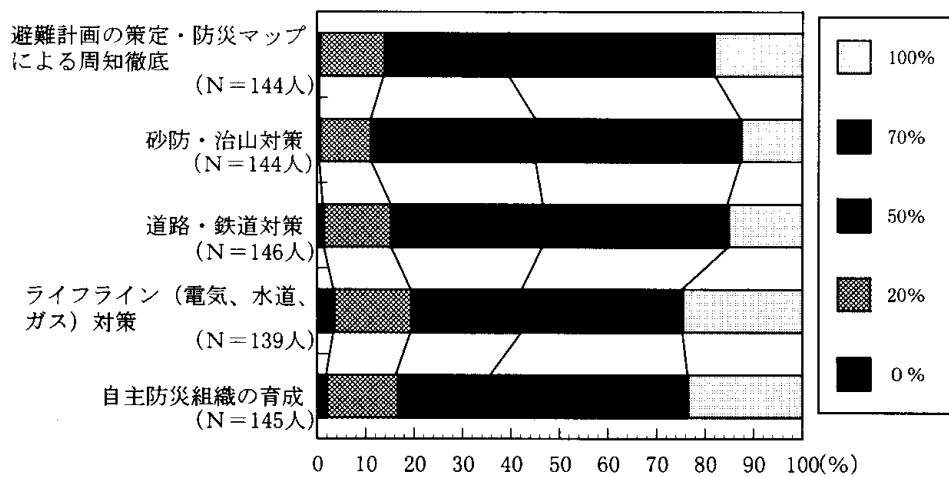


図-2.27 防災まちづくりで挙げられている主要項目の達成状況
(無回答, 無効回答を除く)

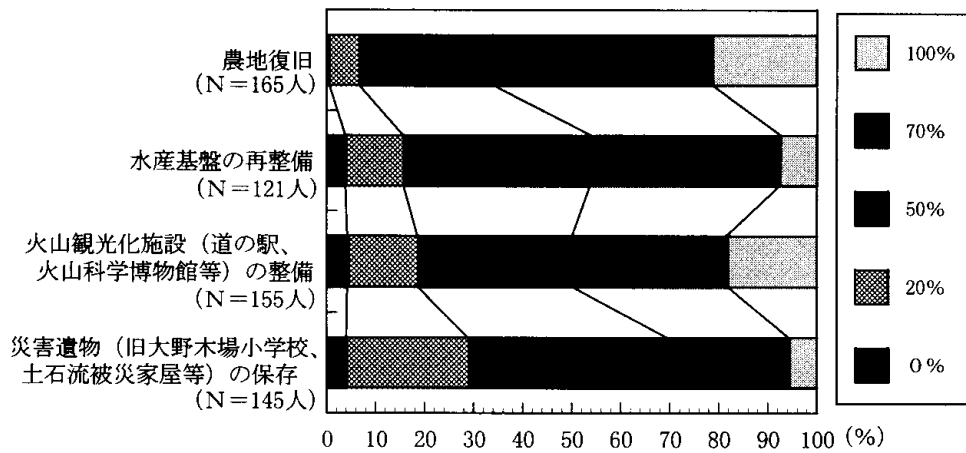


図-2.28 地域振興で挙げられている主要項目の達成状況
(無回答, 無効回答を除く)

次に、「平成8年に建設省の雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っているか」を聞いたところ、図-2.29の回答が得られている。「よく知っている」および「だいたい知っている」とする回答は34.4%となっており、「知っている」とする割合は高くない。「平成9年には環境庁及び長崎県によって国立公園雲仙の緑のダイヤモンド計画（雲仙ルネッサンス計画(仮称)）が策定されたことを知っているか」という問に対しては、「よく知っている」および「だいたい知っている」と回答したのは24.0%にとどまっている(図-2.30)。「雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想」および国立公園雲仙「緑のダイヤモンド計画（雲仙ルネッサンス計画(仮称)）」は噴火災害を受けた地域復興を支えるもので、あるが住民への浸透はまだまだ不十分といえる。

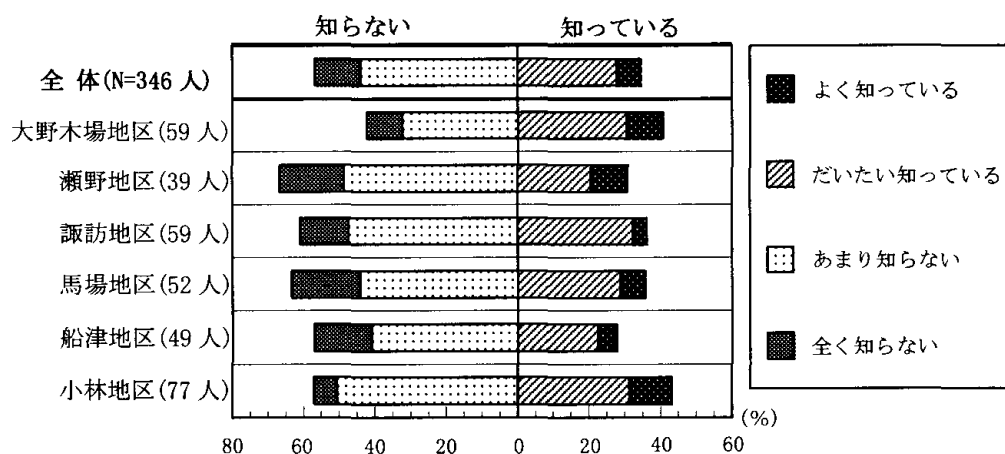


図-2.29 雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想の策定を知っているか（無回答、無効回答を除く）

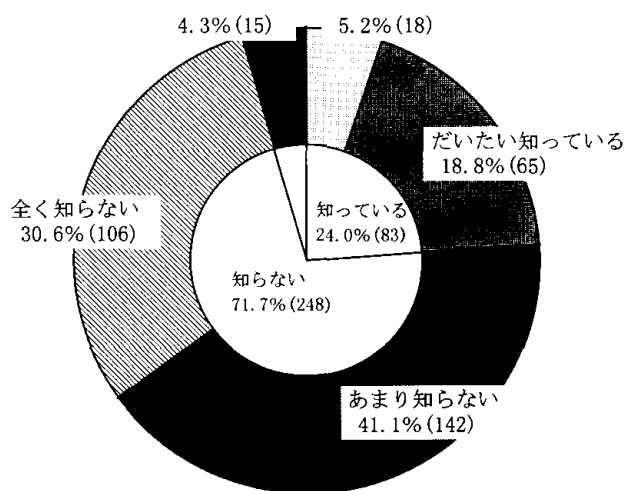


図-2.30 緑のダイヤモンド計画（雲仙ルネッサンス計画(仮称)）の策定を知っているかどうか

今回の雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、「今後必要な災害対策」を挙げてもらったところ、表-2.12の

結果となった。「道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保」が最も高く45.2%、次いで「火山保険制度(損害保険)」(42.8%)、「九州大学島原地震火山観測所の充実」(37.9%)と続いている。さらに、避難・非避難対象地域と2つの地域区分で今回の災害による被災体験の有無で比較した結果を表-2.13に示す。「火山保険制度」,「雲仙災害対策基金のような基金創設」,「応急仮設住宅の住環境改善」および「積極的な応急・緊急対策の導入」などの具体的な対策は非避難対象地域よりも避難対象地域で必要とされている。逆に非避難対象地域で重要とされているのは、「道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保」,「九州大学島原地震火山観測所の充実」および「復興・復旧に対する情報提供システム」などの一般的な対策である。

表-2.12 今後必要な災害対策 (全体)

		N=346人(複数回答)	
項目		人数(人)	(%)
道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保		156	45.2
火山保険制度(損害保険)		148	42.8
九州大学島原地震火山観測所の充実		131	37.9
雲仙災害対策基金のような基金創設		115	33.2
復興・復旧に対する情報提供システム		112	32.4
応急仮設住宅の住環境改善(広さ、防音、温度)		109	31.5
災害対策基本法の改正(警戒区域設定権者変更、損失補償など)		104	30.1
積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤、矢板工など)の導入		103	29.8
商工業などの間接被害に対する救済対策		93	26.9
防災ボランティアの活動		85	24.6

表-2.13 今後必要な災害対策 (地域別)

		N=346人(複数回答)	
順位	項目	避難対象地域(N=157人)	非避難対象地域(N=178人)
1	火山保険制度(損害保険)	(47.8%)	道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保(45.5%)
2	道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保	(45.9%)	火山保険制度(損害保険)(39.3%)
3	雲仙災害対策基金のような基金創設	(42.0%)	九州大学島原地震火山観測所の充実(38.2%)
4	九州大学島原地震火山観測所の充実	(38.9%)	復興・復旧に対する情報提供システム(32.0%)
5	応急仮設住宅の住環境改善(広さ、防音、温度)	(36.9%)	雲仙災害対策基金のような基金創設
6	積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤、矢板工など)の導入		商工業などの間接被害に対する救済対策(27.5%)
7	復興・復旧に対する情報提供システム	(35.0%)	応急仮設住宅の住環境改善(広さ、防音、温度)
8	商工業などの間接被害に対する救済対策	(33.8%)	災害対策基本法の改正(警戒区域設定権者変更、損失補償など)(27.0%)
9	災害危険地の土地の買い上げ制度	(30.6%)	海上輸送路の確保(25.8%)
10	防災ボランティアの活動	(28.0%)	積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤、矢板工など)の導入(24.2%)

また、深江町で行われている事業10項目の進捗状況が噴火災害によってどうなったかを「進んだ」、「無関係」および「停滞した」の3段階で評価をしてもらったところ、図-2.31のような結果となった。「自主防災組織の育成」、「公営住宅の整備」および「農地の施設化」で「進んだ」とする回答がそれぞれ77.2%、77.0%、76.0%と多く、深江町復興計画において緊急対策として優先的に進められていたことを反映した結果となっている。一方、「停滞した」とする回答は「企業の誘致」(42.0%)、「水産業対策」(22.1%)、「近隣との人間関係」(15.2%)の順となっている。

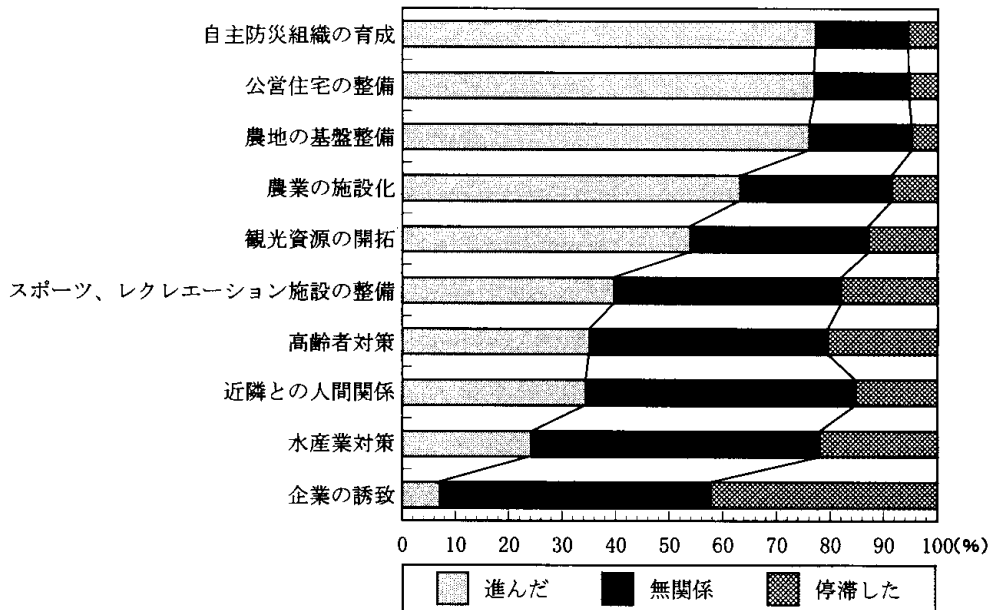


図-2.31 噴火災害による深江町に関する事業の進捗状況

2. 8 旧大野木場小学校被災校舎現地保存構想について

まず、「平成5年5月に策定された深江町復興計画¹⁾」の中に、旧大野木場小学校被災校舎を現地保存し、学習体験型の観光施設を整備する『大野木場災害メモリアル構想』が含まれていることを知っているか」という質問に対して、76.7%が「知っている」と回答している(図-2.32)。また、「平成10年3月に旧大野木場小学校被災校舎を現地保存する計画がまとまったことを知っているか」に対しても、86.9%が「知っている」と回答している(図-2.33)。いずれも、「知っている」と回答した人の割合が高く、旧大野木場小学校被災校舎の現地保存に関して、深江町住民の関心の高さがうかがえる。

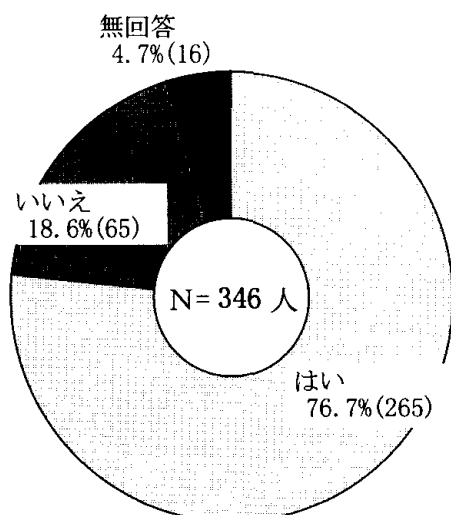


図-2.32 復興計画に大野木場災害メモリアル構想が含まれていることを知っているか

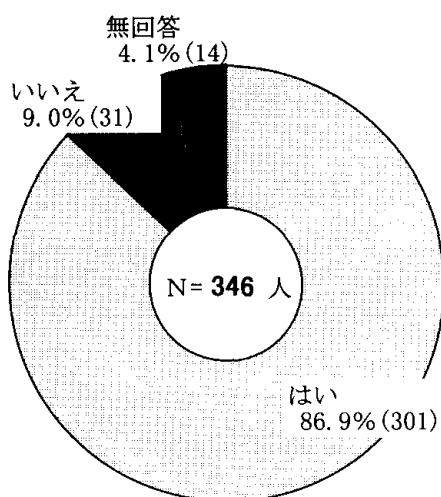


図-2.33 旧大野木場小学校被災校舎の現地保存決定を知っているかどうか

また、被災校舎の保存計画において保存校舎を外部から見学できるようにし、当面は校舎内に入れないことが決められているが、「見学者を校舎内に入れることに関してどう思うか」という質問に対して、図-2.34に示す結果となっている。「賛成」か「反対」かと言えば、「賛成」と回答した人の割合の方が多い。しかし、全体的には「どちらとも言えない」という回答が賛成を上回っている。賛成の理由および反対の理由として、こちらでいくつか項目を設定して選んでもらったところ、表-2.14, 表-2.15に示す結果となっている。賛成の理由は、圧倒的に「見学者に与える火砕流による災害を実感させることができる」という回答が多くなっている。反対の理由としては、「維持管理費が多くなる」と

いう回答が多い。以下「校舎の外側から内部が見えるように工夫すれば十分である」、「被災校舎はモニュメントとしてあのままの姿を保てば十分であり、周辺を整備すればよい」、「人を入れるための改

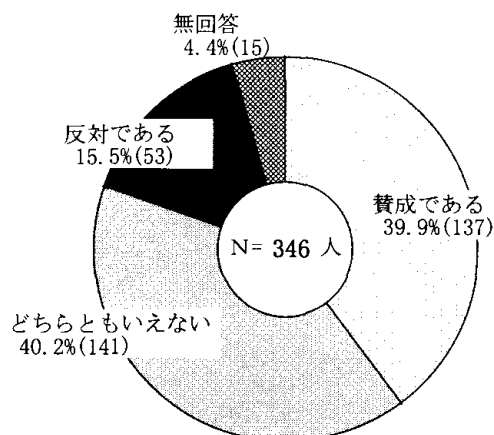


図-2.34 校舎内に見学者を入れることについての賛否

表-2.14 校舎内に人を入れることに賛成の理由

項目	人数(人)	(%)
見学者に与える火砕流による災害を実感させることができる	104	75.9
外からの見学だけではインパクトが弱い	69	50.4
校舎内を学習・体験の場として活用すべきである	67	48.9
校舎の一部を資料室や説明室として活用できる	50	36.5
その他	4	2.9
無回答	4	2.9

表-2.15 校舎内に人を入れることに反対の理由

項目	人数(人)	(%)
校舎内に人を入れた場合には、安全管理のための施設や人の配置で維持管理費が多くなる	37	69.8
校舎の外側から内部が見える工夫をすれば十分である	25	47.2
被災校舎は、モニュメントとしてあのままの姿を保てば十分である。学習・体験のための施設は周辺に整備すればよい	23	43.4
校舎内に人を入れるとなると、校舎内の改修などで整備費がかかるから無理である	22	41.5
その他	2	3.8

修などで整備費がかかる」と続き、ほぼ同じ割合となっている。

次に、「大野木場災害メモリアル構想は深江町が復興計画で目指している火山観光化に役立つと思うか」という質問の結果を図-2.35に示す。「大いに期待できる」および「かなり期待できる」を合わせた期待できるとする割合と「やや期待できる」および「あまり期待できない」の割合がほぼ同程度ということから、住民の判断が分かれているといえる。しかし、この質問に対して地区別に集計した結果は表-2.16のようになる。大野木場以外の地区はいずれも「やや期待できる」および「あまり期待できない」という回答が多いのに対して、大野木場地区だけが「かなり期待できる」とする回答が多くなっている。つまり、深江町全体の大野木場メモリアル構想による火山観光化への期待は高いとは言えないが、地元の大野木場地区の期待は高いと言える。「期待できる理由」および「期待できない理由」を表-2.17および表-2.18に示す。期待できる理由は、「砂防指定地利活用構想の中で、体験学習型ゾーンと位置付けられているので、被災校舎を中心とした大野木場地区の火山観光化のための施設が本格的に整備されることが期待できる」、「火山観光化のための施設が水無川流域に整備されるので、深江町の観光事業への進出や雇用の拡大が期待できる」とする回答が多く挙げられた。また、期待できない理由としては、「火山観光化施設の維持管理費が大きくなる」および「交通アクセス」などを心配する回答が多く挙げられた。

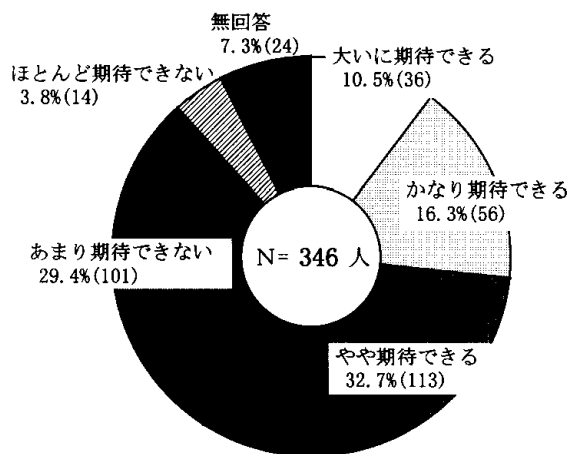


図-2.35 大野木場災害メモリアル構想による火山観光化への期待度

表-2.16 大野木場災害メモリアルによる火山観光化への期待度 (地区別)

単位：%, □：1位項目

地区名	大野木場	瀬野	諏訪	馬場	船津	小林
大いに期待できる	15.3	15.4	11.8	3.8	12.2	6.5
かなり期待できる	28.8	15.4	10.2	17.3	10.2	15.6
やや期待できる	23.7	28.2	37.3	34.7	34.7	38.9
あまり期待できない	15.3	28.2	33.9	36.6	28.6	31.2
ほとんど期待できない	3.4	5.1	3.4	3.8	6.1	3.9
無回答	13.5	7.7	3.4	3.8	8.2	3.9

表-2.17 大野木場災害メモリアルによる火山観光に期待できる理由

N=205人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
火山観光化のための施設が水無川流域に整備されるので、深江町の観光事業への進出や雇用の拡大が期待できる	96.0	47.1
国道57号より上流部に体験学習型ゾーンの中核である被災校舎の保存が決まり、砂防指定地の利活用構想で体験学習型ゾーンと位置付けられているので、被災校舎を中心とした大野木場地区の火山観光化のための施設が本格的に整備されることが期待される	93.0	45.6
火砕流による被災施設は、全世界に例のない被災校舎だけであるため、日本・国外からの見学者が増えることが期待される	82.0	39.7
火山を活用した各種のイベントや研修会などを誘致する場合のPR効果が期待できる	63.0	30.9
その他	3.0	1.5

表-2.18 大野木場災害メモリアル構想による火山観光化に期待できない理由

N=115人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
火山観光化の施設の維持管理費などの負担が大きくなるおそれがある	66.0	57.0
水無川下流域の島原火山科学博物館(仮称)、道の駅やふかえ桜パークなどの観光施設から離れているので、人が集まりにくい	46.0	40.4
国道57号からの道路の幅員が狭いので、大型車両が入りにくい	40.0	35.1
観光は景気などの経済状態で危険性を伴うから発生しにくい	39.0	34.2
その他	8.0	7.0
無回答	4.0	3.5

2. 9 がまだす計画²⁾について

平成9年3月に長崎県は「がまだす計画」(島原地域再生行動計画)²⁾を策定した。この計画は、噴火災害で多大なる被害を受けた島原半島全域を視野に入れた活性化および産業・経済の発展、さらに島原地域の本格的な復興の推進を目的とするものである。この策定を知っているかを聞いたところ、図-2.36のよう

な結果となっている。「知っている」と回答したのは78.0%と地域に浸透している。このうち内容まで「よく知っている」および「だいたい知っている」のは34.8%となっている(図-2.37)。がまだす計画策定にあたっては地域住民の意見、アイデアを反映し、テレビ、新聞、ラジオなどのマスコミによる広報、さらにポスターの配布により地域住民に呼びかけた結果を反映している。ほぼ同時期に策定された建設省の「雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想」などに比べて策定されたことが広く知られているといえる。

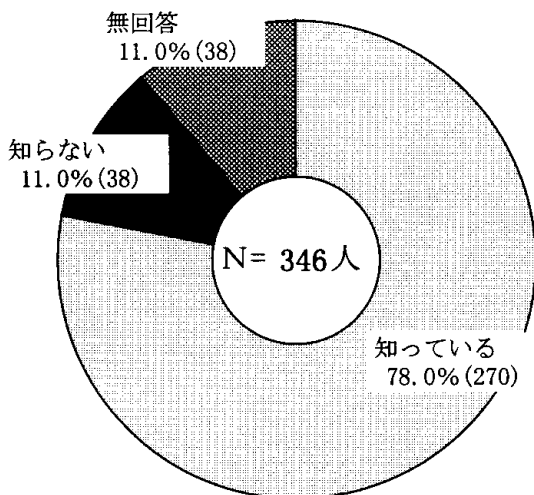


図-2.36 がまだす計画の策定を知っているかどうか

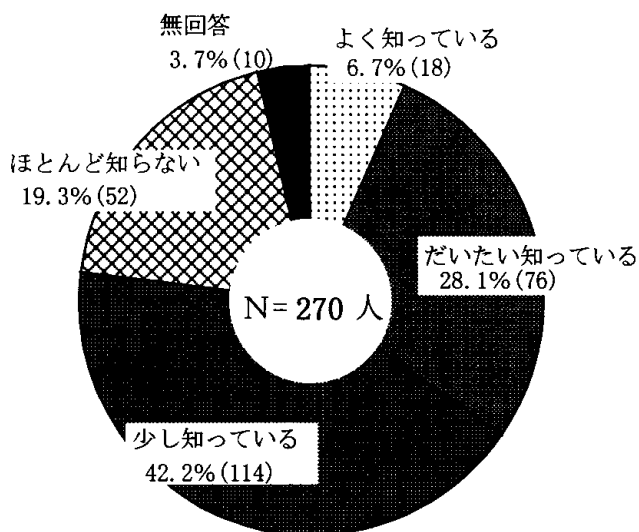


図-2.37 がまだす計画の内容を知っているかどうか

次に、がまだす計画の27重点プロジェクトのうち、重要だと思うプロジェクトを5つ挙げてもらったところ表-2.19のような結果となった。「地域高規格道路(島原道路)の整備事業」(50.0%)が1位となっていることは、生活の不便・不満で「交通の便」が1位となっていたことから納得できる(表-2.6)。2位には「復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え)」(45.7%)となっている。この上位の2つの事業は今回の噴火災害の復興には直接関係ないが島原地域の弱点をカバーするために、目玉とされるもので

ある。第3位に深江町の基幹産業の農業の再生を目指した「島原・深江地区農地区画整備事業」(36.1%)が続いている。安全を守るための水無川・湯江川流域の防災対策事業は4位(33.2%)となっている。重要な課題であるが、がまだすと直接関係が薄いためこのような結果となったと考えられる。また、深江町での火山観光化としての事業である「道の駅」(29.8%)、「島原火山科学博物館(仮称)建設事業」(19.7%)および「土石流災害遺構保存公園(仮称)」(12.0%)となっている。地区別、職業別に見た結果を表-2.20、表-2.21に示す。地区別では、表の「瀬野地区」での「道の駅整備事業」が48.0%と最も高い。この地区が、事業箇所であるため期待が高い。また、「専門職・自由業」で「復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え)」が75.0%と目立って高い。職業別では、「農林業」で59.4%の「島原・深江地区農地区画整備事業」が1位に、「担い手育成畑地帯総合整備事業」(31.3%)が4位となっている。

表-2.19 がまだすと計画のうち重要だと思うプロジェクト
(全体、上位10個)

N=208人(5個回答)

項目	人数(人)	(%)
地域高規格道路(島原道路)の整備事業	104	50.0
復興記念病院(仮称)建設事業 (島原温泉病院の建て替え)	95	45.7
島原・深江地区農地区画整備事業	75	36.1
水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	66	33.2
道の駅整備事業	62	29.8
島原半島広域観光ルート形成事業	50	24.0
街並み整備事業	43	20.7
島原火山科学博物館(仮称)建設事業	41	19.7
砂防指定地利活用推進事業	36	17.3
高等看護学校の設置事業	36	17.3

表-2.20 がまだすと計画のうち重要だと思うプロジェクト
(地区別、上位10個)

N=208人(5個回答)

順位	1	2	3	4	5
地区					
大野木場 (N=34人)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (41.2%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (38.2%)	島原・深江地区農地区画整備事業	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 島原半島広域観光ルート形成事業 (32.4%)	
瀬野 (N=25人)	道の駅整備事業 (48.0%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (40.0%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (43.2%)	道の駅整備事業 (32.4%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (36.0%)
諏訪 (N=37人)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (54.1%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (45.9%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (43.2%)	道の駅整備事業 (32.4%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (29.7%)
馬場 (N=30人)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (60.0%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (50.0%)	島原火山科学博物館(仮称)建設事業 (33.3%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (30.0%)	道の駅整備事業 島原半島市町村合併調査検討事業 (426.7%)
船津 (N=30人)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (50.0%)	道の駅整備事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (40.0%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (43.2%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (36.7%)	島原・深江地区農地区画整備事業 高等看護学校の設置事業 がまだすと計画推進のための基金設置事業 (23.3%)
小林 (N=50人)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (54.0%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (50.0%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (42.0%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (32.0%)	街並み整備事業 (28.0)

表-2.21 がまだす計画のうち重要だと思うプロジェクト
(職業別、上位10個)

N=208人(5個回答)

地区	順	1	2	3	4	5
農 林 業 (N=32人)		島原・深江地区農地区画整備事業 (59.4%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (46.9%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (34.4%)	担い手育成畑地帯総合整備事業 (31.3%)	がまだす計画推進のための基金設置事業 (12.5%)
自営工業 (N=2人)		水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (100.0%)		道の駅整備事業 地域高規格道路(島原道路)の整備事業 島原半島商工業振興支援事業 高等看護学校の設置事業 島原半島市町村合併調査検討事業 がまだす計画推進のための基金設置事業 (50.0%)		
自営商業 (N=12人)		水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (50.0%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (41.7%)	街並み整備事業 島原・深江地区農地区画整備事業 無回答、無効回答 (33.3%)		
公 務 員 (N=17人)		地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (64.7%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (52.9%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 島原半島市町村合併調査検討事業 (35.3%)	島原火山科学博物館(仮称)建設事業 (29.4%)	
会 社 員 (N=37人)		地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (62.2%)	復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (48.6%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 島原半島商工業振興支援事業 (32.4%)	島原半島広域観光ルート形成事業 (29.7%)	
専 門 職・ 自 由 業 (N=8人)		復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (75.0%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 島原・深江地区農地区画整備事業 (50.0%)	道の駅整備事業 島原半島市町村合併調査検討事業 (37.5%)		
家 庭 婦 人 (N=17人)		地域高規格道路(島原道路)の整備事業 島原半島広域観光ルート形成事業 (47.1%)		道の駅整備事業 (41.2%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (29.4%)	街並み整備事業 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 島原火山科学博物館(仮称)建設事業 土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業 復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) がまだす計画推進のための基金設置事業 (23.5%)
無 職 (N=57人)		復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え) (49.1%)	島原・深江地区農地区画整備事業 (45.6%)	道の駅整備事業 (42.1%)	地域高規格道路(島原道路)の整備事業 (40.4%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (36.8%)

また、「がまだす計画の地域住民への反映状況」を聞いたところ、図-2.38の結果が得られている。「反映されている」とする見方が大部分を占める。「がまだす計画の島原地域の振興・活性化への期待度」については、「大いに期待できる」と「かなり期待できる」を選択したのは60.1%で、期待がもたれている。地区別に見ると、被災地区である「大野木場地区」および「瀬野地区」の期待が高く、職業別では「公務員」の期待度が低いことが気になりな点である(図-2.39, 図-2.40)。

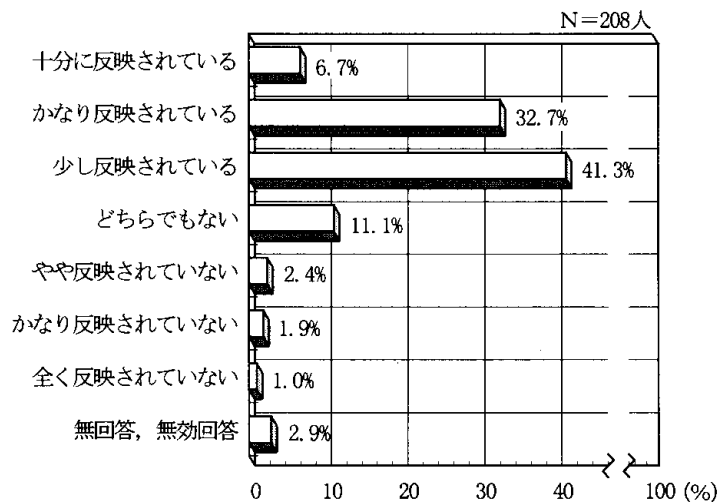


図-2.38 がまだす計画への地域住民意向の反映状況

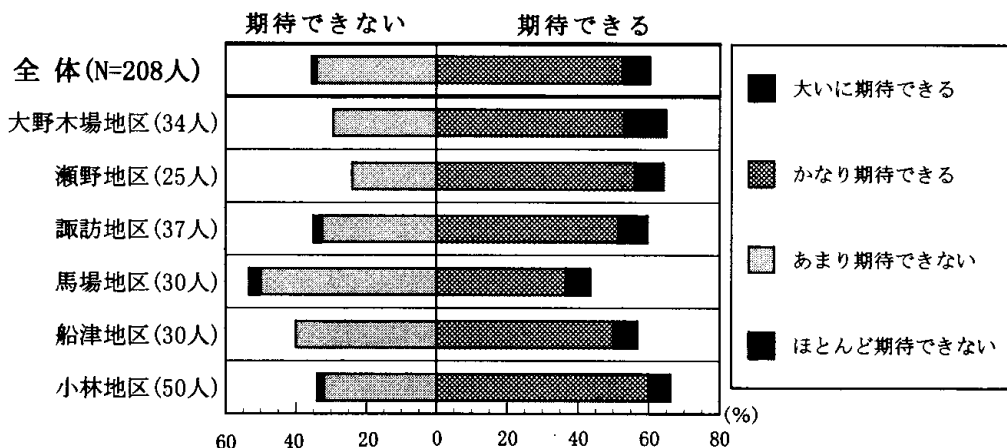


図-2.39 がまだす計画の島原地域の振興・活性化への期待度 (地区別)

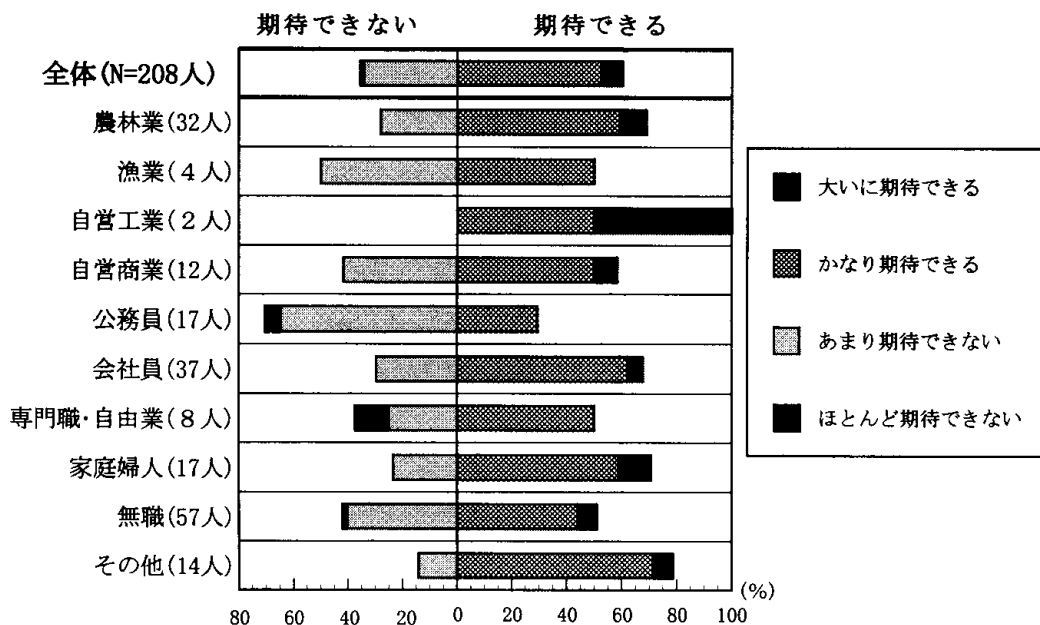


図-2.40 がまだす計画の島原地域の振興・活性化への期待度 (職業別)

さらに、「期待できる理由」および「期待できない理由」は、それぞれ図-2.41、図-2.42の結果となっている。「期待できる理由」としては、「島原地域と行政が一体となった取り組みで策定された計画で実現の可能性が高い」が60.6%と最も高い。一方、「自主性に乏しく、他人任せの姿勢が行政にも住民にもあるから」(67.6%)が期待できない理由となっている。

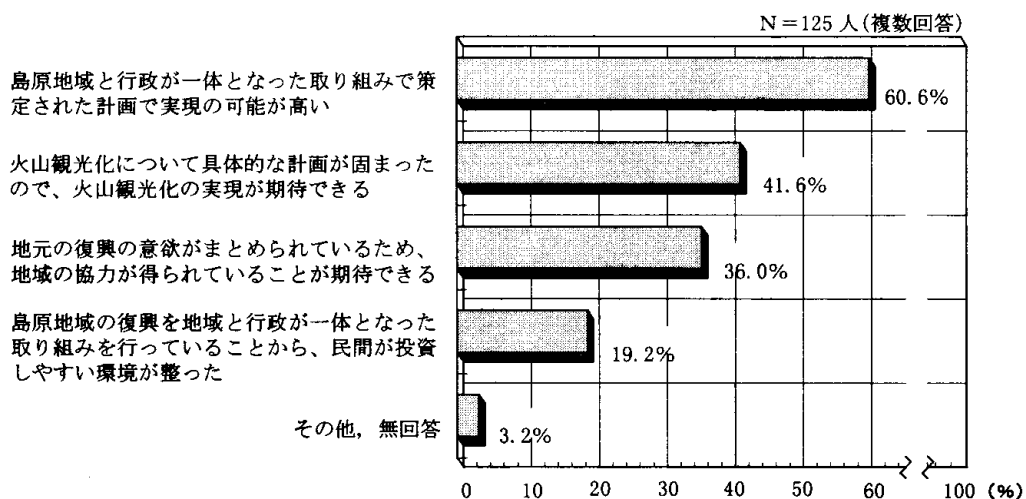


図-2.41 がまだす計画による島原地域の振興・活性化が期待できる理由

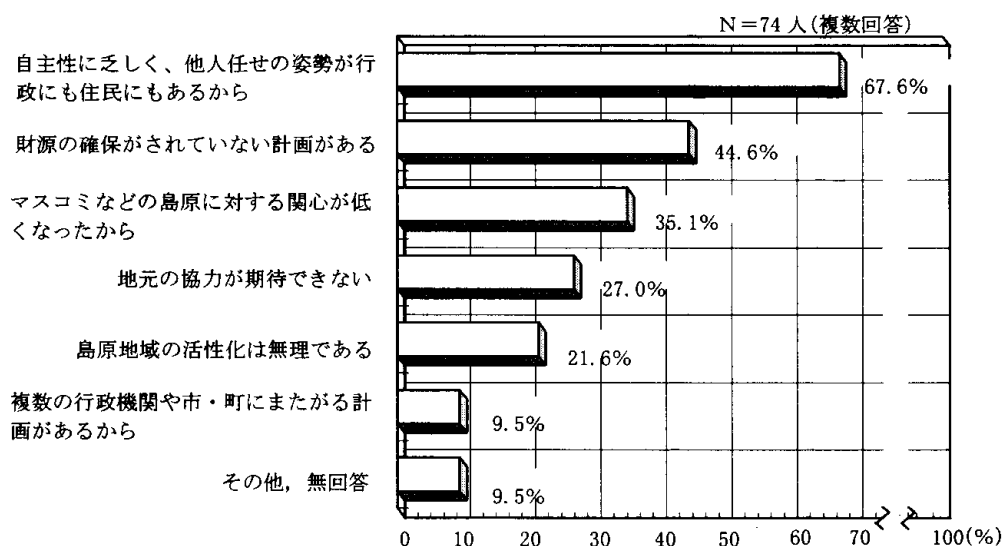


図-2.42 がまだす計画による島原地域の振興・活性化が期待できない理由

2. 10 災害時の避難対策について

平成6年6月に深江町が作成した土石流、火砕流に対する避難方法などを示した防災マップや防災ガイドブックが各世帯に配布された。「これらを見たことがあるかどうか」を聞いたところ、図-2.43のような結果が得られている。「見たことがある」と回答したのは、69.1%にとどまっている。地区別に見ると「大野木場地区」では、「見たことがある」とする回答が55.9%と他の地区に比べると低い(図-2.44)。この時期には、大野木場地区では警戒区域が設定されていたため、住民は応急仮設住宅などへ避難中であり、このような結果となったと考えられる。さらに、「見たことがある」と回答した人に「防災マップは今どのようにしているか」を聞いたところ、「どこにあるかわからない」とする回答が47.7%に対し、「家の中のわかりやすいところに貼ってある」と回答したのはわずか17.6%であり、噴火活動が終息した現在、防災マップはあまり活用されていないようである(図-2.45)。

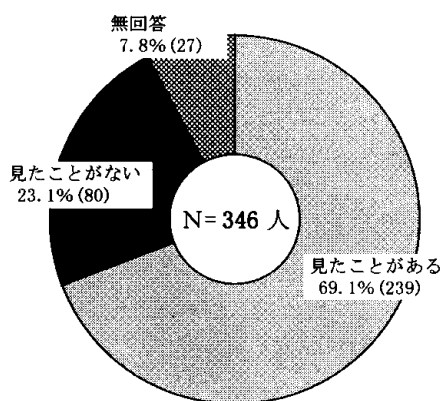


図-2.43 防災マップや防災ガイドブックを見たことがあるかどうか(全体)

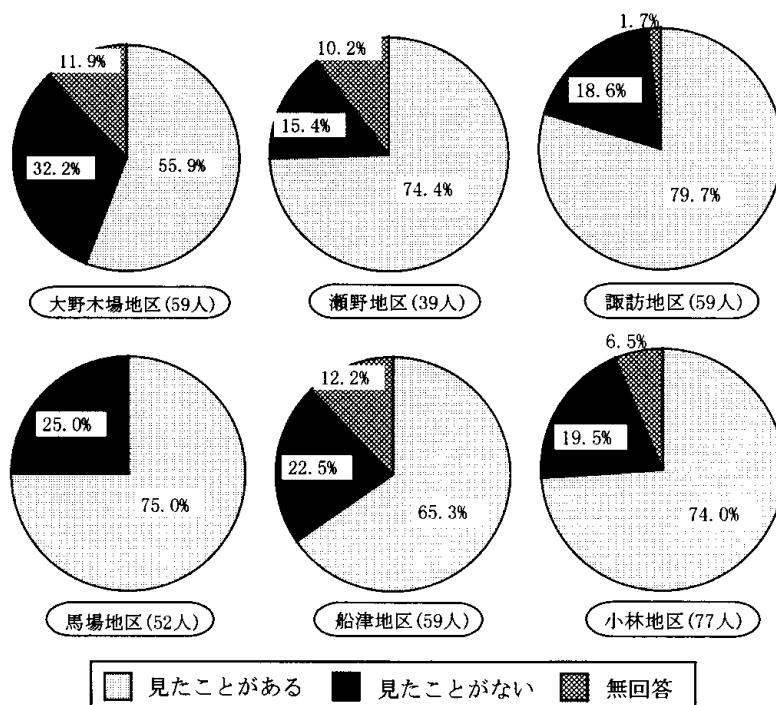


図-2.44 防災マップや防災ガイドブックを見たことがあるかどうか(地区別)

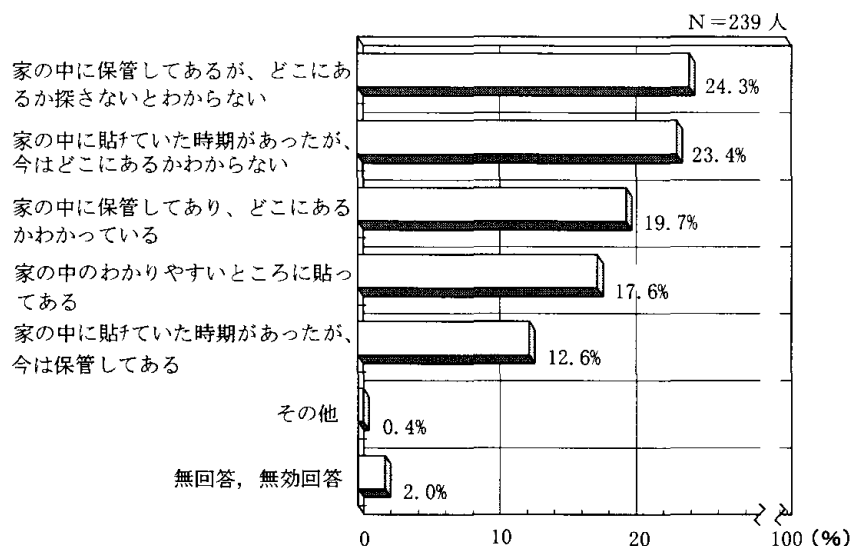


図-2.45 防災マップは今どのようにしているか

また、「住まいの自治会で避難訓練が行なわれたことがあるかどうか」という問に対する回答結果を図-2.46に示す。「はい」と回答したのは60.7%で、そのうち「参加したことがある」と回答したのは69.1%となっている(図-2.47)。地区別に見ると「瀬野地区」および「船津地区」では「はい」とする回答がそれぞれ84.6%, 79.6%と高いが、「大野木場地区」および「小林地区」では「はい」とする回答が高くはなく、それぞれ45.8%, 41.6%にとどまっており、地区により避難訓練の実施に差が見られるようである(図-2.48)。

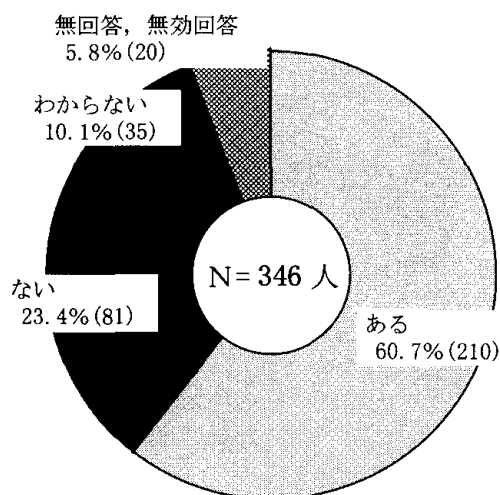


図-2.46 住まいの自治会での避難訓練の有無 (全体)

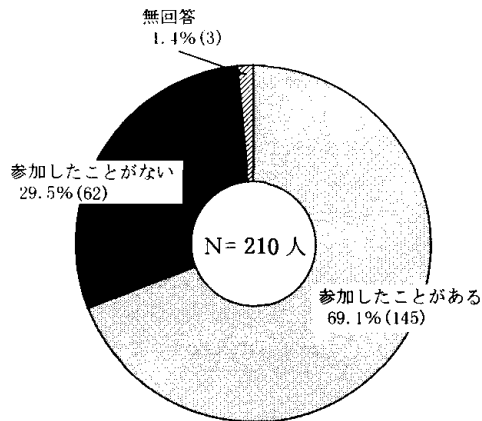


図-2.47 避難訓練への参加状況

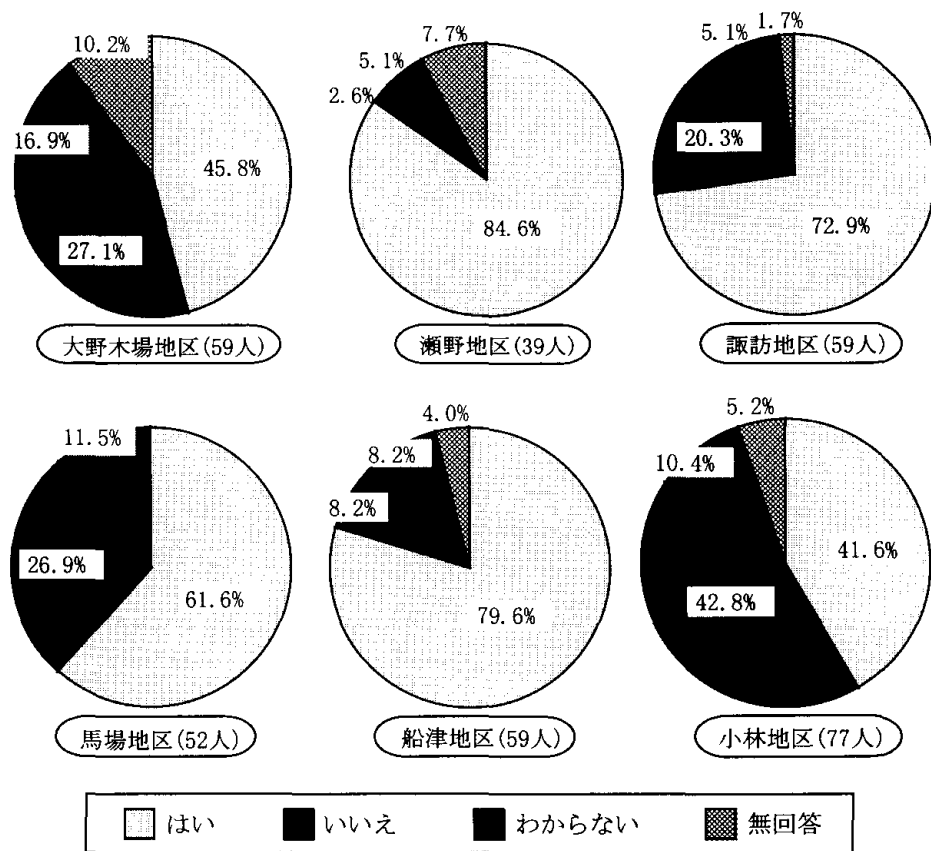


図-2.48 住まいの自治会での避難訓練の有無 (地区別)

また、「災害中に自力で避難できない人がいるか」を聞いたところ、図-2.49の結果が得られている。「避難できない人がいない」世帯は47.7%にとどまる、「65歳以上の高齢者がいる世帯」は29.2%もあり、今後高齢化が進むにつれてこの割合は高くなると考えられるため、これに備えた避難対策が必要である。

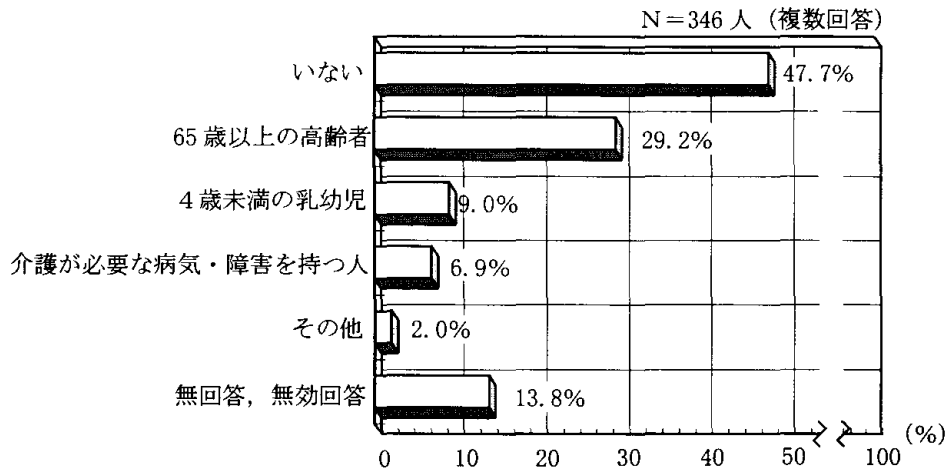


図-2.49 家族の中に自力で避難できない人がいるかどうか

次に、「住んでいる地区は土石流が発生した時の避難対象地区に含まれているか」という問に対して、「はい」は22.8%となっている(図-2.50)。そのうち、避難所を「知っている」と回答したのは87.4%と高く(図-2.51)、避難所はほぼ把握されているようである。また、避難対象地区に含まれているかどうかの地区別での比較を図-2.52に示す。水無川流域の「大野木場地区」および「瀬野地区」では「はい」とする回答が最も高く32.2%、56.4%である。他の地区では「いいえ」とする回答が「はい」に比べ高い。また、「大野木場地区」では「わからない」(27.1%)も目立つ。平成6年6月時点でまだ規制中であった地域には、再度防災マップなどを配布する必要がある。

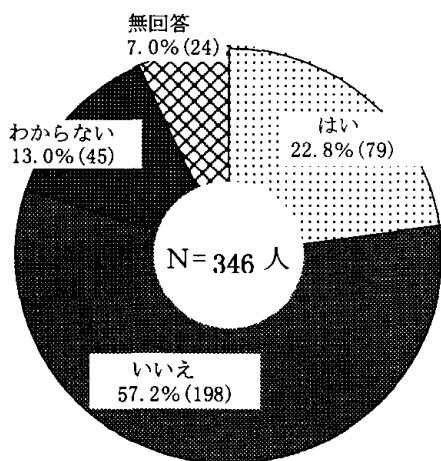


図-2.50 土石流が発生したときの避難対象地区に含まれているかどうか (全体)

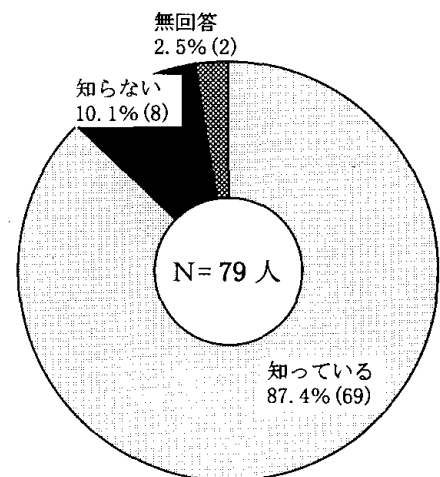


図-2.51 地区の避難所を知っているかどうか

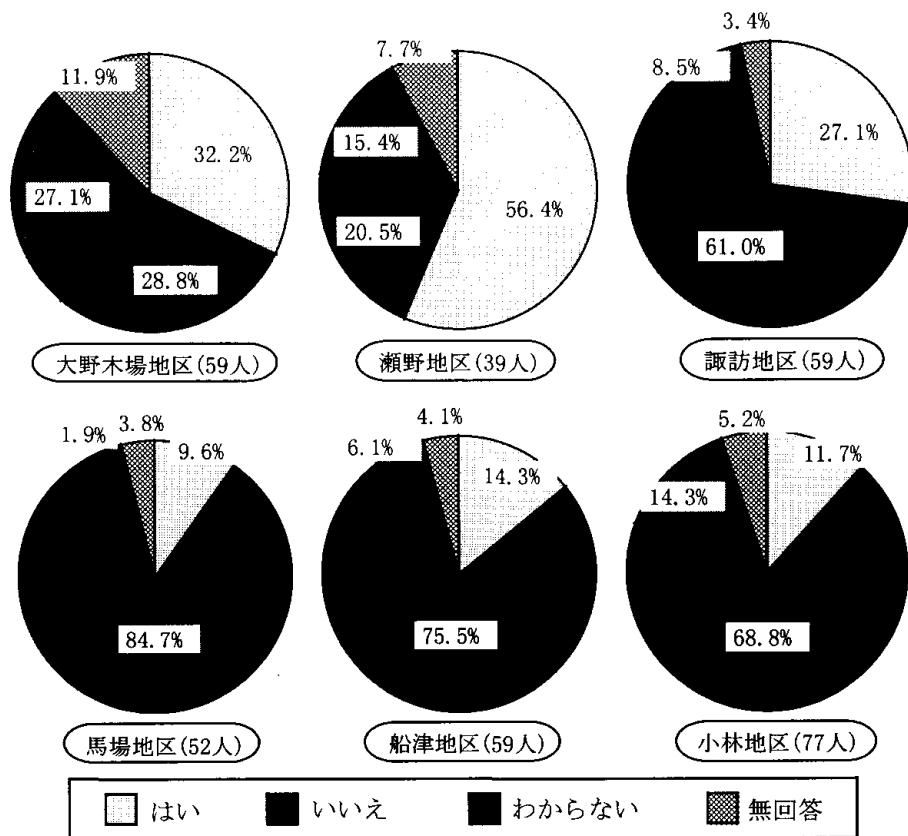
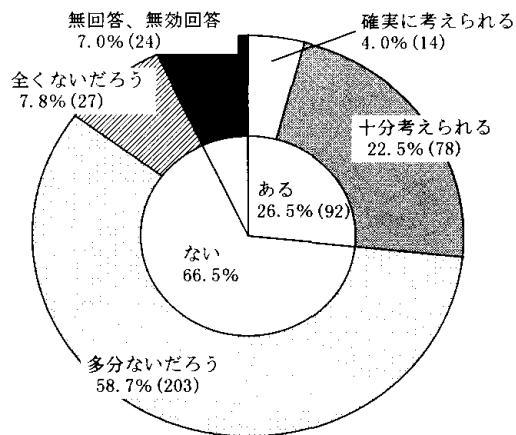


図-2.52 土石流が発生したときの避難対象地区に含まれているか (地区別)

「今後土石流に備えて避難することがあると思うか」を聞いたところ、「ない」の66.5%に対し、「ある」とする回答は26.5%となっている (図-2.53)。



(N=346人)

図-2.53 今後土石流に備えて避難することがあると思うか

2. 11 防災まちづくりについて

雲仙普賢岳の噴火活動は、平成7年3月に停止状態にあることが確認され、平成7年5月には火山噴火予知連絡会によって追認されている。そこで、「今後噴火活動はどうか」と聞いたところ、「終息したと思う」が28.6%に対して「終息したと思うが、もう1、2年様子を見ないとわからない」および「終息したとは思わない」は46.2%もあり、終息して3年が経過した現在も再噴火への不安はまだ高い割合で残っている(図-2.54)。

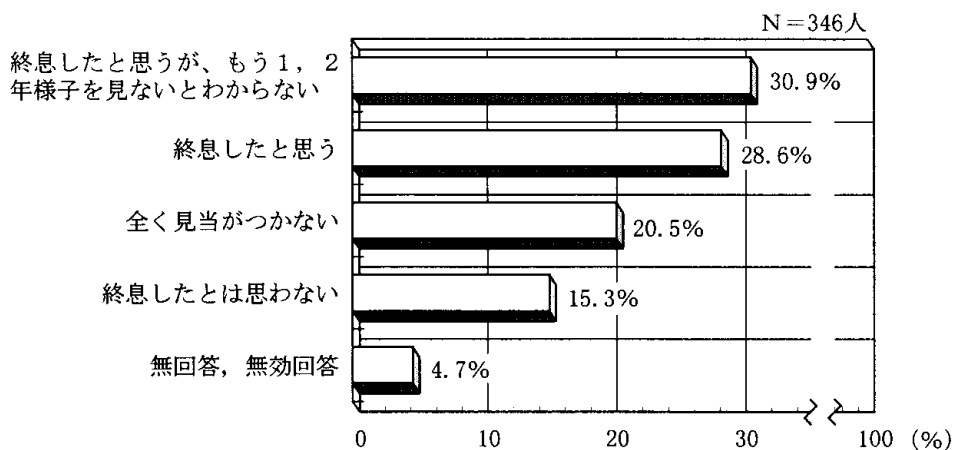


図-2.54 今後の噴火活動について

次に、「今後深江町において心配される災害」を聞いたところ、いずれの地区も「雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊」、「水無川の土石流」、「雲仙普賢岳の火砕流」、「台風による風害」が上位に位置付けられている。地区個々のものとしては、最も普賢岳に近い「大野木場地区」では「雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊」が1位(64.4%)、「瀬野地区」では「水無川の土石流」が1位(56.4%)でその割合も他の地区に比べて高くなっている(表-2.22)。有明海に面した「船津地区」、「瀬野地区」では「地震による津波」がそれぞれ1位(57.1%)、4位(28.2%)に挙げられている。地域性が見られる結果となった。

「今後雲仙普賢岳における火砕流発生の有無」および「水無川における土石流発生の有無」は図-2.55の

表-2.22 今後心配される災害 (地区別)

		N=346人(複数回答)				
順位 地区	1	2	3	4	5	
大野木場 (N=59人)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (64.4%)	台風による風害 (35.6%)	水無川の土石流 (33.9%)	雲仙普賢岳の火砕流 (22.0%)	地震による密集家屋の火災 (18.6%)	
瀬野 (N=39人)	水無川の土石流 (56.4%)	台風による風害 (48.7%)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (33.3%)	地震による津波 (28.2%)	地震による密集家屋の火災 (20.5%)	
諏訪 (N=59人)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (45.8%)	台風による風害 (42.4%)	水無川の土石流 (27.1%)	雲仙普賢岳の火砕流 (22.0%)	地震による津波 (18.6%)	
馬場 (N=52人)	水無川の土石流 雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (51.9%)	台風による風害 (36.5%)	台風による風害 (36.5%)	地震による密集家屋の火災 (25.0%)	雲仙普賢岳の火砕流 (19.2%)	
船津 (N=49人)	地震による津波 (57.1%)	台風による風害 (53.1%)	水無川の土石流 (32.7%)	地震による密集家屋の火災 (30.6%)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (28.6%)	
小林 (N=77人)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 (49.4%)	台風による風害 (46.8%)	水無川の土石流 (33.8%)	雲仙普賢岳の火砕流 (28.6%)	地震による密集家屋の火災 (20.8%)	

ようになっている。「火砕流が発生する」とするのは37.0%であるのに対して「土石流が発生する」は64.5%と高い割合となっている。さらに、土石流が発生したときの規模としては「導流堤、遊砂地、砂防ダムおよび水無川堤防などに納まる土石流となるだろう」が61.4%と際立って高く(図-2.56)、土石流発生のおそれが少ない理由としては「遊砂地、導流堤、河川改修、砂防ダムの着工などの砂防工事が進んで、安全が確保されたから」が81.2%と最も高い割合を占めており、砂防ダム群の建設により生活の安全が確保されたことが根拠になっている ようである(図-2.57)。

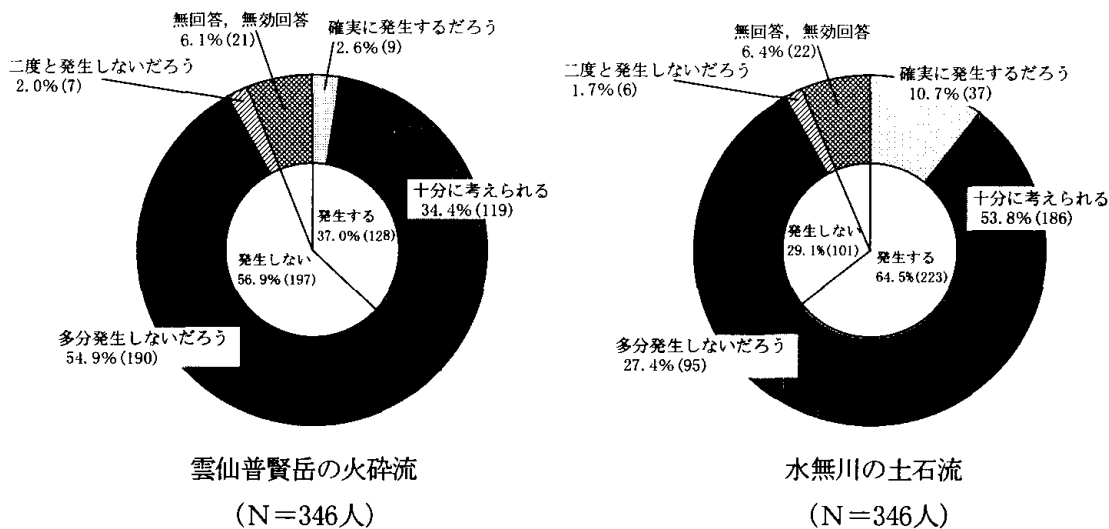


図-2.55 雲仙普賢岳における火砕流、水無川における土石流発生の有無

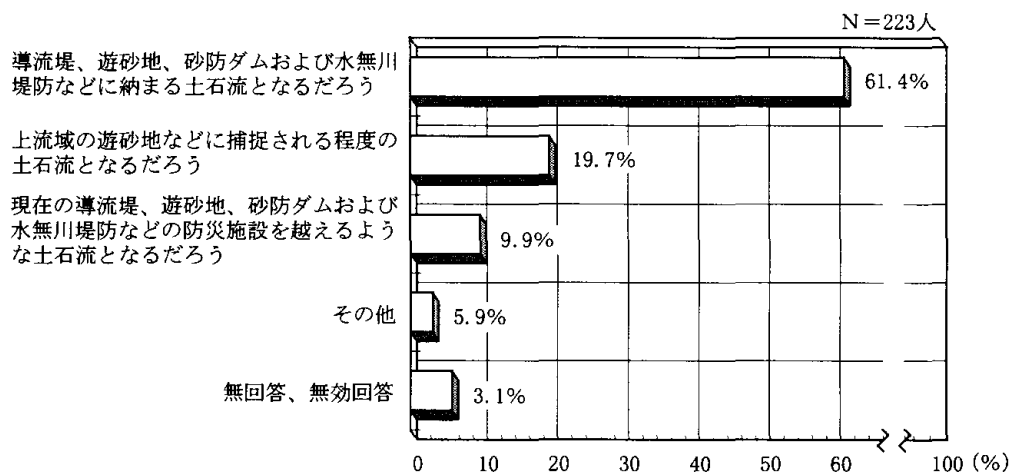


図-2.56 土石流の規模

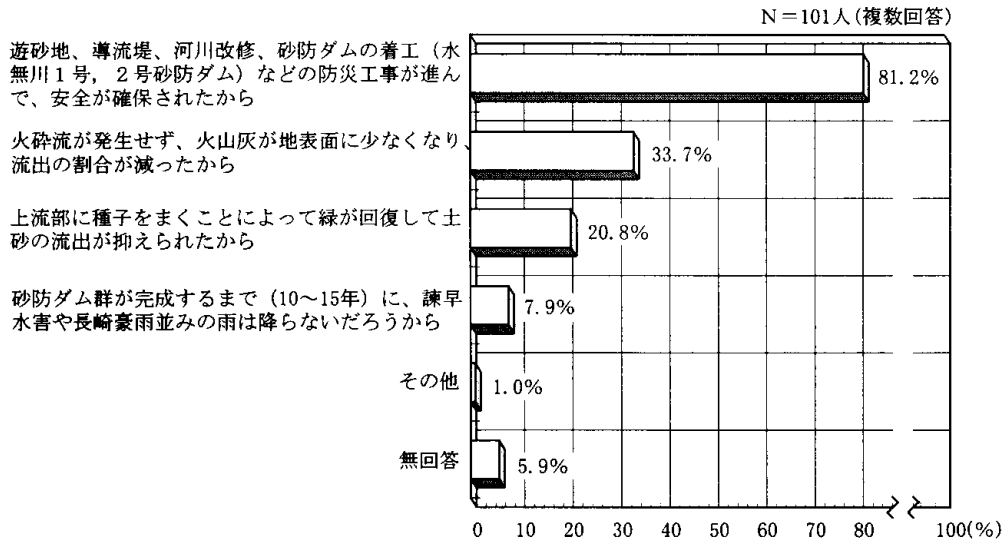


図-2.57 土石流の発生のおそれが少ない理由

「砂防ダム群建設のすすめ方」についての結果を図-2.58に示す。いずれの地区も「規模を小さくする」よりは「規模を大きくする」とする回答が多くなっており、「船津地区」以外の地区では「基本構想 (当初の計画) どおりに建設する」が最も多く、住民は基本構想が適当な規模であることを認めているようである。

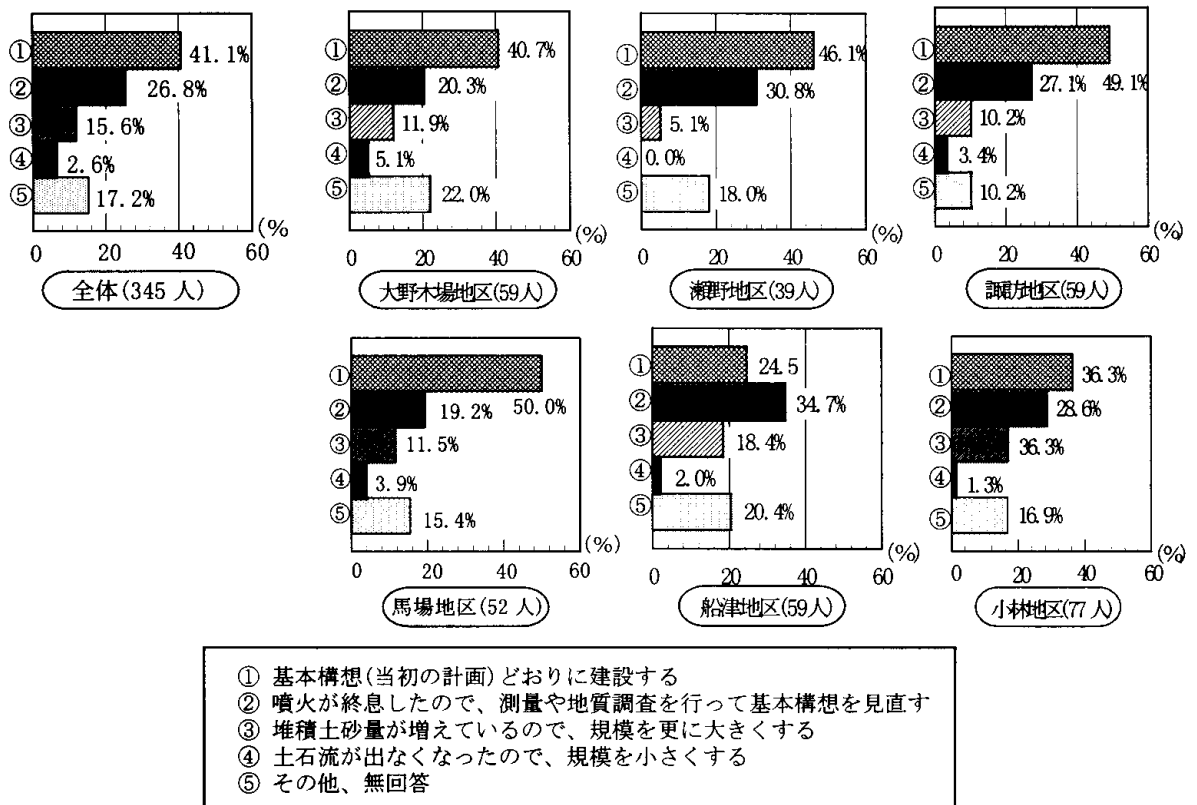


図-2.58 砂防ダム群建設のすすめ方

深江町には災害時の近隣の協力を行うために、自治会に自主防災組織が結成されているが、「自主防災組織の結成を知っているかどうか」を聞いたところ、図-2.59のような回答結果が得られている。「大野木場地区」および「小林地区」では他の地区に比べると「知っている」の割合が低い。自主防災組織の結成はあまり知られていない点がみとめられる。再度、防災についての体制を再検討する必要がある。

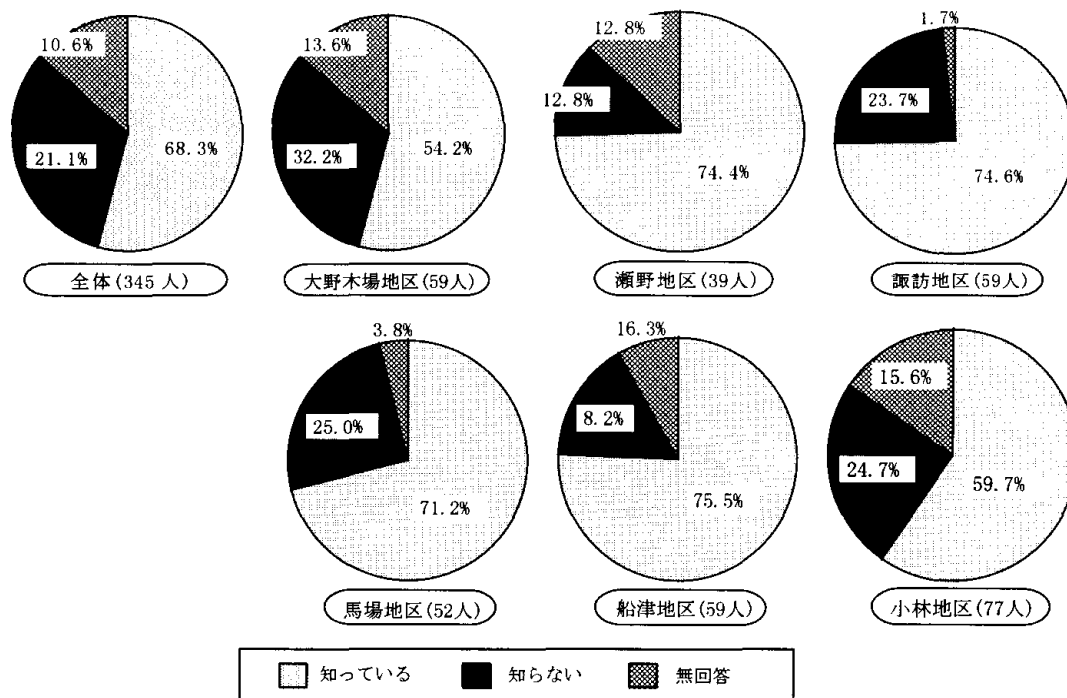


図-2.59 自主防災組織の結成を知っているかどうか

さらに、「自主防災組織が災害時に有効であるか」を聞いたところ、図-2.60に示すように「かなり有効である」と「多少有効である」を合わせると77.2%と高くなっている。一方、「有効でないとする理由」を図-2.61に示す。「自主組織の結成が形式的に結成されており、活動計画がない」(56.3%)，「住民の参加が期待できない」(56.3%)が主な理由である。

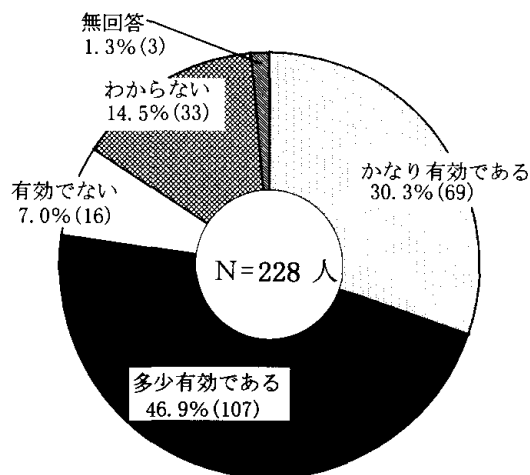


図-2.60 自主防災組織は災害時に有効であるかどうか

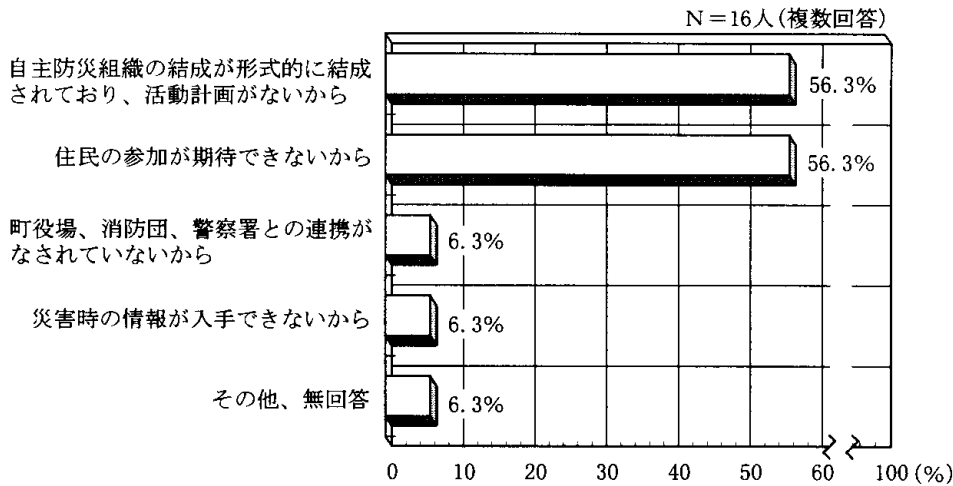


図-2.61 自主防災組織が災害時に有効でないとする理由

2. 1 2 農業について

「災害前と現在の営農状況」を聞いたところ、営農者の減少は全ての地区について言える(図-2.62)。特に、「大野木場地区」の「専業農家」、「船津地区」の「兼業農家」では災害前と現在の状況にそれぞれ84.6%から40.9%、44.4%から11.0%にまで大幅な減少が見られる。また、「再開したい」と回答しているのは、唯一「大野木場地区」(18.2%)のみであり、今後農業をやめた人の受け皿づくりが必要とされる(図-

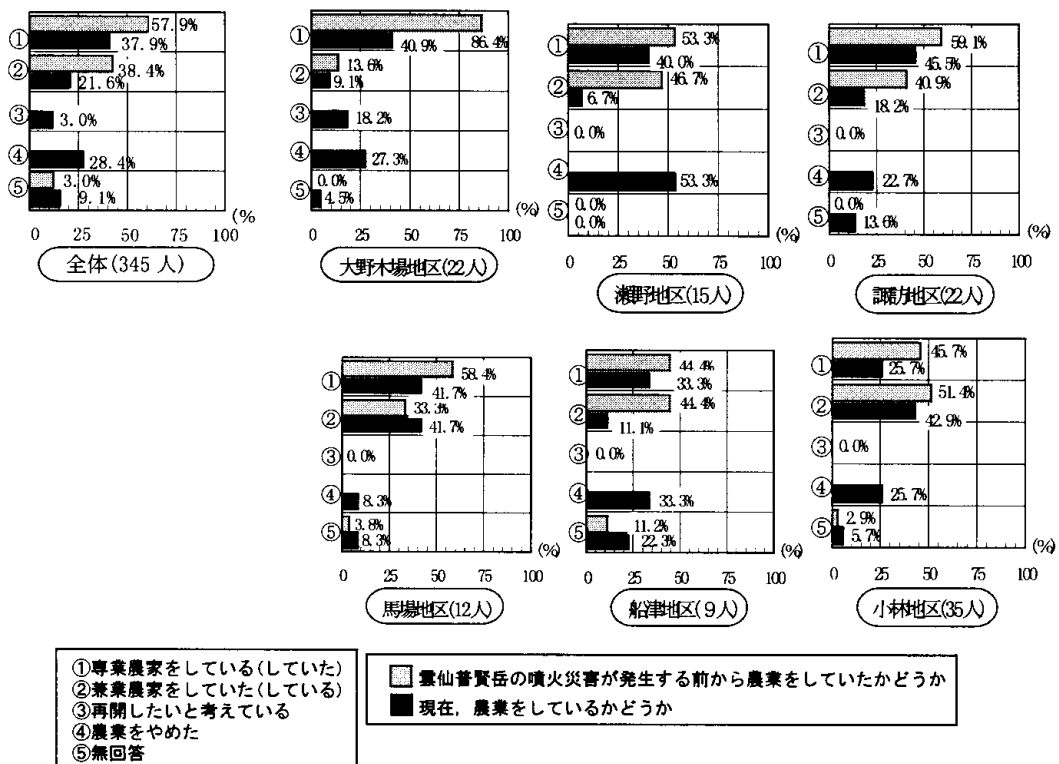


図-2.62 災害前と現在の営農状況

2.62)。

「災害前と比べて農地の面積は怎么样了か」という問に対して、図-2.63の結果が得られる。「災害前と同じ」は50.0%で最も高く、「災害前よりも狭い」とする回答は33.6%と2番目に高くなっており、これは農地の基盤整備によるものであると考えられる。さらに、作物の転換の有無に関しては、図-2.64に示す。「あった」の17.3%にとどまっており、噴火による作物の転換は少ないといえる。

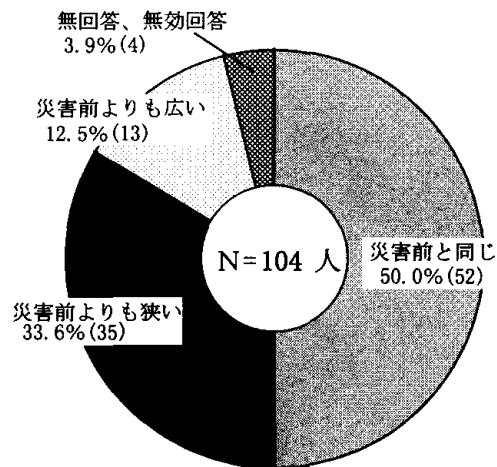


図-2.63 災害前と比べた農地の面積

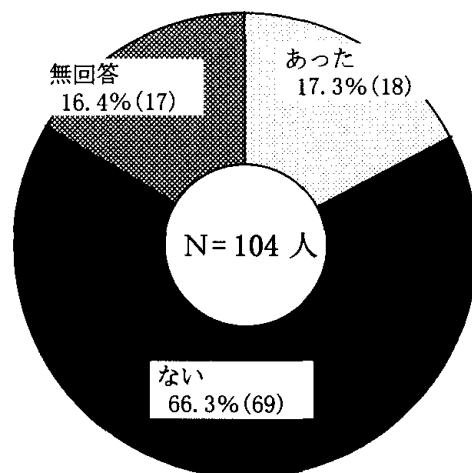


図-2.64 作物の転換の有無

次に、「後継者がいるかどうか」という問に対して図-2.65のような結果が得られた。「決まっている」は32.7%となっており、逆に「決まっていない」は「子供はいるが、見込みがない」，「決まっていたが、噴火災害でやめた」および「子供がいない」を合わせた57.6%にもなり、単純に考えても今後営農者が半数以下になることが予想されるため、今後営農者をどのようにして減少させないかが課題となる。

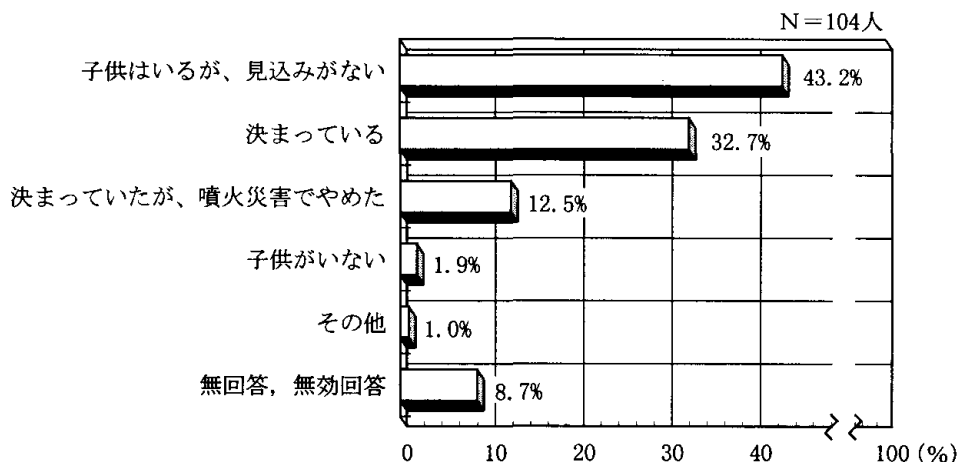


図-2.65 後継者の有無

2. 13 まとめ

本章のまとめは以下に述べる。

- 1) 深江町住民の自治会行事への参加率は高く、このことは避難訓練への参加や自主防災組織の育成などの防災対策としても重要なものとなるため、今後この単位を基本としたまちづくりをしていくべきである。
- 2) 他の市町村に移りたいとする回答は年齢の低下につれて多く、特に20歳代に多く見られた。このことは深江町の衰退にもつながり、今後教育施設の充実や火山観光化による雇用の拡大等が必要となる。
- 3) 市町村合併については賛成の割合は高くなかった。賛成の理由としては広域行政による行政改革が最多となっているが、行政区画の区分により災害対策の差がなくなるとする回答もある。
- 4) 火山観光化への期待はあまり高くはなかった。火山観光化による雇用の場の確保や地域の活性化への期待の反面、火山観光化施設の維持管理費の問題が心配されている。これは火山観光化を運営していく上で大切なことであり、今後の町および地域の課題となる。
- 5) 深江町復興計画は深江町の最重要課題であるにもかかわらず住民にあまり知らされておらず、策定にあたって行政と地域との間で十分な合意形成がなされていない。
- 6) 被災校舎の現地保存に関して住民の関心は高い。校舎の見せ方について校舎内に見学者を入れるかどうか、はっきりした方向性は決めかねているようである。当面は、校舎内に見学者を入れないことが決まっており、今後、維持管理費の問題や見せ方等についての更なる検討が必要である。
- 7) がまだす計画の策定はマスコミなどによる広報活動で浸透しているが、内容までは把握されていない。今後は事業の進捗状況等を広報等で知らせたり、イベント等を実施したりして住民参加の場を増やし行政と住民が一体となった事業の推進が必要である。
- 8) 平成6年6月に深江町が策定した防災マップや防災ガイドブックは、現在必要とされなくなっている。また、土石流発生時の避難対象地区に含まれているどうか分からないとするのも見られ、今後防災マップ等を再度検討し配布することが必要である。
- 9) 今後必要とされる災害対策としては避難対象区域では災害対策基金の創設、損害保険および応急仮設

住宅の住環境改善等のような具体的な対策が重要とされているが、非避難対象区域では道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保、九州大学島原地震火山観測所の充実および復興・復旧に対する情報提供システムのような地域全体に必要な対策が重要視されている。

- 1 0) 自治会レベルでの避難訓練の実施には地区別に差が見られた。今後は他の地区と共同して避難訓練を実施したり、地区間の意見交換の場を数多く設ける必要がある。
- 1 1) 今後心配される災害としては雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊が最も多かったが、それは深江町全体に及ぶ災害であるが、地区別には固有の災害も挙げられていた。今後はこのことも考慮して地区ごとに合った防災対策が必要である。
- 1 2) 住民の再噴火への不安はまだある。自主防災組織の結成はある程度知られており、災害時に有効であることも認めている。しかし、大野木場地区のように災害によって避難移転があった地区では、まだよく知られていない。今後は自主防災組織のリーダー育成に努め、地域ごと自主防災組織の活動を支援していくことが必要である。
- 1 3) 今回の噴火災害により、深江町の基幹産業である農業ではさらに営農者減少した。今後は営農者の復帰の支援とともに、火山観光化と結び付けた農業の再建が必要とされる。

第3章 アンケート調査に見る深江町と島原市の地域差の分析

3.1 まえがき

雲仙普賢岳の噴火災害(平成2年11月～平成7年5月)で被災した島原市と南高来郡深江町は、水無川をはさんで隣接している。雲仙普賢岳の噴火開始当初は島原市が全国的なニュースに取り上げられたが、深江町に関するニュースは少なく、深江町は島原市内の町として受け取られるケースもあった。また、財政力や被害の差に両自治体の差があるため、避難対策や義援金の配分などに相違が見られた。このように、これら2つの自治体の災害中の住民への対応、合意形成の方法、災害復興・振興への取り組み、住民意識および社会経済状況などに大きな相違があることが考えられる。そこで、本章では、島原市³⁾および深江町で行ったアンケート調査に基づき、現在の生活、本復興計画および災害対策などについて結果の比較分析を行う。

3.2 島原市および深江町の災害の比較

島原市は島原半島の中核都市として、深江町は後継者のいる豊かな農業地域として発展してきた。島原市および深江町では雲仙普賢岳の噴火災害により表-3.1のような物的被害に加え、島原市では、観光客の減少などのによる商業被害を受けた。一方、深江町では町の基幹産業である農業が降灰などの影響により大きな被害を受けた。また、平成2年から平成7年の間に島原市、深江町でそれぞれ9.0%、6.5%の人口の減少が見られた。

表-3.1 噴火災害による島原市および深江町における被害

区 分		島原市	深江町
平成2年の人口および平成2年から平成7年の人口減少率		44,828人 9.0%	8,422人 6.5%
物的被害	住家	全壊	587戸 101戸
		半壊・一部損壊など	608戸 690戸
	非住家	852戸 243戸	
避難者数と避難世帯数(ピーク時)		7,208人 2,047世帯	3,804人 943世帯

3.3 アンケート結果の比較

平成9年9月に島原市民を対象として行ったアンケート調査³⁾と、平成10年11月に深江町民を対象として行ったアンケート調査の共通する項目について結果を比較し、「差がある項目」および「差がない」をまとめると、表-3.2のとおりとなる。「島原市、深江町に住み続けたいおよび住み続けたくない理由」や「市町村合併に賛成および反対の理由」、「火山観光化に期待できるおよび期待できない理由」などの項目では、島原市民と深江町民の考え方に大きな差がいくつか見られる。また、居住環境や防災に関する項目でも、いくつかの差が見られる。一方、火山観光化やがまだす計画²⁾、雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想などの本復興への動きに対する受け取りにおいては差が小さい。

表-3.2 アンケート結果に見る島原市と深江町の地域差の有無

地域差	項	目	
有り		・現在の住まいの住宅	
		・住まいの住宅地の位置	
		・住まいの地域	
		・自治会行事の参加	
		・住んでいる町内会(自治体)の活動	
		・住み続けたい理由	
		・住み続けたくない理由	
		・現在の生活の不便・不満	
		・市町村合併について	
		・合併する場合の市町村の組み合わせ	
		・合併に賛成の理由	
		・合併に反対の理由	
		・今後の人口の予測	
		・火山観光化に期待できる理由	
		・火山観光化に期待できない理由	
		・今後の災害対策	
		・がまだす計画重点プロジェクトの上位5個	
		・がまだす計画への地域住民意向の反映	
		・防災マップ, 防災ガイドブックを見たことがあるかどうか	
		・町内会(自治体)で避難訓練が行われたことがあるかどうか	
		・避難訓練に参加したことがあるかどうか	
		・今後の噴火活動について	
		・自主防災組織の結成を知っているかどうか	
		・自主防災組織が災害時に有効であるかどうか	
	無し		・近隣の付き合いの変化
			・住み続けたいかどうか
			・高齢化社会対策
		・火山観光化に期待できるかどうか	
		・噴火災害による各種事業の進行	
		・雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っているかどうか	
		・国立公園雲仙「緑のダイヤモンド計画」(ルネッサンス計画(仮称))の策定を知っているかどうか	
		・「がまだす計画」(島原地域再生行動計画)の策定を知っているかどうか	
		・がまだす計画の内容を知っているかどうか	
		・がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つかどうか	
		・がまだす計画に期待できる理由	
		・がまだす計画に期待できない理由	
		・現在の防災マップの利用	
		・家族の中に災害時に自力で避難できない人がいるかどうか	
		・土石流が発生したときの避難対象地区に含まれているかどうか	
		・今後心配される災害	
		・火砕流はまだ発生すると思うかどうか	
		・予想される土石流の規模	
		・土石流の発生のおそれが少ない理由	
		・砂防ダム群の建設について	

以下に、「差がある項目」について比較分析を行う。

(1) 地域およびコミュニティについて

現在の居住地区は、島原市では「住宅地域」が 67.4%，深江町では「農業地域」が 49.3%で最も多く(図-3.1)、「古くからの集落」に住んでいるという回答は、島原市で 72.3%，深江町で 82.8%となっている(図-3.2)。「振興住宅地」という回答は、島原市で 20.8%であったのに対し、深江町では 7.5%にとどまっており、それぞれのまちの特性が表われている。また、住宅の位置については、島原市および深江町とも「平地」

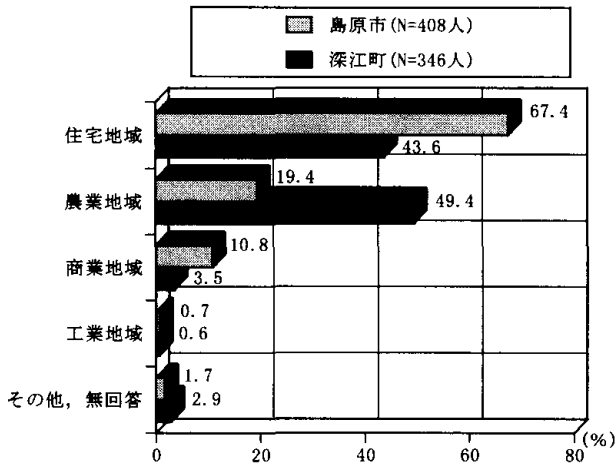


図-3.1 居住地域について

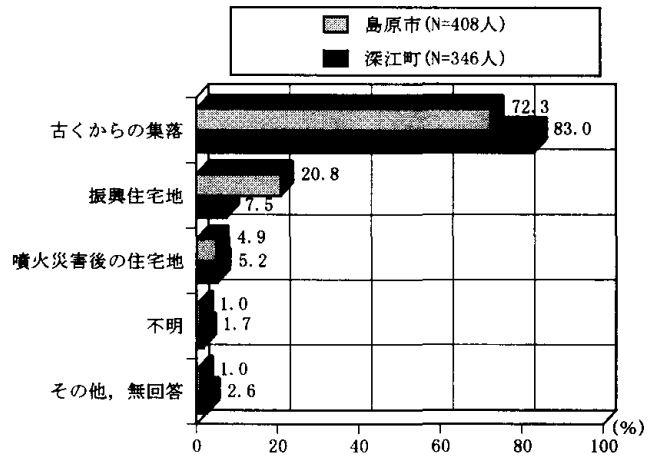


図-3.2 現在の住宅について

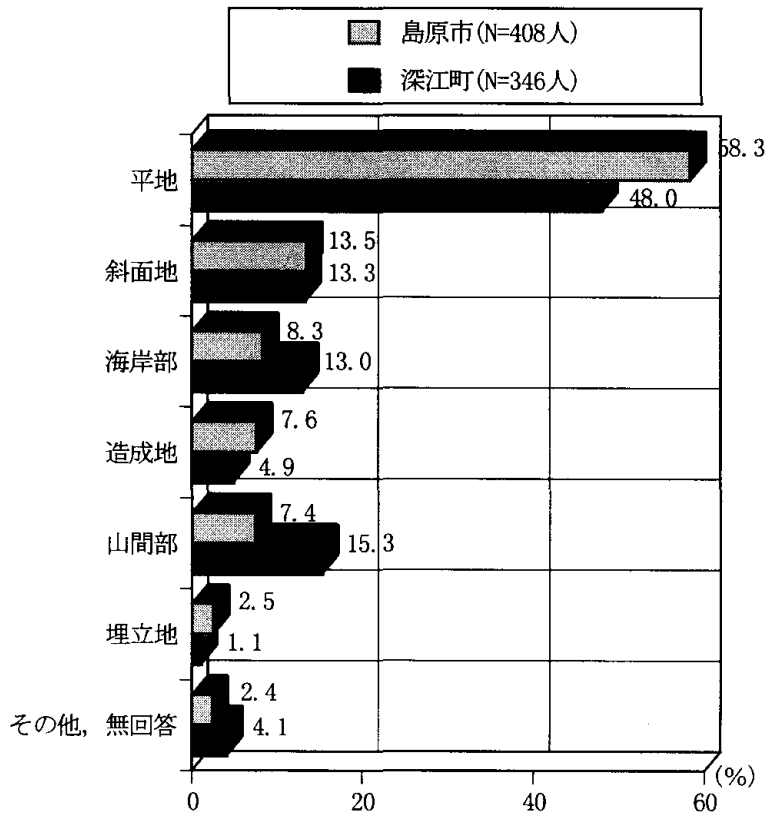


図-3.3 住宅地の位置について

という回答が最も多いが、「海岸部」、「山間部」という回答においては深江町が島原市を上回っている(図-3.3)。

町内会(自治会)行事へ「積極的に参加している」としている人は、島原市、深江町でそれぞれ 52.7%、64.2%となっており、深江町での参加の割合が高くなっている(図-3.4)。深江町では「スポーツ大会」および「お祭り」といった住民がふれあう行事がそれぞれ 71.1%、57.1%と島原市の 51.2%、21.6%を大きく上

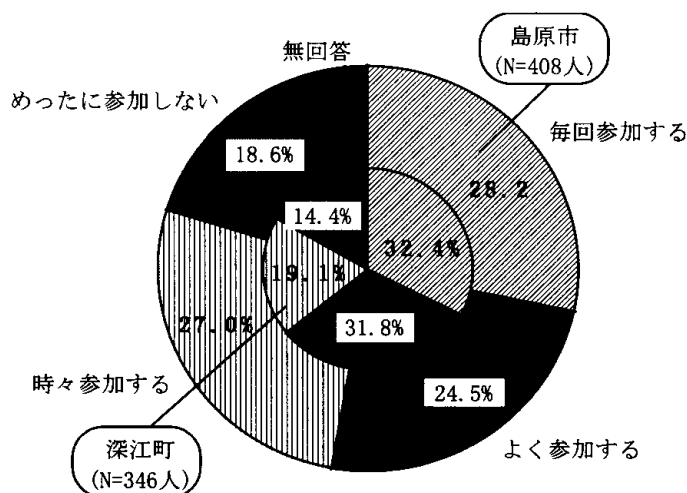


図-3.4 町内会(自治会)行事への参加状況

回っている(表-3.3)。一方、「資源物回収」においては島原市で深江町の2倍以上の回答があり、深江町に比べ島原市において都市化が進んでいることの表れと考えられる。

表-3.3 町内会(自治会)活動の内容

項 目	(複数回答)	
	島原市(N=408人) (%)	深江町(N=346人) (%)
清掃	91.4	88.4
スポーツ大会	51.2	71.1
資源物回収	51.2	19.7
敬老会	48.3	56.6
子供会	44.9	52.9
お祭り	21.6	56.9
公民館活動	16.4	26.3
旅行	11.8	10.1
盆踊り	8.3	5.8
カラオケ, ゲートボール大会	6.6	15.0
お稽古ごと(お茶, お花, 民謡など)	6.4	5.8
防犯パトロール	4.7	5.8
見学会	2.6	3.5
その他, 無回答	3.0	5.8

(2) 生活および行政について

島原市および深江町に「住み続けたい」とする人は、どちらも約90%で差は見られない。最も多くあげられた住み続けたい理由は、島原市で「愛着がある」であるのに対し、深江町では「家屋や畑がある」となっている(図-3.5)。一方、他の都市に移りたい理由は、島原市で「人口や商工業の流出でまちがさびれる」とい

うまの活力の無さがあげられており、深江町で「収入が少なく生活できない」という実生活に最も大きな問題があげられている。その他にも、図-3.6を見ると両者の差が大きく出ている。

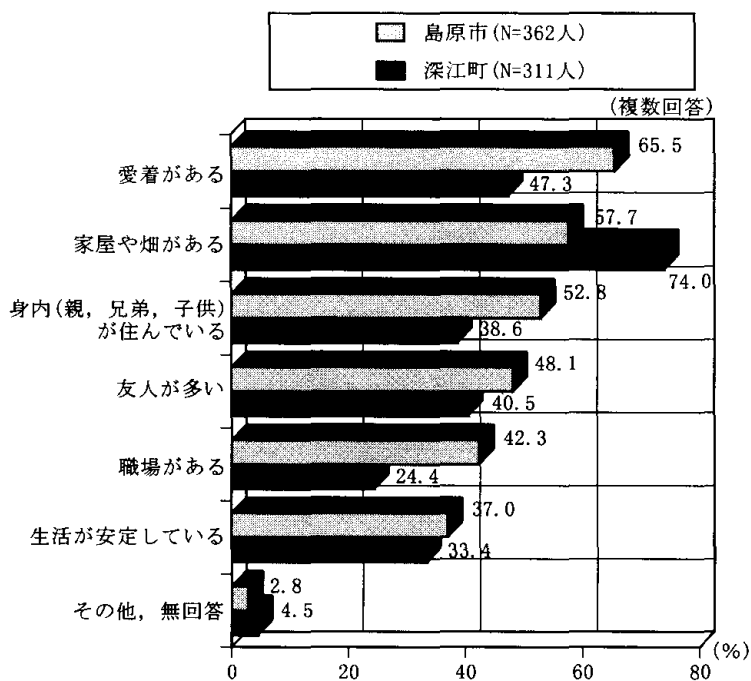


図-3.5 島原市および深江町に住み続けたい理由

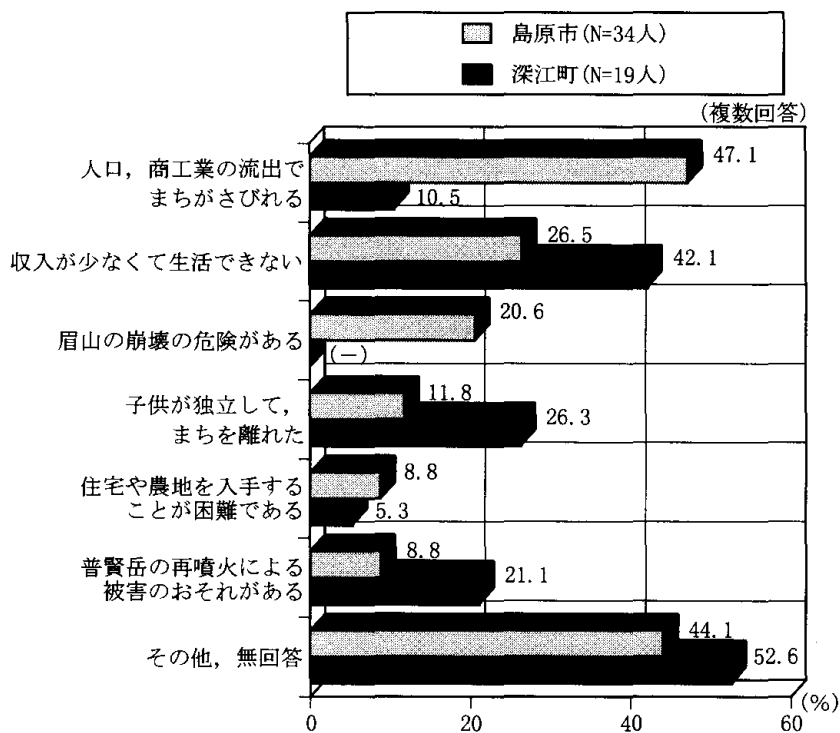


図-3.6 島原市および深江町に住み続けたくない理由

次に 現在の生活の不便・不満としては、島原市、深江町とも上位4位の順位は変わらないが、全体的に深江町に比べ島原市での回答の割合が高くなっているものが多い(表-3.4)。特に、「健康・医療」、「災害(土石流、浸水など)」および「駐車場」についての回答が島原市において10%前後多くなっている。特に、「駐車場」においては、島原市で深江町の3倍以上の回答である。

表-3.4 現在の生活の不便・不満

項 目	(複数回答)	
	島原市(N=408人) (%)	深江町(N=346人) (%)
交通の便	40.7	37.3
収入	30.4	28.3
都市下水・廃水処理	28.7	24.3
仕事	27.0	22.3
健康・医療	27.0	14.7
高齢者福祉	21.3	17.6
災害(土石流、浸水など)	16.2	8.7
駐車場	14.5	3.8
買物	13.2	17.9
情報の入手	11.3	10.1
交通安全	9.6	5.8
文化活動	8.6	6.6
住宅	8.3	3.5
子供の教育	7.6	9.0
人間関係	7.6	9.0
騒音	7.1	4.9
スポーツ・レクリエーション	6.6	5.5
衛生	5.6	6.6
プライバシー	4.2	7.8
生活学習	3.2	2.9
その他、無回答	13.5	18.8

島原半島では、地域の活性化のために市町村合併が検討されており、がまだす計画²⁾でも「島原半島市町村合併調査検討事業」は重点プロジェクトの1つになっている。この市町村合併については、島原市の「賛成」とする回答が深江町を上回っている(図-3.7)。賛成の理由としては、島原市、深江町とも「広域行政を行うことによって行政改革ができる」が最も多くあげられているが、「有効な土地利用ができる」という回答は、深江町で島原市の半数以下となっている(図-3.8)。島原市には、災害前から開発可能な土地が少なく、更に災害に伴う砂防ダム建設などにより減少しており、宅地などは崩壊が心配されている眉山の裾に開発せざるをえない状態となっていることが、このような結果となった一因と考えられる。

一方、合併に反対の理由としては、島原市で「合併するメリットがはっきりしない」が最も多いのに対し、深江町では、「地域の特性に対応したきめ細かい対策ができにくくなる」が島原市より約20%多い回答で最多となっている(図-3.9)。また、合併する場合の市町の組み合わせとしては、島原市で「島原市と深江町・有明町」が圧倒的に多いのに対し、深江町では同様の回答は少数にとどまり、「島原市と深江町」という回答

が半数近くになっている(図-3.10)。市町村合併については島原市と深江町の中に思惑の違いが伺える結果が出ている。

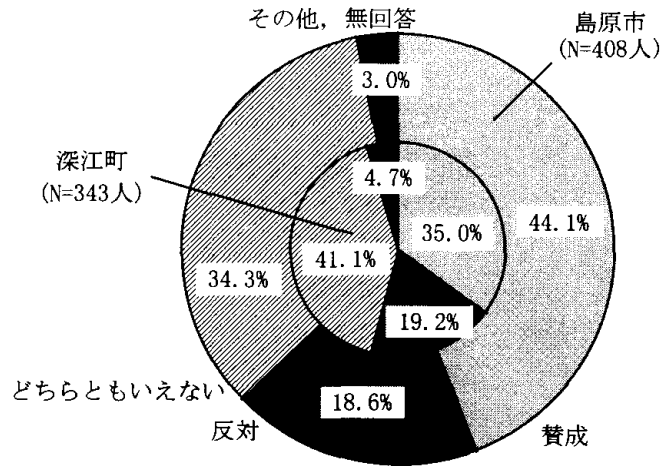


図-3.7 市町村合併への賛否

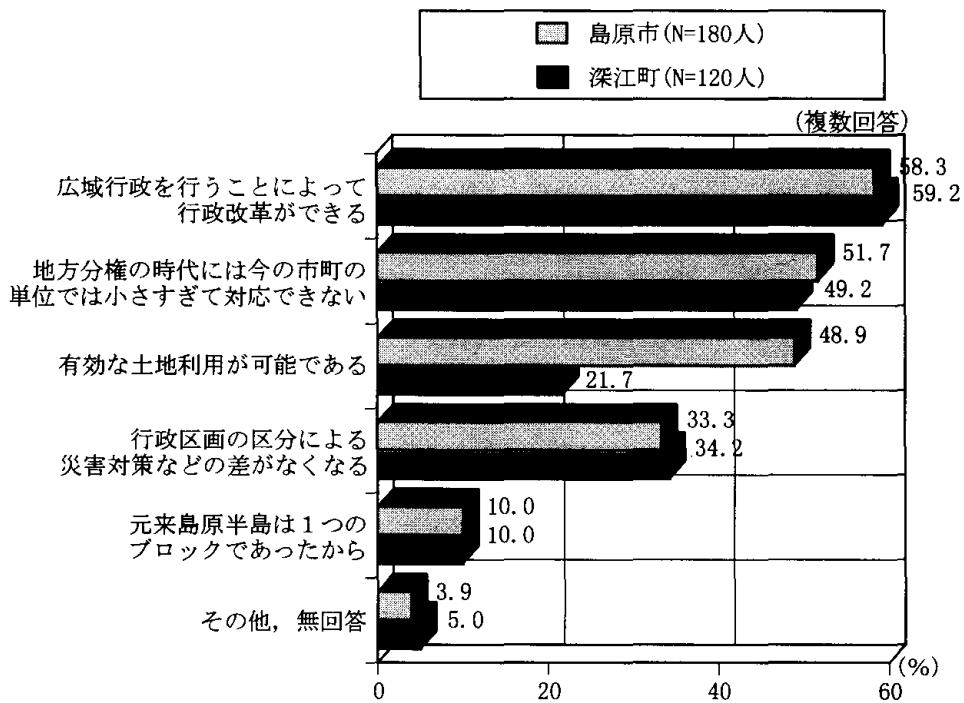


図-3.8 市町村合併に賛成の理由

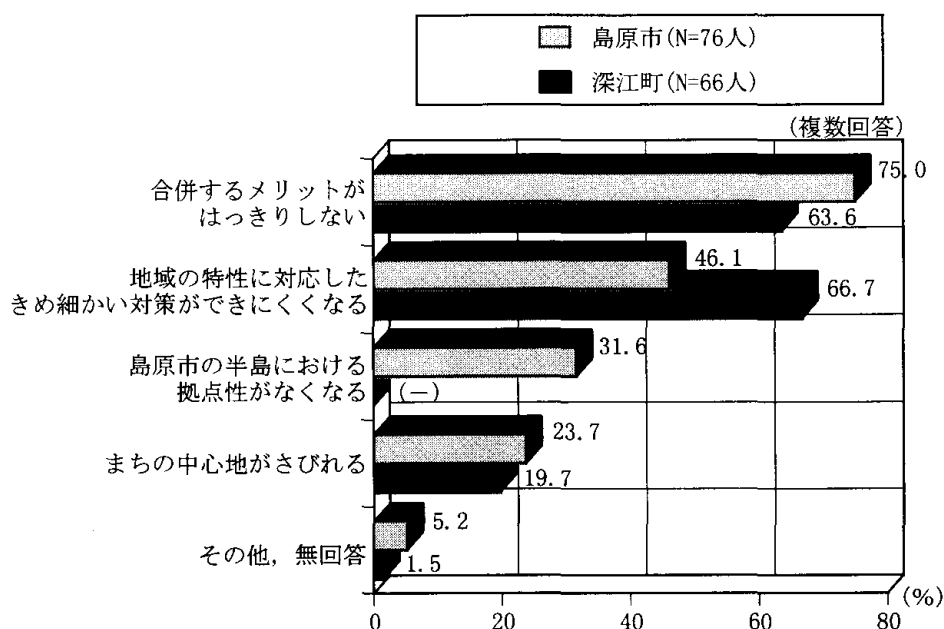


図-3.9 市町村合併に反対な理由

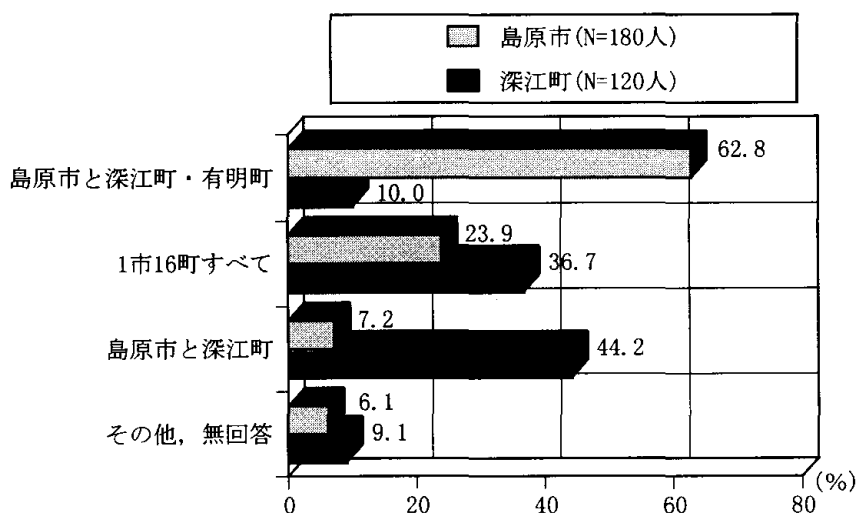


図-3.10 市町村合併する場合の市町の組み合わせ

(3) 地域の活性化について

島原市および深江町では噴火災害の影響を受け、平成2年から平成7年の間にそれぞれ約9.0%、約6.5%の人口が減少している。今後の人口については図-3.11のように島原市においては、「昭和60年および平成2年の人口に戻る」という回答が7.3%であるのに対し、深江町では同様の回答が21.8%と高くなっている。島原市民と比べ深江町民は今後の人口の回復に前向きな見方をしているようである。

島原地域では、がまだす計画²⁾(島原地域再生行動計画)の重点プロジェクトにおいて島原火山科学博物館(仮称)の建設、道の駅および土石流災害遺構保存公園(仮称)の整備等の火山観光化の構想がまとめられ、事業化が進められている。この火山観光化については、島原市、深江町とも30%弱の人が、「大いにまたはかなり期待できる」としている。

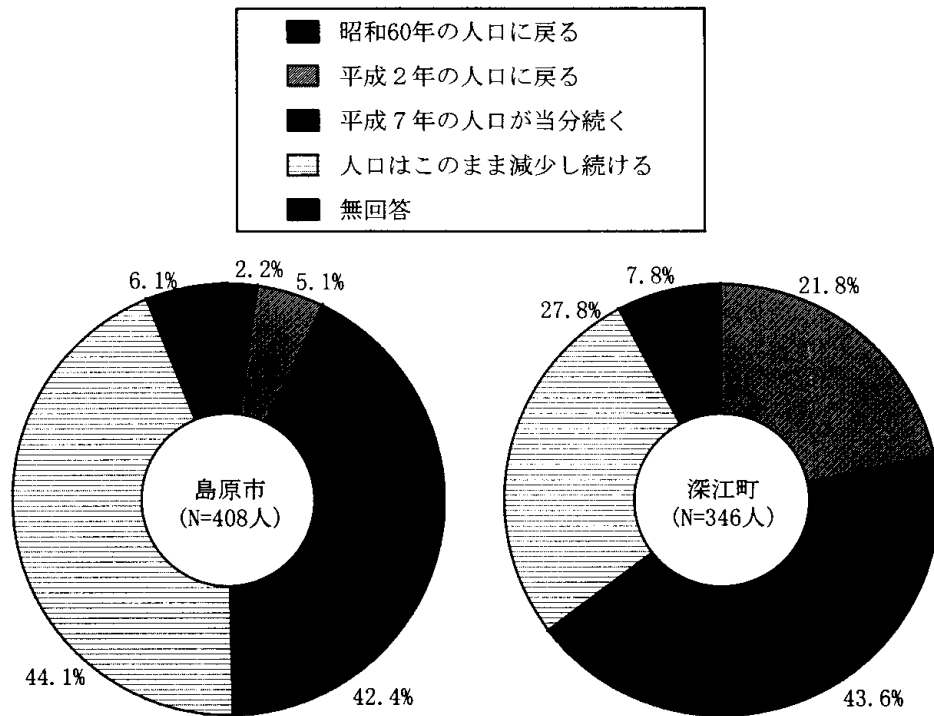


図-3.11 今後の人口予測

期待できる理由としては、島原市および深江町で「平成新山のイメージが全国に知られているので全国から人が訪れることが期待できる」という噴火災害の知名度の高さをあげている(図-3.12)。また、「がまだず計画²⁾で火山観光化に向かって事業が具体化しつつある」は、深江町で島原市の3倍近い回答があるが、これは島原市でアンケート調査³⁾を行った平成9年9月から深江町でアンケート調査を行った平成10年

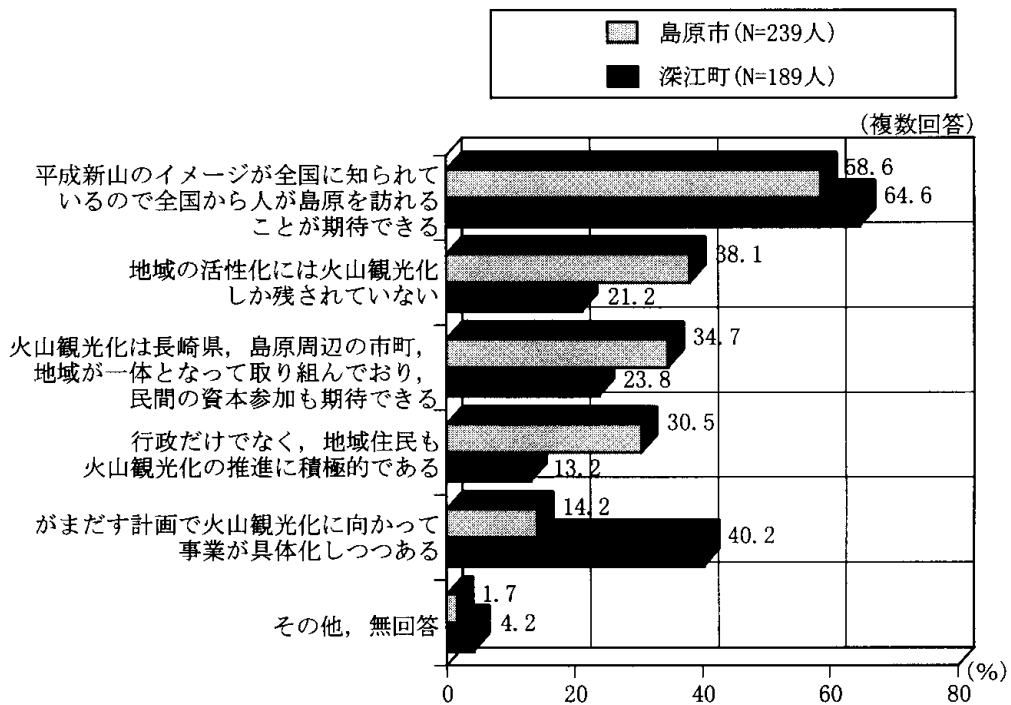


図-3.12 火山観光化に期待できる理由

11月の間に道の駅などの建設が進み、計画の進行が住民の目に見えるところで進んだことも理由の1つと考えられる。一方、火山観光化に期待できない理由としては、島原市では「火山観光化に対して地域住民と行政の間に意識のずれがあり、まだ定着していない」が最も多いが、深江町では「火山観光化のために作った博物館、土石流遺構などの維持管理費の負担が大きくなるおそれがある」といった各施設を運営していく上での最大の問題となる維持管理費を心配する声が多くなっている(図-3.13)。

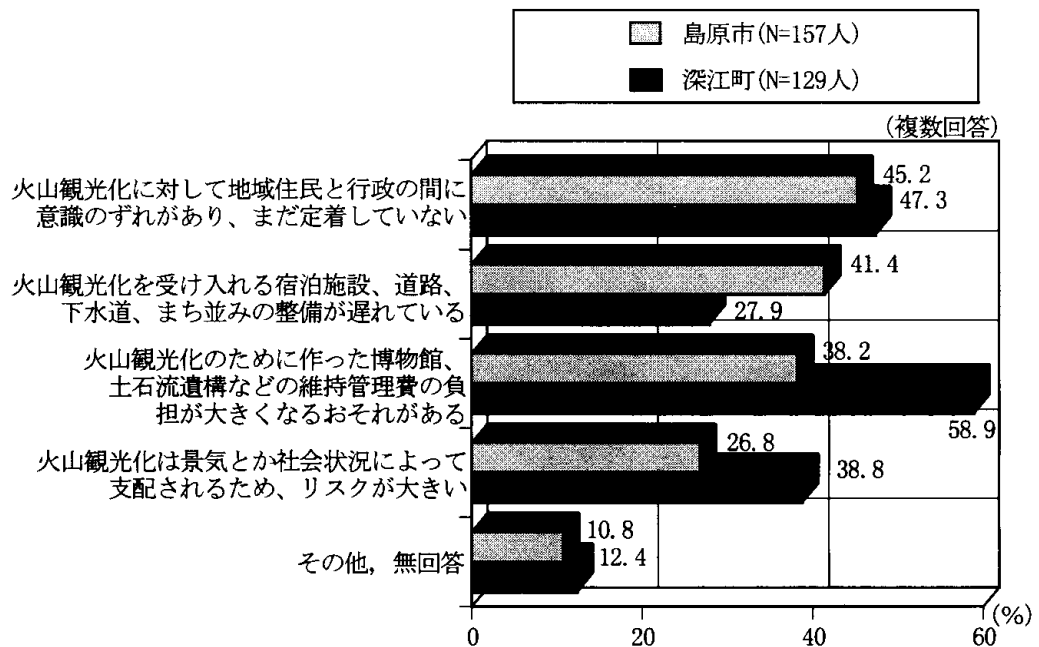


図-3.13 火山観光化に期待できない理由

平成9年3月に長崎県が策定した「がまだす計画(島原地域再生行動計画)²⁾」については、島原市で88.2%、深江町で78.0%の人がその策定を知っており、どちらも30~40%の人がその内容も「知っている」としている。また、がまだす計画²⁾の27重点プロジェクトうち、重要と考えられるものを5つ回答してもらった結果が表-3.5である。深江町では、「島原・深江地区農地区画整備事業」に35.9%の回答があるが、島原市では11.3%にとどまっている。また、深江町では町内に建設中の「道の駅整備事業」に島原市の約2倍の回答があるなど特徴が見られる。「がまだす計画²⁾には、地域住民の意向が反映されているかどうか」という問に対しては、図-3.14のように、「十分に反映されている」、「かなり反映されている」および「少し反映されている」の項目でいずれも深江町の回答が多く、「反映されていない」の項目で島原市の回答が多くなっており、がまだす計画²⁾への評価は島原市に比べ深江町で高いことがわかる。

表-3.5 重点プロジェクトのうち重要と考えられるもの

(1人5个回答)

項 目	島原市(N=292人) (%)	深江町(N=208人) (%)
復興記念病院(仮称)建設事業 (島原温泉病院の建て替え)	55.1	45.7
地域高規格道路の建設	49.7	50.0
水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	46.2	33.2
島原半島広域観光ルート形成事業	29.8	24.0
島原火山科学博物館(仮称)建設事業	26.0	19.7
砂防指定地利活用推進事業	21.2	17.3
街なみ環境整備事業	20.5	20.7
島原半島商工業振興支援事業	19.9	12.0
道の駅整備事業	16.1	29.8
島原半島市町村合併調査検討事業	15.4	15.4
地域・生活情報通信基盤の整備事業	14.7	8.2
高等看護学校設置事業	14.7	17.3
国立緑のダイヤモンド計画「ルネッサンス計画(仮称)」事業	12.0	10.6
島原・深江地区農地区画整備事業	11.3	36.1
ボランティア団体のネットワーク化推進事業	11.0	3.4
土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業	10.3	12.0
がまだす計画推進のための基金設置事業	9.6	13.9
島原復興アリーナ(仮称)整備事業	8.2	9.1
担い手育成畑地帯総合整備事業	7.9	8.7
雲仙岳災害復興種苗放流事業	7.5	10.6
あすを築く漁協合併総合対策事業	6.5	4.8
島原半島農林業立国宣言事業	4.8	4.3
観光系学科(高等学校)の設置調査事業	3.8	3.4
小浜温泉リフレッシュセンター建設事業	2.4	0.0
原城資料館整備事業	2.1	1.0
広域型増殖場造成事業	2.1	3.8
漁業加工推進圏形成事業	1.0	3.4
無回答	10.7	16.3

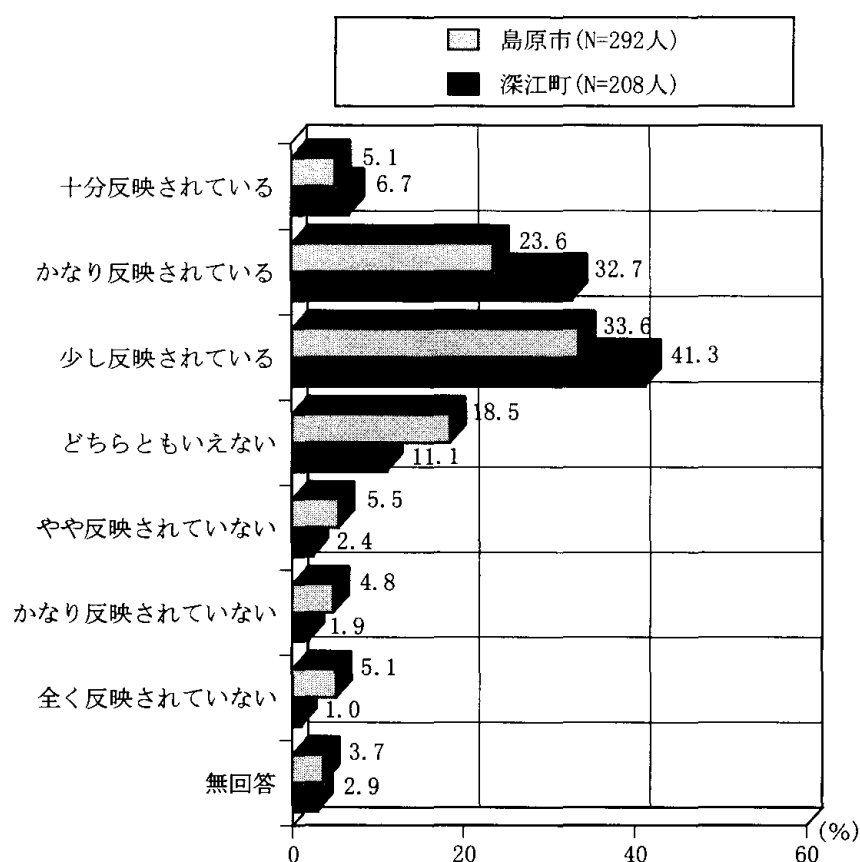


図-3.14 がまだず計画に住民の意向は反映されているかどうか

(4) 防災都市づくりについて

島原市および深江町では、平成6年6月に土石流や火砕流に対する避難方法などを示した防災マップと防災ガイドブックをそれぞれ作成し、各家庭に配布している。これについては、島原市で80%以上が「見たことがある」としているが、深江町では70%弱となっている(図-3.15)。

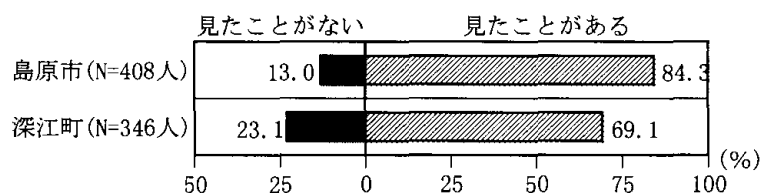


図-3.15 防災マップおよび防災ガイドブックを見たことがあるかどうか

今回の雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、今後の災害対策として必要なことがらをあげてもらったところ、表-3.6のように深江町に比べ島原市で回答の割合が高いものが多い。特に、「九州大学島原地震火山観測所の充実」と「災害ボランティアの活動」については、島原市で10%以上も回答の割合が高い。一方、「復興・復旧に対する情報提供システム」では、島原市に比べ深江町で回答が多くなっている。

表-3.6 今後の災害対策で必要なことから

項	目	(複数回答)	
		島原市(N=408人) (%)	深江町(N=346人) (%)
火山保険制度(損害保険)		50.0	42.8
九州大学島原地震火山観測所の充実		49.0	37.9
道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保		47.3	45.2
災害ボランティアの活動		40.0	24.6
応急仮設住宅の住環境改善(広さ, 防音, 温度)		37.3	31.5
商工業などの間接被害に対する救済対策		35.8	26.9
災害対策基本法の改正		35.5	30.1
災害危険地の土地の買い上げ制度		32.4	24.0
無人化施工などによる危険地区における防災工事を行う技術開発		31.1	22.0
海上輸送路の確保		31.1	21.4
雲仙岳災害対策基金のような基金創設		28.4	33.2
積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤, 矢板工など)の導入		24.5	29.8
復興・復旧に対する情報提供システム		23.8	32.4
安中三角地帯などの復興まちづくりに対する支援体制		18.1	—
地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行い方		16.7	15.3
その他, 無回答		6.1	13.2

「居住地区で避難訓練が行われているかどうか」という問に対しては、「ある」という回答が深江町で島原市の約2倍ある(図-3.16)。また、避難訓練への参加は島原市に比べ深江町が多い(図-3.17)。

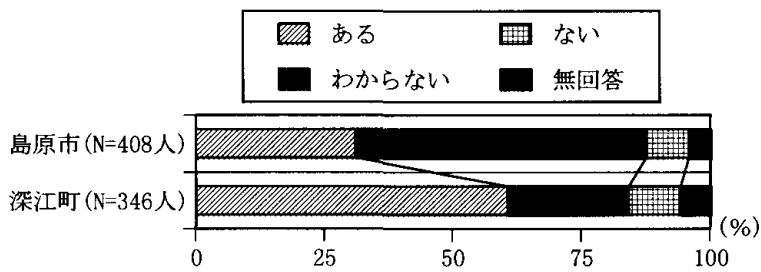


図-3.16 居住地区で避難訓練が行われているかどうか

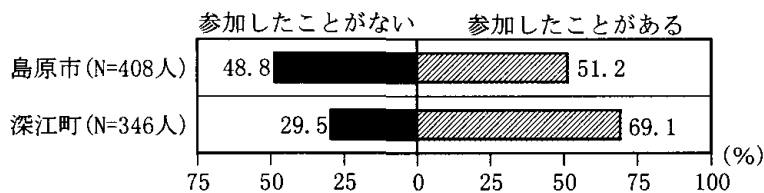


図-3.17 避難訓練に参加したことがあるかどうか

「水無川や中尾川の土石流は今後も発生すると思うかどうか」という問には、「確実に発生するだろう」が島原市と深江町でそれぞれ17.2%，10.7%の回答があり、「十分に考えられる」はそれぞれ61.3%，53.8%となっている。深江町民に比べると島原市民が土石流の発生を危惧していることがわかる。土石流の発生のおそれが少ない理由としては、図-3.18のように島原市と深江町では多少の違いが見られる。

また、島原市と深江町では、災害時に近隣の協力を行うために自主防災組織が全町内会(自治会)で結成されているが、これについては、深江町において「知っている」という回答が多くなっている(図-3.19)。この自主防災組織が「災害時に有効であるかどうか」という問には、「かなり有効である」という回答が、深江町30.3%と島原市の16.1%の約2倍であるが、「かなり有効である」および「多少有効である」という回答を合わせると、島原市と深江町でそれぞれ67.8%，77.2%と大きな差は見られない(図-3.20)。

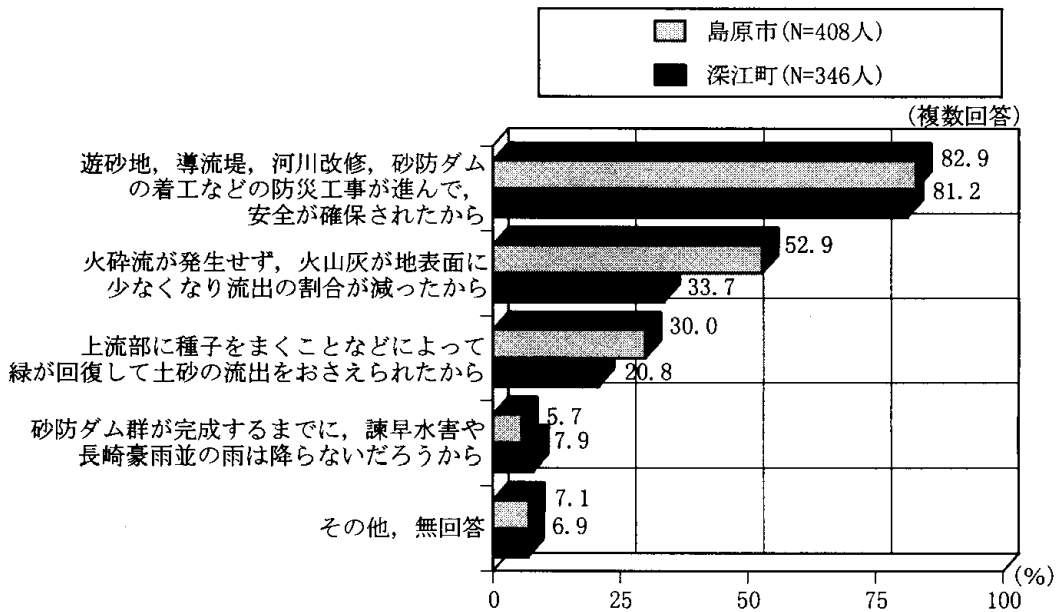


図 3.18 土石流の発生のおそれが少ない理由

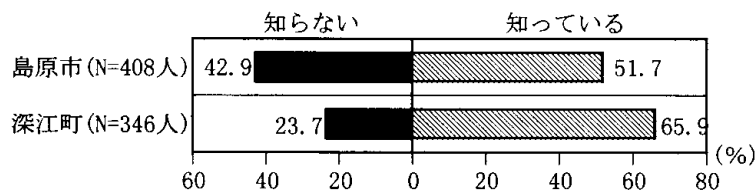


図-3.19 自主防災組織の結成を知っているかどうか

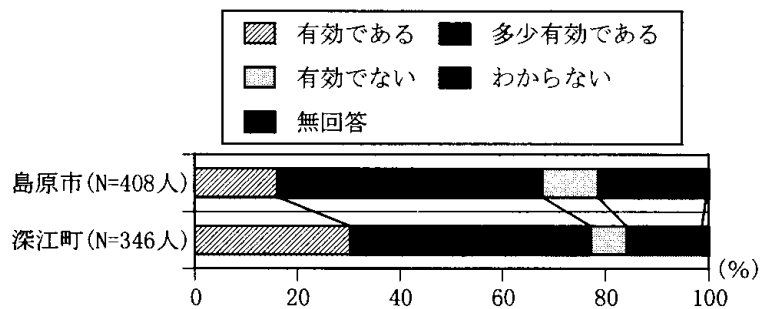


図-3.20 自主防災組織は災害時に有効であるかどうか

3. 4 まとめ

本章のまとめを以下に述べる。

- 1) 町内会(自治会)活動への参加は、島原市よりも深江町で盛んで、深江町の活動内容は住民のふれあいが増すものが多い。深江町では、以前からの住民同士のつながりが強いことが伺える。
- 2) 島原市および深江町に住み続けたいとする人の割合はほとんど変わらないが、住み続けたい理由として島原市で「愛着がある」であるのに対し深江町で「家や畑がある」、住み続けたくない理由として島原市で「まちがさびれる」のに対して深江町で「収入が少ない」など差が見られる。
- 3) 現在の生活の不便・不満としてあげられるものの上位は、島原市、深江町とも同様のものである。島原市民の回答においては、深江町に比べ島原市で進む都市化も一因と考えられるものも見られる。
- 4) 市町村合併については、深江町よりも島原市において賛成の割合が高い。賛成の理由、反対の理由および合併する場合の市町の組み合わせでは、両自治体の回答に差が見られる。
- 5) 島原市および深江町では、噴火災害の影響を受け人口の減少が進んだが、深江町では今後の人口の回復に前向きな回答が多く見られる。
- 6) がまだす計画²⁾の内容で重要と考えられるプロジェクトをあげてもらった結果を見ると、島原市民は島原市で行われる事業を、深江町民は深江町で行われる事業を多くあげている。がまだす計画²⁾への評価は、島原市に比べ深江町で高くなっている。
- 7) 防災マップおよび防災ガイドブックを見たことがあるとする割合は島原市で高くなっているが、避難訓練の実施や自主防災組織の住民への浸透や評価は深江町で高くなっている。防災意識は、島原市に比べ深江町の方が高いということが言えるようである。

参考文献

- 1) 深江町企画課復興室：深江町復興計画、全 153 頁、1993.5
- 2) 島原地域再生行動計画策定委員会事務局：島原地域再生行動計画、全 133 頁、1997.3
- 3) 高橋和雄、塩津雅子：噴火活動が終息した島原市の本復興およびまちづくりに関する調査研究、全 184 頁、1999.2

謝辞

本研究では、アンケート調査を実施するにあたり深江町の多くの方々に用紙を配布いたしましたが、項目が多いにもかかわらず快く調査にご協力いただきました皆様に深くお礼を申し上げます。

付録 I : 深江町の復興・振興に関するアンケート調査依頼状

平成 10 年 11 月 17 日

各位

長崎大学工学部
高橋 和雄

アンケート調査の協力をお願い

拝啓 晩秋の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成 7 年に雲仙普賢岳の噴火活動の停止が確認されてから、3 年が経過しました。その後再噴火の兆候もなく、今日を迎えています。この間、1,2 号砂防ダムの着工、島原深江道路の建設、農地の基盤整備など各種の復興事業に加え、がまだず計画などの半島全体の経済面の復興を目指した計画も策定され、本復興計画も動き出しております。すでに、地域の活性化の柱となる火山観光化に向けて、道の駅の建設、火山科学博物館の建設、土石流遺構の保存、砂防指定地の利活用なども始まっています。

私は、昭和 63 年 5 月の島原水害の調査から、今回の噴火災害の調査を通じて、島原市、深江町に度々おじゃましています。

復興計画では、島原市復興計画(平成 5 年,7 年, 島原市)、がまだず計画(平成 9 年, 長崎県)、砂防指定地利活用構想(平成 9 年, 建設省)などの作成を支援してきました。また、深江町の大野木場小学校被災校舎の現地保存、島原都市計画マスタープランなどの策定にかかわっています。

噴火活動が停止し、本格復興が開始された現在、島原地域全域のこれからのために、どのような対策が必要かを再度把握し、今後の計画づくりに反映させるために、深江町にお住いの 20 歳以上の皆様の約 15%の方々を無作為に抽出して、アンケート調査をお願いすることにいたしました。同様なアンケートを平成 9 年度に実施しており、深江町と島原市の比較をする予定をしています。

つきましては、大変申し訳ありませんが、同封のアンケートの回答をよろしくお願い申し上げます。本調査は目的外に利用することは絶対にございませぬ。また、結果は統計的な処理を行うため、個人にご迷惑をおかけすることもございませぬので、よろしくご協力下さるよう重ねてお願い申し上げます。

大変申し訳ありませんが、10 日以内に、同封の封筒に入れてご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬具

連絡先：〒852-8521 長崎市文教町 1-14
長崎大学工学部社会開発工学科
高橋 和雄

Tel (095)847-1111 (内 2710)

Fax (095)848-3624

Tel・Fax (095)848-9639

上記不在の場合：長崎大学工学部社会開発工学科
西村 寛史(大学院学生)・伊東 義信(4 年生)

Tel・Fax (095)848-9639

付録Ⅱ：深江町の復興・振興に関するアンケート調査

単純集計

実施日；平成10年11月

対象；深江町の20歳以上
無作為抽出による約15%（940人）

配布・回収；郵送方式

回収率；36.8%（346人）

質問項目	設問数
住まいの地区の状況について	6
深江町での生活について	3
雲仙普賢岳の噴火災害の被害等について	6
深江町のまちづくりについて	3
深江町復興計画について	11
大野木場小学校「被災校舎」現地保存構想について	4
がまだす計画について	5
災害時の避難対策について	5
防災まちづくりについて	6
深江町の農業について	6

1. 住まいの地区の状況をお伺いします

問1 あなたの現在お住まいの住宅は次のどれにあたりますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 古くからの集落	287	83.0
(2) 新興住宅他	26	7.5
(3) 噴火災害後の住宅地	18	5.2
(4) 不明	6	1.7
(5) N. A.	9	2.6

問2 あなたがお住まいの住宅地はどのような位置にあるとお考えですか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 山間部	53	15.3
(2) 斜面地	46	13.3
(3) 平地	166	48.0
(4) 埋立地	4	1.1
(5) 海岸部	45	13.0
(6) 造成地	17	4.9
(7) その他	2	0.6
(8) N. A.	10	2.9
(9) D. K.	3	0.9

問3 あなたのお住まいの地域はどのような地域にあたりとお考えられますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 住居地域	151	43.6
(2) 工場地域	2	0.6
(3) 農業地域	171	49.4
(4) 商業地域	12	3.5
(5) その他	5	1.4
(6) N. A.	3	0.9
(7) D. K.	2	0.6

問4 あなたは自治会行事に参加しますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 毎回参加する	112	32.4
(2) 良く参加する	110	31.8
(3) 時々参加する	66	19.1

(4) めったに参加しない	50	14.4
(5) N. A.	8	2.3

問5 あなたの自治会ではどのような活動が行なわれていますか。該当することから
をいくつでもお選び下さい。

N=346人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 盆踊り	20	5.8
(2) 清掃	306	88.4
(3) 見学会	12	3.5
(4) スポーツ大会 (野球、ソフトボール、テニスなど)	246	71.1
(5) 敬老会	196	56.6
(6) お祭り	197	56.9
(7) 資源物回収活動	68	19.7
(8) 旅行	35	10.1
(9) お茶、お花、民謡などのけいこごと	20	5.8
(10) 防犯パトロール	20	5.8
(11) カラオケ、ゲートボール大会	52	15.0
(12) 公民館活動	91	26.3
(13) 子供会 (児童会)	183	52.9
(14) その他	8	2.3
(15) N. A.	12	3.5

問6 あなたの地区では、雲仙普賢岳の火山災害前と比較して近隣とのつきあいはど
う変化しましたか。

N=346人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 以前に比べて非常に親密になった	14	4.1
(2) 以前に比べて多少親密になった	18	5.2
(3) 以前とほとんど変わらない	272	78.6
(4) 以前と比べて多少悪化した	16	4.6
(5) 以前と比べて非常に悪化した	1	0.3
(6) わからない	15	4.3
(7) N. A.	7	2.0
(8) D. K.	3	0.9

2. 深江町での生活についてお伺いします

問1 あなたはこれからも深江町に住み続けたいですか。

N = 346 人

項目	人数 (人)	(%)
(1) 住み続けたい	311	89.9
(2) 他の市町村に移りたい	19	5.5
(3) N. A.	15	4.3
(4) D. K.	1	0.3

付問 1.1 住み続けたい理由をお教え下さい。該当することがらをいくつでもお選び下さい。

N = 311 人(複数回答)

項目	人数 (人)	(%)
(1) 深江町に愛着がある	147	47.3
(2) 家屋や農地が深江町にある	230	74.0
(3) 職場が深江町や島原市など近隣の市町にある	76	24.4
(4) 深江町での生活が安定している	104	33.4
(5) 友人が深江町に多い	126	40.5
(6) 身内(親、兄弟、子供)が深江町に住んでいる	120	38.6
(7) その他	13	4.2
(8) N. A.	1	0.3

付問 1.2 住み続けたくないとする理由をお教え下さい。該当することがらをいくつでもお選び下さい。

N = 19 人(複数回答)

項目	人数 (人)	(%)
(1) 深江町での職場・商売では収入が少なく、生活ができない	8	42.1
(2) 深江町では住宅や農地を入手することが困難である	1	5.3
(3) 普賢岳の再噴火による被害のおそれがある	4	21.1
(4) 人口の流出・商工業の流出で町がさびれる	2	10.5
(5) 子供が独立して深江町を離れた	5	26.3
(6) 人間関係がわずらわしい	2	10.5
(7) 交通の便が悪い	2	10.5
(8) 噴火災害による立ち退き命令のため仕方なく町外に移る	1	5.3
(9) 職場が町外にある	1	5.3
(10) その他	3	15.8
(11) N. A.	1	5.3

付問 1.3 移るとしたらどこを希望しますか。

N = 19 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 島原市	6	31.6
(2) 深江町周辺の町	1	5.3
(3) 諫早市	4	21.0
(4) 長崎市	0	0.0
(5) その他の長崎県内の市町村	3	15.8
(6) 長崎県を除く九州内の市町村	2	10.5
(7) 九州外の市町村	1	5.3
(8) どこでもよい	2	10.5

問 2 深江町も高齢化社会になることが考えられますが、どのような対策が必要と考えられますか。該当することがらをいくつでもお選び下さい。

N = 346 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 歩道にベンチの設置	52	15.0
(2) デイサービスの充実	133	38.4
(3) 通院に対するバス回数券やタクシーチケットなどの支給	123	35.5
(4) バス路線の新設	73	21.1
(5) 買物などの生活支援サービス	92	26.6
(6) 社会参加の機会の提供 (シルバー人材センターの充実)	96	27.7
(7) ホームヘルプサービスの充実	120	34.7
(8) ショートステイの充実	44	12.7
(9) 訪問看護事業の充実	136	39.3
(10) 特別養護老人ホームの整備	120	34.7
(11) 老人保健施設の整備	105	30.3
(12) その他	15	4.3
(13) N. A.	27	7.8

問 3 現在の深江町における生活についてお伺いします。現在の生活で不便や不満に思っていることは何ですか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

N = 346 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 住宅	12	3.5
(2) 仕事	77	22.3
(3) 収入	98	28.3
(4) 子供の教育	31	9.0
(5) 健康・医療	51	14.7
(6) 情報の入手	35	10.1

(7) 交通の便	129	37.3
(8) 都市下水・廃水処理	84	24.3
(9) 人間関係	31	9.0
(10) 衛生	23	6.6
(11) 騒音	17	4.9
(12) 生活学習	10	2.9
(13) スポーツ・レクリエーション	19	5.5
(14) 文化活動	23	6.6
(15) プライバシー	27	7.8
(16) 買物	62	17.9
(17) 駐車場	13	3.8
(18) 高齢者福祉	61	17.6
(19) 交通安全	20	5.8
(20) 災害（土石流、浸水、など）	30	8.7
(21) その他	22	6.4
(22) N. A.	43	12.4

3. 雲仙普賢岳の噴火災害の被害等についてお伺いします

問1 噴火継続中、あなたのお宅はどうでしたか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 警戒区域に含まれた	54	15.6
(2) 警戒区域及び避難勧告に含まれた	67	19.4
(3) 避難勧告に含まれた	25	7.2
(4) 特に規制を受けなかった	160	46.2
(5) N. A.	40	11.6

問2 あなたは噴火中に避難しましたか

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	194	56.1
(2) いいえ	130	37.6
(3) N. A.	22	6.3

付問2.1 どこに避難しましたか。次の中からいくつでもお選び下さい。

N=194人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 学校の体育館、公民館	96	49.5
(2) 応急仮設住宅	63	32.5

(3) 親戚・家族の家	95	49.0
(4) 知人の家	22	11.3
(5) 新たに借りた家やアパート	39	20.1
(6) 長崎県が借り上げた船	1	0.5
(7) 長崎県が借り上げた旅館・ホテル	46	23.7
(8) 公営住宅	17	8.8
(9) 勤務先の社宅、寮	4	2.1
(10) その他	18	9.3

問3 あなたのお宅ではどんな被害を受けましたか。次の中からいくつでもお選び下さい。

N=346人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 家屋が全半壊した	13	3.8
(2) 山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた	41	11.8
(3) 家畜に被害が出た	14	4.0
(4) 店舗等が被害を受けた	3	0.9
(5) 漁場が被害を受けた	10	2.9
(6) 作物が収穫できなかった	97	28.0
(7) 家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた	76	22.0
(8) その他	69	19.9
(9) 被害はなかった	104	30.1
(10) N. A.	52	15.0

問4 災害前に住んでいた家は次のどれにあたりますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 持ち家	300	86.7
(2) 借家	13	3.8
(3) その他	4	1.1
(4) N. A.	29	8.4

問5 現在住んでいる家は次のどれにあたりますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 災害前の家	271	78.3
(2) 災害後に新築された公営住宅	3	0.9
(3) 災害後に被災者用住宅団地に新築した家	9	2.6
(4) 災害後に自分で土地を入手して新築した家	19	5.5
(5) 災害後に借りた家	4	1.1

(6) その他	22	6.4
(7) N. A.	16	4.6
(8) D. K.	2	0.6

問6 あなたのお宅では生活（経済）は災害前と比べて災害中にどう変わりましたか。

N=346人

項目	人数（人）	(%)
(1) 楽になった	6	1.7
(2) 変わらない	183	52.9
(3) 少し苦しくなった	86	24.8
(4) かなり苦しくなった	29	8.4
(5) 非常に苦しくなった	11	3.2
(6) N. A.	29	8.4
(7) D. K.	2	0.6

付問6.1 噴火が終息して3年経過しましたが、現在はどうか。

N=126人

項目	人数（人）	(%)
(1) 回復して噴火前に戻った	36	28.6
(2) 回復して噴火前よりも楽になった	3	2.4
(3) 回復したが前に戻るまでにはなっていない	62	49.2
(4) 回復していない（そのままである）	9	7.1
(5) 回復するどころかかえって苦しくなっている	14	11.1
(6) N. A.	2	1.6

4. まちづくりについてお伺いします

問1 島原半島を活性化するために、市町村合併を行なうべきとする意見があります。がまだ計画でも検討しています。あなたはこの提案をどう思いますか。

N=346人

項目	人数（人）	(%)
(1) 賛成	120	34.7
(2) 反対	66	19.1
(3) どちらともいえない	144	41.6
(4) N. A.	16	4.6

付問1.1 合併するとしたらどのようにすべきと考えますか。

N=120人

項目	人数（人）	(%)
(1) 1市16町すべて	44	36.7

(2) 深江町と島原市	53	44.2
(3) 深江町と島原市・有明町	12	10.0
(4) その他	7	5.8
(5) N. A.	3	2.5
(6) D. K.	1	0.8

付問 1.2 合併に賛成する理由は何ですか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

N = 120 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 有効な土地利用が可能である	26	21.7
(2) 行政区画の区分による災害対策などの差がなくなる	41	34.2
(3) 元来島原半島は1つのブロックであったから	12	10.0
(4) 地方分権の時代には今の町の単位では小さすぎて対応できない	59	49.2
(5) 広域行政を行なうことによって行政改革ができる	71	59.2
(6) その他	1	0.8
(7) N. A.	5	4.2

付問 1.3 合併に反対する理由は何ですか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

N = 66 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 地域の特性に対応したきめ細かい対策ができにくくなる	44	66.7
(2) 合併するメリットがはっきりしない	42	63.6
(3) 深江町の商店街がさびれる恐れがある	13	19.7
(4) その他	1	1.5

問 2 深江町の人口は、平成 2 年には 8,422 人、平成 7 年には 7,877 人と噴火災害の影響を受けて大幅に減少しました。深江町の人口は今後どうなると思いますか。

N = 346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 平成 2 年の人口に戻る	72	21.8
(2) 平成 7 年の人口が当分続く	151	43.6
(3) 人口はこのまま減少し続ける	96	27.8
(4) N. A.	27	7.8

問 3 島原地域は地域の活性化の大きな柱として火山観光の推進を目指しており、が
 まだず計画でも各種の計画（道の駅、土石流災害遺構保存公園（仮称）、島原

火山科学博物館（仮称）、国立公園雲仙の整備）が進められようとしています。
あなたは、火山観光化をどう思いますか。

N = 346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 大いに期待できる	33	9.5
(2) かなり期待できる	60	17.3
(3) やや期待できる	96	27.8
(4) あまり期待できない	106	30.6
(5) ほとんど期待できない	23	6.7
(6) N. A.	28	8.1

付問 3.1 期待できるとする理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N = 189 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 平成新山のイメージが全国に知られているので、全国から人が島原を訪れることが期待できる	122	64.6
(2) がまだす計画で火山観光化に向かって事業が具体化しつつある	76	40.2
(3) 火山観光化は長崎県、島原周辺の市町、地域が一体となって取り組んでおり、民間の資本参加も期待できる	45	23.8
(4) 行政だけでなく、地域住民も火山観光化の推進に積極的である	25	13.2
(5) 地域の活性化には火山観光化しか残されていない	40	21.2
(6) その他	1	0.5
(7) N. A.	7	3.7

付問 3.2 期待できない理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N = 129 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 火山観光化を受け入れる宿泊施設、道路、下水道、まち並み整備が遅れている	36	27.9
(2) 火山観光化のために作った博物館、土石流遺構などの維持管理費の負担が大きくなるおそれがある	76	58.9
(3) 火山観光化は景気とか社会状況によって支配されるため、リスクが大きい	50	38.8
(4) 火山観光化に対して地域住民と行政の間に意	61	47.3

識のずれがあり、まだ定着していない		
(5) その他	12	9.3
(6) N. A.	4	3.1

5. 深江町復興計画についてお伺いします

問1 あなたは平成5年5月に深江町復興計画が策定されたことを知っていますか。
N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	207	59.8
(2) いいえ	121	35.0
(3) N. A.	18	5.2

問2 深江町復興計画には地域住民の意向が反映されていると思いますか。
N=207人

項目	人数(人)	(%)
(1) よく反映されている	20	9.7
(2) だいたい反映されている	80	38.6
(3) やや反映されている	71	34.3
(4) 反映されていない	29	14.0
(5) N. A.	7	3.4

問3 深江町復興計画に基づいて復興が図られていると思いますか。
N=207人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	121	58.4
(2) いいえ	13	6.3
(3) わからない	71	34.3
(4) N. A.	2	1.0

問4 深江町復興計画は生活再建・防災まちづくり・地域振興の3つを柱としていますが、あなたはこのことについて知っていましたか。
N=207人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	151	72.9
(2) いいえ	50	24.2
(3) N. A.	6	2.9

問5 深江町復興計画の柱となっている生活再建で挙げられている主要項目がどの程

度達成したと判断しますか。次の各項目すべてについて①～⑤の5段階で評価して下さい。

N=207人

(1) 公営住宅の確保

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
2	1.0	9	4.3	16	7.7	37	17.9	74	35.8	64	30.9	5	2.4

(2) 住宅団地の確保

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
0	0.0	10	4.8	21	10.2	42	20.3	72	34.8	57	27.5	5	2.4

(3) 新集落の形成

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
3	1.4	10	4.9	30	14.5	59	28.5	42	20.3	60	29.0	3	1.4

(4) 代替農地の確保

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
5	2.4	14	6.8	46	22.2	36	17.4	24	11.6	80	38.6	2	1.0

問6 深江町復興計画の柱となっている防災まちづくりで挙げられている主要項目がどの程度達成したと判断しますか。次の各項目すべてについて①～⑤の5段階で評価して下さい。

N=207人

(1) 避難計画の策定・防災マップによる周知徹底

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	0.5	19	9.2	37	17.9	61	29.5	26	12.5	62	29.9	1	0.5

(2) 砂防・治山対策

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	0.5	15	7.2	49	23.7	61	29.5	18	8.7	57	27.5	6	2.9

(3) 道路・鉄道対策

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)

2	1.0	20	9.7	46	22.2	56	27.1	22	10.6	58	28.0	3	1.4
---	-----	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	------	---	-----

(4) ライフライン（電気、水道、ガス）対策

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
5	2.4	22	10.6	32	15.5	46	22.2	34	16.4	65	31.4	3	1.4

(5) 自主防災組織の育成

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
3	1.5	21	10.1	28	13.5	59	28.5	34	16.4	59	28.5	3	1.5

問7 深江町復興計画の柱となっている地域振興で挙げられている主要項目がどの程度達成したと判断しますか。次の各項目すべてについて①～⑤の5段階で評価して下さい。

N=207人

(1) 農地復旧

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	0.5	10	4.8	45	21.7	74	35.8	35	16.9	37	17.9	5	2.4

(2) 水産基盤の再整備

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
5	2.4	14	6.8	46	22.2	47	22.7	9	4.4	86	41.5	0	0.0

(3) 災害遺物（旧大野木場小学校校舎、土石流被災家屋等）の保存

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
7	3.4	22	10.6	49	23.7	49	23.7	28	13.5	45	21.7	7	3.4

(4) 火山観光化施設（道の駅、火山科学博物館等）の整備

①0%		②20%		③50%		④70%		⑤100%		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
6	2.9	36	17.4	59	28.5	36	17.4	8	3.9	59	28.5	3	1.4

問8 あなたは平成8年度に建設省の雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っていますか。

N=346人

項目	人数 (人)	(%)
(1) 良く知っている	23	6.7
(2) だいたい知っている	96	27.7
(3) あまり知らない	152	43.9
(4) 全く知らない	45	13.0
(5) N. A.	30	8.7

問9 あなたは平成9年度に環境庁及び長崎県によって国立公園雲仙の緑のダイヤモンド計画（雲仙ルネッサンス計画（仮称））が策定されたことを知っていますか。

N=346人

項目	人数 (人)	(%)
(1) よく知っている	18	5.2
(2) だいたい知っている	65	18.8
(3) あまり知らない	142	41.1
(4) 全く知らない	106	30.6
(5) N. A.	15	4.3

問10 噴火災害によって次に示す深江町に関する事業は更に進んだと思いますか。それとも停滞したと思いますか。各項目について、①進んだ ②無関係 ③停滞した、の3段階の評価から1つだけ選んで下さい。(1)～(10)のすべての項目についてお答え下さい。

N=346人

(1) 観光資源の開拓

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
146	42.2	90	26.0	35	10.1	73	21.1	2	0.6

(2) 公営住宅の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
217	62.7	50	14.5	15	4.3	63	18.2	1	0.3

(3) 自主防災組織の育成

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
210	60.7	47	13.6	15	4.3	73	21.1	1	0.3

(4) 近隣との人間関係

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)

95	27.5	139	40.2	42	12.1	69	19.9	1	0.3
----	------	-----	------	----	------	----	------	---	-----

(5) 農業の施設化

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
168	48.6	75	21.7	23	6.6	77	22.2	3	0.9

(6) 農地の基盤整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
215	62.1	54	15.6	14	4.1	58	16.8	5	1.4

(7) 水産業対策

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
59	17.0	131	37.9	54	15.6	102	29.5	0	0.0

(8) 企業の誘致

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
18	5.2	129	37.3	108	31.2	91	26.3	0	0.0

(9) スポーツ、レクリエーション施設の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
106	30.6	113	32.7	48	13.9	78	22.5	1	0.3

(10) 高齢者対策

①進んだ		②無関係		③停滞した		⑥N. A		⑦D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
94	27.2	119	34.4	55	15.9	77	22.2	1	0.3

問 11 雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、今後の災害対策としてどのようなことがらが必要と思いますか。次のリストから該当するものをいくつでもお選び下さい。

N=346人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 応急仮設住宅の住環境改善 (広さ、防音、温度)	109	31.5
(2) 火山保険制度 (損害保険)	148	42.8
(3) 災害危険地の土地の買い上げ制度	83	24.0
(4) 雲仙岳災害対策金のような基金創設	115	33.2
(5) 災害対策基本法の改正	104	30.1

(警戒区域設定権者の変更、損失補償など)		
(6) 九州大学島原地震火山観測所の充実	131	37.9
(7) 無人化施工などによる危険地区における防災工事を行なう技術開発	76	22.0
(8) 商工業などの間接被害に対する救済対策	93	26.9
(9) 道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保	156	45.2
(10) 海上輸送路の確保	74	21.4
(11) 積極的な応急・緊急対策（仮設導流堤、矢板工など）の導入	103	29.8
(12) 災害ボランティアの活動	85	24.6
(13) 地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行ない方	53	15.3
(14) 復興・復旧に対する情報提供システム	112	32.4
(15) その他	5	1.4
(16) N. A.	41	11.8

6. 大野木場小学校「被災校舎」現地保存構想についてお伺いします

問1 平成5年5月に策定された深江町復興計画に、旧大野木場小学校「被災校舎」を現地保存し、学習体験型の観光施設を整備する「大野木場災害メモリアル構想」が含まれていることを知っていますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	265	76.7
(2) いいえ	65	18.6
(3) N. A.	16	4.7

問2 平成10年3月に旧大野木場小学校「被災校舎」を現地保存する計画がまとまったことを知っていますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	301	86.9
(2) いいえ	31	9.0
(3) N. A.	14	4.1

問3 被災校舎は見学者を校舎に入れずに整備事業をすることになっています。したがって、当面見学は外からすることになります。将来見学者を校舎内に入

れることについてどう思いますか。

N = 346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 賛成である	137	39.9
(2) どちらともいえない	141	40.2
(3) 反対である	53	15.5
(4) N. A.	15	4.4

付問 3.1 賛成の理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N = 137 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 校舎内を学習体験の場として活用すべきである	67	48.9
(2) 見学者に与える火砕流による災害を実感させることができる	104	75.9
(3) 校舎の一部を資料室や説明室として活用できる	50	36.5
(4) 外からの見学だけではインパクトが弱い	69	50.4
(5) その他	4	2.9
(6) N. A.	4	2.9

付問 3.2 反対の理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N = 53 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 校舎内に人を入れるとなると、校舎内の改修などで整備費がかかるから無理である	22	41.5
(2) 校舎内に人を入れた場合には、安全管理のための施設や人の配置で維持管理費が多くなる	37	69.8
(3) 被災校舎は、モニュメントとしてあのままの姿を保てば十分である。学習・体験のための施設は、周辺に整備すればよい	23	43.4
(4) 校舎の外側から内部が見える工夫をすれば十分である	25	47.2
(5) その他	2	3.8

問 4 「大野木場災害メモリアル計画」は深江町が災害復興計画で目指している火山観光化に役立つと思いますか。

N = 346 人

項 目	人数 (人)	(%)
-----	--------	-----

(1) 大いに期待できる	36	10.5
(2) かなり期待できる	56	16.3
(3) やや期待できる	113	32.7
(4) あまり期待できない	101	29.4
(5) ほとんど期待できない	14	3.8
(6) N. A.	26	7.3

付問 4.1 期待できる理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N=205 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 国道 57 号より上流部に体験学習型ゾーンの中核である被災校舎の保存が決まり、砂防指定地の利活用構想で体験学習型ゾーンと位置付けられているので、被災校舎を中心とした大野木場地区の火山観光化のための施設が本格的に整備されることが期待される	93	45.6
(2) 火砕流による被災施設は、全世界に例のない被災校舎だけであるため、日本・国外からの見学者が訪れることが期待される	82	39.7
(3) 火山観光化のための施設が水無川流域に整備されるので、深江町の観光事業への進出や雇用の拡大が期待できる	96	47.1
(4) 火山を活用した各種のイベントや研修会などを誘致する場合の PR 効果が期待できる	63	30.9
(5) その他	3	1.5
(6) N. A.	16	7.8

付問 4.2 期待できない理由は何ですか。次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

N=115 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 火山観光化の施設の維持管理費などの負担が大きくなるおそれがある	66	57.0
(2) 国道 57 号からの道路の幅員が狭いので、大型車両が入りにくい	40	35.1
(3) 水無川下流域の島原火山科学博物館（仮称）、道の駅や桜パークなどの観光施設から離れているので、人が集まりにくい	46	40.4
(4) 観光は景気などの経済状態で危険性を伴うから確実性に欠ける	39	34.2
(5) その他	8	7.0
(6) N. A.	4	3.5

7. がまだす計画についてお伺いします

問1 平成9年3月に長崎県が「がまだす計画」（島原地域再生行動計画）を策定したことをあなたは知っていますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	270	78.0
(2) いいえ	38	11.0
(3) N. A.	38	11.0

問2 あなたはがまだす計画の内容を知っていますか。

N=270人

項目	人数(人)	(%)
(1) よく知っている	18	6.7
(2) だいたい知っている	76	28.1
(3) 少し知っている	114	42.2
(4) ほとんど知らない	52	19.3
(5) N. A.	10	3.7

問3 がまだす計画では27のプロジェクトが決定されましたが、重点プロジェクトのうち、あなたが重要と考えていることから上位5個だけを選んで下さい。

N=208人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 道の駅の整備事業	62	29.8
(2) 地域高規格道路（島原道路）の整備事業	104	50.0
(3) 街なみ環境整備事業	43	20.7
(4) 砂防指定地利活用推進事業	36	17.3
(5) 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	69	33.2
(6) 島原半島農林業立国宣言事業	9	4.3
(7) 担い手育成畑地帯総合整備事業	18	8.7
(8) 島原・深江地区農地区画整備事業	75	36.1
(9) あすを築く漁協合併総合対策事業	10	4.8
(10) 雲仙岳災害復興種苗放流事業	22	10.6
(11) 広域型増殖場造成事業	8	3.8
(12) 漁村加工推進圏形成事業	7	3.4
(13) 島原火山科学博物館（仮称）建設事業	41	19.7
(14) 土石流災害遺構保存公園（仮称）整備事業	25	12.0
(15) 島原半島広域観光ルート形成事業	50	24.0
(16) 小浜温泉リフレッシュセンター建設事業	0	0.0

(17) 国立公園緑のダイヤモンド計画「雲仙ルネッサンス計画（仮称）」事業	22	10.6
(18) 島原半島商工業振興支援事業	25	12.0
(19) 復興記念病院（仮称）建設事業（島原温泉病院の建て替え）	95	45.7
(20) 地域・生活情報通信基盤の整備事業	17	8.2
(21) ボランティア団体のネットワーク化推進事業	7	3.4
(22) 高等看護学校の設置事業	36	17.3
(23) 観光系学科（高等学校）の設置調査事業	7	3.4
(24) 原城史料館整備事業	2	1.0
(25) 島原復興アリーナ（仮称）建設事業	19	9.1
(26) 島原半島市町村合併調査検討事業	32	15.4
(27) がまだす計画推進のための基金設置事業	29	13.9
(28) N. A.	8	3.8
(29) D. K.	26	12.5

問4 がまだす計画には、地域住民の意向が反映されていると思いますか。

N=208人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分に反映されている	14	6.7
(2) かなり反映されている	68	32.7
(3) 少し反映されている	86	41.3
(4) どちらでもない	23	11.1
(5) やや反映されていない	5	2.4
(6) かなり反映されていない	4	1.9
(7) 全く反映されていない	2	1.0
(8) N. A.	4	1.9
(9) D. K.	2	1.0

問5 あなたは、がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つと思いますか。

N=208人

項目	人数(人)	(%)
(1) 大いに期待できる	16	7.7
(2) かなり期待できる	109	52.4
(3) あまり期待できない	71	34.1
(4) ほとんど期待できない	3	1.5
(5) N. A.	9	4.3

付問5.1 期待できる理由は何ですか。次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

N=125人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 島原地域と行政が一体となった取り組みで策	75	60.6

定された計画で実現の可能性が高い		
(2) 島原地域の復興が地域と行政が一体となった取り組みを行なっていることから、民間が投資しやすい環境が整った	24	19.2
(3) 地元の復興の意欲がまとめられているため、地域の協力が得られることが期待できる	45	36.0
(4) 火山観光化について具体的な構想が固まったので、火山観光化の実現が期待できる	52	41.6
(5) その他	1	0.8
(6) N. A.	3	2.4

付問 5.2 なぜ期待できないのですか。次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

N=74 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 地元の協力が期待できない	20	27.0
(2) 財源の確保がされていない計画がある	33	44.6
(3) 島原地域の活性化は無理である	16	21.6
(4) マスコミなどの島原に対する関心が少なくなったから	26	35.1
(5) 複数の行政機関や市・町に股がる計画があるから	7	9.5
(6) 自主性に乏しく、他人任せの姿勢が行政にも住民にもあるから	50	67.6
(7) その他	4	5.4
(8) N. A.	3	4.1

8. 災害時の避難対策についてお伺いします

問 1 平成 6 年 6 月に深江町が作成した土石流、火砕流に対する避難方法などを示した防災マップや防災ガイドブックを配布しました。あなたはこれらを見たことがありますか。

N=346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) ある	239	69.1
(2) ない	80	23.1
(3) N. A.	27	7.8

付問 1.1 防災マップは今どのようにしていますか。

N=239 人

項 目	人数 (人)	(%)
-----	--------	-----

(1) 家の中のわかりやすいところに貼ってある	42	17.6
(2) 家の中に保管してあり、どこにあるかわかっている	47	19.7
(3) 家の中に保管してあるが、どこにあるか探さないとわからない	58	24.3
(4) 家の中に貼っていた時期があったが、今は保管してある	30	12.6
(5) 家の中に貼っていた時期があったが、今はどこにあるかわからない	56	23.4
(6) その他	1	0.4
(7) N. A.	3	1.2
(8) D. K.	2	0.8

問2 あなたがお住まいの自治会で避難訓練が行なわれたことがありますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) ある	210	60.7
(2) ない	81	23.4
(3) わからない	35	10.1
(4) N. A.	19	5.5
(5) D. K.	1	0.3

付問2.1 あなたは避難訓練には参加したことがありますか。

N=210人

項目	人数(人)	(%)
(1) 参加したことがある	145	69.1
(2) 参加したことがない	62	29.5
(3) N. A.	3	1.4

問3 同居されているご家族についてお伺いします。ご家族の中に災害時に自力で避難できない方がいらっしゃいますか。下の項目にあてはまる方はいくつでもお選び下さい。

N=346人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 4歳未満の乳幼児	31	9.0
(2) 65歳以上の高齢者	101	29.2
(3) 介護が必要な病気・障害を持つ方	24	6.9
(4) その他	7	2.0
(5) いない	165	47.7
(6) N. A.	42	12.1
(7) D. K.	6	1.7

問4 あなたの地区は土石流が発生したときの避難対象地区に含まれていますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	79	22.8
(2) いいえ	198	57.2
(3) わからない	45	13.0
(4) N. A.	23	6.7
(5) D. K.	1	0.3

付問4.1 あなたの地区の避難所を知っていますか。

N=79人

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	69	87.4
(2) いいえ	8	10.1
(3) N. A.	2	2.5

問5 あなたはこれから土石流に備えて避難することがあると思いますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 確実にあるだろう	14	4.0
(2) 十分考えられる	78	22.5
(3) 多分ないだろう	203	58.7
(4) 全くないだろう	27	7.8
(5) N. A.	23	6.7
(6) D. K.	1	0.3

9. 防災まちづくりについてお伺いします

問1 雲仙普賢岳の噴火活動は、平成7年3月に停止状態にあることが確認され、平成7年5月には火山噴火予知連絡会によって追認されています。あなたは噴火活動は今後どのようになると思いますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 終息したと思う	99	28.6
(2) 終息したと思うが、もう1,2年様子を見ないとわからない	107	30.9
(3) 終息したとは思わない	53	15.3
(4) 全く見当がつかない	71	20.5
(5) N. A.	15	4.4
(6) D. K.	1	0.3

問2 深江町において、今後心配される災害は何ですか。次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

N=346人(複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 雲仙普賢岳の火砕流	71	20.5
(2) 水無川の土石流	129	37.3
(3) 雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊	162	46.8
(4) 地震による津波	74	21.4
(5) 地震による密集家屋の火災	75	21.7
(6) 台風による風害	150	43.4
(7) 特に心配なことはない	27	7.8
(8) その他	3	0.9
(9) N. A.	19	5.5

問3 あなたは雲仙普賢岳の火砕流はまだ発生すると思いますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 確実に発生するだろう	9	2.6
(2) 十分に考えられる	119	34.4
(3) 多分発生しないだろう	190	54.9
(4) 二度と発生しないだろう	7	2.0
(5) N. A.	20	5.8
(6) D. K.	1	0.3

問4 あなたは水無川の土石流は今後も発生すると思いますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 確実に発生するだろう	37	10.7
(2) 十分に考えられる	186	53.8
(3) 多分発生しないだろう	95	27.4
(4) 二度と発生しないだろう	6	1.7
(5) N. A.	20	5.8
(6) D. K.	2	0.6

付問4.1 土石流の規模はどの程度になると思いますか。

N=223人

項目	人数(人)	(%)
(1) 現在の導流堤、遊砂地、砂防ダムおよび水無川堤防などの防災施設を越えるような土石流となるだろう	22	9.9

(2) 導流堤、遊砂地、砂防ダムおよび水無川堤防などに納まる土石流となるだろう	137	61.4
(3) 上流域の遊砂地などに捕捉される程度の土石流となるだろう	44	19.7
(4) その他	7	3.1
(5) N. A.	12	5.4
(6) D. K.	1	0.5

付問 4.2 土石流の発生のおそれが少ない理由は何ですか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

N = 101 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 遊砂地、導流堤、河川改修、砂防ダムの着工（水無川 1 号，2 号砂防ダム）などの防災工事が進んで、安全が確保されたから	82	81.2
(2) 上流部に種子をまくことなどによって緑が回復して土砂の流出が押さえられたから	21	20.8
(3) 火砕流が発生せず、火山灰が地表面に少なくなり、流出の割合が減ったから	34	33.7
(4) 砂防ダム群が完成するまで（10～15 年）に、諫早水害や長崎豪雨並みの雨は降らないだろうから	8	7.9
(5) その他	1	1.0
(6) N. A.	6	5.9

問 5 水無川の砂防ダムは 1 号砂防ダムが平成 10 年 2 月に完成しており、2 号砂防ダムが平成 9 年に着工しています。あなたは砂防ダム群の建設をどのように建設すべきとお考えですか。

N = 346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 基本構想（当初の計画）どおりに建設する	139	40.2
(2) 堆積土砂量が増えているので、規模を更に大きくする	43	12.4
(4) 噴火が終息したので、測量や地質調査を行なって基本構想を見直す	92	26.6
(5) 土石流が出なくなったので、規模を小さくする	9	2.6
(6) その他	6	1.7
(7) N. A.	53	15.3
(8) D. K.	4	1.2

問 6 深江町には災害時の近隣の協力を行なうために、自主防災組織が自治会に結成されていますが、自主防災組織があなたの自治会に結成されていることを知っ

ていますか。

N=346 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) はい	228	65.9
(2) いいえ	82	23.7
(3) N. A.	36	10.4

付問 6.1 あなたの地区の自主防災組織は災害時に有効であると思いますか。

N=228 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) かなり有効である	69	30.3
(2) 多少有効である	107	46.9
(3) 有効でない	16	7.0
(4) わからない	33	14.5
(5) N. A.	3	1.3

付問 6.2 有効でないとする理由は何ですか。該当するものをいくつでもお選び下さい。

N=16 人(複数回答)

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 自主防災組織の結成が形式的に結成されており、活動計画がないから	9	56.3
(2) 住民の参加が期待できないから	9	56.3
(3) 町役場、消防団、警察署との連携がなされていないから	1	6.3
(4) 災害時の情報が入手できないから	1	6.3
(5) その他	0	0.0
(6) N. A.	1	6.3

10. 深江町の基幹産業である農業についてお伺いします

問 1 この災害が発生する前から農業をしていましたか。

N=117 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 専業農家をしていた	68	58.1
(2) 兼業農家をしていた	46	39.3
(3) N. A.	3	2.6

問 2 現在、農業をしていますか。

N=117 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 専業農家をしている	43	36.8
(2) 兼業農家をしている	29	24.8
(3) 再開したいと考えている	4	3.4
(4) 農業をやめた	32	27.3
(6) N. A.	9	7.7

付問 2.1 農地はどうされましたか。

N=32 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 砂防事業や防災事業の用地として売却した	1	3.1
(2) 営農希望者に貸している	21	65.7
(3) その他	5	15.6
(4) N. A.	4	12.5
(5) D. K.	1	3.1

問 3 災害前と比べて、農地の面積はどうになりましたか。

N=104 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 災害前と同じ	52	50.0
(2) 災害前よりも広い	13	12.5
(3) 災害前よりも狭い	35	33.6
(4) N. A.	3	2.9
(5) D. K.	1	1.0

問 4 作物の転換はありましたか。

N=104 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) あった	18	17.3
(2) ない	69	66.3
(3) N. A.	17	16.4

問 5 後継者はどうですか。

N=104 人

項 目	人数 (人)	(%)
(1) 決まっている	34	32.7
(2) 決まっていたが、噴火災害でやめた	13	12.5
(3) 子供はいるが、見込みがない	45	43.2
(4) 子供がいない	2	1.9
(5) その他	1	1.0
(6) N. A.	8	7.7
(7) D. K.	1	1.0

11. 最後にあなにご自身についてお伺いします

問1 あなたの性別をお教え下さい。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 男性	149	43.1
(2) 女性	189	54.6
(3) N. A.	5	1.4
(4) D. K.	3	0.9

問2 あなたの年齢をお教え下さい。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 20歳代	23	6.6
(2) 30歳代	45	13.0
(3) 40歳代	67	19.4
(4) 50歳代	56	16.2
(5) 60歳代	76	22.0
(6) 70歳代以上	70	20.2
(7) N. A.	7	2.0
(8) D. K.	2	0.6

問3 あなたの住んでいる地区をお教え下さい。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 大野木場地区	59	17.0
(2) 瀬野地区	39	11.3
(3) 諏訪地区	59	17.0
(4) 馬場地区	52	15.0
(5) 船津地区	49	14.2
(6) 小林地区	77	22.3
(7) N. A.	11	3.2

問4 あなたの職業をお教え下さい。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 農林業	49	14.2
(2) 漁業	5	1.4
(3) 自営工業	5	1.4

(4) 自営商業	18	5.2
(5) 公務員	20	5.8
(6) 会社員	58	16.8
(7) 専門職・自由業	16	4.6
(8) 家庭婦人	39	11.3
(9) 学生	3	0.9
(10) 無職	90	26.0
(11) その他	25	7.2
(12) N. A.	10	2.9
(13) D. K.	8	2.3

問5 あなたは深江町にお住まいになって何年になりますか。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 1年未満	5	1.5
(2) 1年以上5年未満	17	4.9
(3) 5年以上10年未満	18	5.2
(4) 10年以上15年未満	21	6.1
(5) 15年以上20年未満	27	7.8
(6) 20年以上	242	69.9
(7) N. A.	16	4.6

問6 あなたのご家族の人数(同居)をお教え下さい。

N=346人

項目	人数(人)	(%)
(1) 1人	21	6.1
(2) 2人	59	17.1
(3) 3人	53	15.3
(4) 4人	48	13.9
(5) 5人	43	12.4
(6) 6人	63	18.2
(7) 7人以上	45	13.0
(8) N. A.	14	4.0

付録Ⅲ：深江町の復興・振興に関するアンケート調査

クロス集計（地域別，職業別）

問 あなたの地区では、雲仙普賢岳の火山災害前と比較して近隣とのつきあいはどう変化しましたか。

- (1) 以前に比べて非常に親密になった
- (2) 以前に比べて多少親密になった
- (3) 以前とほとんど変わらない
- (4) 以前と比べて多少悪化した
- (5) 以前と比べて非常に悪化した
- (6) わからない
- (7) 無回答，無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	2(3.4%)	4(10.2%)	0(0.0%)	1(1.9%)	5(10.2%)	1(1.3%)
(2)	5(8.5%)	5(12.8%)	3(5.1%)	1(1.9%)	0(0.0%)	4(5.2%)
(3)	38(64.4%)	26(66.7%)	50(84.7%)	46(88.5%)	42(85.8%)	65(84.4%)
(4)	6(10.1%)	3(7.7%)	1(1.7%)	0(0.0%)	1(2.0%)	4(5.2%)
(5)	1(1.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(6)	4(6.8%)	1(2.6%)	4(6.8%)	4(7.7%)	0(0.0%)	1(1.3%)
(7)	3(5.1%)	0(0.0%)	1(1.7%)	0(0.0%)	1(2.0%)	2(2.6%)

問 あなたはこれからも深江町に住み続けたいですか。

- (1) 住み続けたい
- (2) 他の市町村に移りたい
- (3) 無回答，無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	49(83.0%)	35(89.7%)	51(86.4%)	50(96.2%)	47(96.0%)	72(93.5%)
(2)	8(13.6%)	1(2.6%)	3(5.1%)	1(1.9%)	1(2.0%)	3(3.9%)
(3)	2(3.4%)	3(7.7%)	5(8.5%)	1(1.9%)	1(2.0%)	2(2.6%)

・年齢別

	20歳代 (N=23人)	30歳代 (N=45人)	40歳代 (N=67人)	50歳代 (N=56人)	60歳代 (N=77人)	70歳代以上 (N=70人)
(1)	17(73.8%)	40(88.9%)	64(95.5%)	49(87.5%)	72(93.5%)	64(91.4%)
(2)	5(21.7%)	4(8.9%)	2(3.0%)	4(7.1%)	2(2.6%)	1(1.4%)
(3)	1(4.4%)	1(2.2%)	1(1.5%)	3(5.4%)	3(3.9%)	5(7.2%)

・職業別

	農 林 業 (N=49)	漁 業 (N=5)	自 営 工 業 (N=5)	自 営 商 業 (N=18)	公 務 員 (N=20)	会 社 員 (N=58)	自 専 由 門 業 職 (N=16)	家 庭 婦 人 (N=39)	学 生 (N=3)	無 職 (N=90)	そ の 他 (N=25)
(1)	46 (93.9%)	5 (100%)	5 (100%)	18 (100%)	18 (90.0%)	56 (96.6%)	12 (75.0%)	34 (87.2%)	2 (66.7%)	81 (90.0%)	21 (84.0%)
(2)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (1.7%)	4 (25.0%)	2 (5.1%)	1 (33.3%)	5 (5.6%)	3 (12.0%)
(3)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	3 (7.7%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)	1 (4.0%)

問 現在の深江町における生活についてお伺いします。現在の生活で不便や不満に思っていることは何ですか。

- (1) 住宅
- (2) 仕事
- (3) 収入
- (4) 子供の教育
- (5) 健康・医療
- (6) 情報の入手
- (7) 交通の便
- (8) 都市下水・廃水処理
- (9) 人間関係
- (10) 衛生
- (11) 騒音
- (12) 生活学習
- (13) スポーツ・レクリエーション
- (14) 文化活動
- (15) プライバシー
- (16) 買物
- (17) 駐車場
- (18) 高齢者福祉
- (19) 交通安全
- (20) 災害（土石流、浸水、など）
- (21) その他
- (22) 無回答

・地区別（複数回答）

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	1(1.7%)	0(0.0%)	1(1.7%)	2(3.8%)	3(6.1%)	5(6.5%)
(2)	11(18.6%)	6(15.4%)	13(22.0%)	11(21.2%)	15(30.6%)	19(24.7%)
(3)	14(23.7%)	7(17.9%)	19(32.2%)	14(26.9%)	16(32.7%)	26(33.8%)
(4)	5(8.5%)	1(2.6%)	5(8.5%)	8(15.4%)	2(4.1%)	8(10.4%)
(5)	5(8.5%)	8(20.5%)	11(18.6%)	9(17.3%)	9(18.4%)	8(10.4%)
(6)	6(10.2%)	5(12.8%)	3(5.1%)	7(13.5%)	6(12.2%)	7(9.1%)
(7)	31(52.5%)	14(35.9%)	9(15.3%)	19(36.5%)	16(32.7%)	36(46.8%)
(8)	10(16.9%)	11(28.2%)	12(20.3%)	16(30.8%)	14(28.6%)	19(24.7%)
(9)	5(8.5%)	2(5.1%)	5(8.5%)	2(3.8%)	8(16.3%)	7(9.1%)
(10)	1(1.7%)	1(2.6%)	4(6.8%)	5(9.6%)	2(4.1%)	7(9.1%)
(11)	3(5.1%)	1(2.6%)	3(5.1%)	1(1.9%)	6(12.2%)	2(2.6%)
(12)	2(3.4%)	1(2.6%)	1(1.7%)	2(3.8%)	1(2.0%)	2(2.6%)
(13)	4(6.8%)	2(5.1%)	3(5.1%)	5(9.6%)	3(6.1%)	2(2.6%)
(14)	5(8.5%)	4(10.3%)	2(3.4%)	4(7.7%)	3(6.1%)	5(6.5%)
(15)	3(5.1%)	2(5.1%)	5(8.5%)	3(5.8%)	4(8.2%)	7(9.1%)
(16)	18(30.5%)	10(25.6%)	9(15.3%)	8(15.4%)	2(4.1%)	12(15.6%)
(17)	1(1.7%)	1(2.6%)	1(1.7%)	1(1.9%)	8(16.3%)	1(1.3%)
(18)	13(22.0%)	7(17.9%)	10(16.9%)	10(19.2%)	9(18.4%)	10(13.0%)
(19)	2(3.4%)	3(7.7%)	9(15.3%)	1(1.9%)	4(8.2%)	1(1.3%)
(20)	5(8.5%)	8(20.5%)	3(5.1%)	4(7.7%)	5(10.2%)	4(5.2%)
(21)	2(3.4%)	6(15.4%)	5(8.5%)	1(1.9%)	2(4.1%)	6(7.8%)
(22)	9(15.3%)	4(10.3%)	5(8.5%)	9(17.3%)	4(8.2%)	8(10.4%)

・職業別（複数回答）

	農 林 業 (N=49)	漁 業 (N=5)	自 営 工 業 (N=5)	自 営 商 業 (N=18)	公 務 員 (N=20)	会 社 員 (N=58)	自 専 由 門 業 職 (N=16)	家 庭 婦 人 (N=39)	学 生 (N=3)	無 職 (N=90)	そ の 他 (N=25)
(1)	1 (2.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	3 (18.8%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)	0 (0.0%)
(2)	8 (16.3%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	4 (22.2%)	2 (10.0%)	13 (22.4%)	5 (31.3%)	12 (30.8%)	1 (33.3%)	22 (24.4%)	3 (12.0%)
(3)	18 (36.7%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	9 (50.0%)	2 (10.0%)	19 (32.8%)	9 (56.3%)	9 (23.1%)	0 (0.0%)	18 (20.0%)	5 (20.0%)
(4)	5 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	2 (10.0%)	9 (15.5%)	3 (18.8%)	3 (7.7%)	0 (0.0%)	6 (6.7%)	1 (4.0%)
(5)	7 (14.3%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	4 (22.2%)	3 (15.0%)	8 (13.8%)	3 (18.8%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	18 (20.0%)	2 (8.0%)
(6)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	3 (15.0%)	6 (10.3%)	1 (6.3%)	4 (10.3%)	0 (0.0%)	11 (12.2%)	2 (8.0%)
(7)	13 (26.5%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	6 (33.3%)	6 (30.0%)	28 (48.3%)	5 (31.3%)	15 (38.5%)	2 (66.7%)	37 (41.1%)	10 (40.0%)
(8)	11 (22.4%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	6 (33.3%)	12 (60.0%)	12 (20.7%)	4 (25.0%)	6 (15.4%)	0 (0.0%)	23 (25.6%)	4 (16.0%)

(9)	5 (10.2%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (1.7%)	4 (25.0%)	5 (12.8%)	1 (33.3%)	5 (5.6%)	6 (24.0%)
(10)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (11.1%)	3 (15.0%)	5 (8.6%)	1 (6.3%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	5 (5.6%)	2 (8.0%)
(11)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	4 (6.9%)	1 (6.3%)	2 (5.1%)	1 (33.3%)	3 (3.3%)	2 (8.0%)
(12)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	2 (12.5%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)
(13)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	3 (16.7%)	1 (5.0%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	2 (8.0%)
(14)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	4 (22.2%)	5 (25.0%)	2 (3.4%)	2 (12.5%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)	2 (8.0%)
(15)	3 (6.1%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	4 (6.9%)	6 (37.5%)	4 (10.3%)	0 (0.0%)	3 (3.3%)	1 (4.0%)
(16)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	4 (22.2%)	2 (10.0%)	11 (19.0%)	2 (12.5%)	9 (23.1%)	1 (33.3%)	23 (25.6%)	3 (12.0%)
(17)	2 (4.1%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (5.6%)	1 (5.0%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
(18)	6 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (16.7%)	4 (20.0%)	11 (19.0%)	2 (12.5%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	28 (31.1%)	2 (8.0%)
(19)	5 (10.2%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (8.6%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (7.8%)	0 (0.0%)
(20)	3 (6.1%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (5.6%)	2 (10.0%)	6 (10.3%)	2 (12.5%)	3 (7.7%)	0 (0.0%)	9 (10.0%)	2 (8.0%)
(21)	5 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	3 (15.0%)	4 (6.9%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (5.6%)	3 (12.0%)
(22)	5 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	9 (15.5%)	1 (6.3%)	6 (15.4%)	0 (0.0%)	9 (10.0%)	4 (16.0%)

問 噴火継続中、あなたのお宅はどうでしたか。

- (1) 警戒区域に含まれた
- (2) 警戒区域及び避難勧告に含まれた
- (3) 避難勧告に含まれた
- (4) 特に規制を受けなかった
- (5) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	20(33.9%)	16(41.0%)	12(20.3%)	0(0.0%)	4(8.2%)	1(1.3%)
(2)	28(47.4%)	15(38.5%)	20(33.9%)	0(0.0%)	1(2.0%)	1(1.3%)
(3)	3(5.1%)	3(7.7%)	10(17.0%)	0(0.0%)	8(16.3%)	0(0.0%)
(4)	0(0.0%)	0(0.0%)	12(20.3%)	47(90.4%)	28(57.2%)	71(92.2%)
(5)	8(13.6%)	5(12.8%)	5(8.5%)	5(9.6%)	8(16.3%)	4(5.2%)

問 あなたは噴火中に避難しましたか。

- (1) はい
- (2) いいえ
- (3) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	55(93.2%)	35(89.7%)	49(83.0%)	10(19.2%)	23(46.9%)	18(23.4%)
(2)	0(0.0%)	0(0.0%)	9(15.3%)	39(75.0%)	24(49.0%)	56(72.7%)
(3)	4(6.8%)	4(10.3%)	1(1.7%)	3(5.8%)	2(4.1%)	3(3.9%)

問 あなたのお宅ではどんな被害を受けましたか。

- (1) 家屋が全半壊した
- (2) 山林、田畑が土石流や火砕流で被害を受けた
- (3) 家畜に被害が出た
- (4) 店舗等が被害を受けた
- (5) 漁場が被害を受けた
- (6) 作物が収穫できなかった
- (7) 家や田畑に立ち入れないことによって生じる被害を受けた
- (8) その他
- (9) 被害はなかった
- (10) 無回答、無効回答

・地区別（複数回答）

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	10(16.9%)	2(5.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(2)	18(30.5%)	9(23.1%)	3(5.1%)	1(1.9%)	1(2.0%)	8(10.4%)
(3)	5(8.5%)	2(5.1%)	1(1.7%)	1(1.9%)	2(4.1%)	3(3.9%)
(4)	1(1.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(5)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.7%)	0(0.0%)	9(18.4%)	0(0.0%)
(6)	20(33.9%)	11(28.2%)	17(28.8%)	12(23.1%)	4(8.2%)	31(40.3%)
(7)	26(44.1%)	19(48.7%)	23(39.0%)	3(5.8%)	1(2.0%)	2(2.6%)
(8)	13(22.0%)	7(17.9%)	7(11.9%)	11(21.2%)	7(14.3%)	24(31.2%)
(9)	11(18.6%)	9(23.1%)	21(35.6%)	27(51.9%)	17(34.7%)	18(23.4%)
(10)	8(13.6%)	5(12.8%)	6(10.2%)	6(11.5%)	13(26.5%)	9(11.7%)

問 あなたのお宅では生活（経済）は災害前と比べて災害中はどう変わりましたか。

- (1) 楽になった
- (2) 変わらない
- (3) 少し苦しくなった
- (4) かなり苦しくなった
- (5) 非常に苦しくなった
- (6) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	1(1.7%)	2(5.1%)	0(0.0%)	3(5.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(2)	23(39.0%)	16(41.0%)	38(64.4%)	34(65.4%)	31(63.2%)	40(51.9%)
(3)	20(33.9%)	9(23.1%)	17(28.8%)	7(13.4%)	10(20.4%)	19(24.7%)
(4)	8(13.5%)	6(15.4%)	1(1.7%)	5(9.6%)	3(6.1%)	6(7.8%)
(5)	4(6.8%)	1(2.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(2.1%)	5(6.5%)
(6)	3(5.1%)	5(12.8%)	3(5.1%)	3(5.8%)	4(8.2%)	7(9.1%)

・職業別

	農 林 業 (N=49)	漁 業 (N=5)	自 営 工 業 (N=5)	自 営 商 業 (N=18)	公 務 員 (N=20)	会 社 員 (N=58)	自 専 由 門 業 職 (N=16)	家 庭 婦 人 (N=39)	学 生 (N=3)	無 職 (N=90)	そ の 他 (N=25)
(1)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)
(2)	12 (24.5%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	7 (38.9%)	15 (75.0%)	37 (63.7%)	8 (50.0%)	31 (79.5%)	3 (100%)	49 (54.5%)	14 (56.0%)
(3)	18 (36.7%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	8 (44.4%)	3 (15.0%)	15 (25.8%)	2 (12.5%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	22 (24.5%)	6 (24.0%)
(4)	11 (22.4%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (5.5%)	2 (8.0%)
(5)	4 (8.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)
(6)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	2 (3.5%)	2 (12.5%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)	9 (10.0%)	3 (12.0%)

問 噴火が終息して3年経過しましたが、現在はどうですか。

- (1) 回復して噴火前に戻った
- (2) 回復して噴火前よりも楽になった
- (3) 回復したが前に戻るまでにはなっていない
- (4) 回復していない(そのままである)
- (5) 回復するどころかかえって苦しくなっている
- (6) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=32人)	瀬野地区 (N=16人)	諏訪地区 (N=18人)	馬場地区 (N=12人)	船津地区 (N=14人)	小林地区 (N=30人)
(1)	6(18.8%)	6(37.6%)	5(27.7%)	4(33.3%)	5(35.7%)	8(26.7%)
(2)	0(0.0%)	1(6.2%)	1(5.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(3)	18(56.2%)	8(50.0%)	9(50.0%)	8(66.7%)	4(28.6%)	14(46.6%)
(4)	4(12.5%)	0(0.0%)	1(5.6%)	0(0.0%)	1(7.1%)	3(10.0%)
(5)	4(12.5%)	1(6.2%)	2(11.1%)	0(0.0%)	4(28.6%)	3(10.0%)
(6)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(6.7%)

問 島原地域は地域の活性化の大きな柱として火山観光の推進を目指しており、がまだ計画でも各種の計画(道の駅、土石流災害遺構保存公園(仮称)、島原火山科学博物館(仮称)、国立公園雲仙の整備)が進められようとしています。あなたは、火山観光化をどう思いますか。

- (1) 大いに期待できる
- (2) かなり期待できる
- (3) やや期待できる
- (4) あまり期待できない
- (5) ほとんど期待できない
- (6) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	7(11.9%)	4(10.2%)	8(13.6%)	3(5.8%)	5(10.2%)	6(7.8%)
(2)	12(20.3%)	10(25.6%)	8(13.6%)	10(19.2%)	8(16.3%)	11(14.3%)
(3)	18(30.5%)	9(23.1%)	16(27.1%)	14(26.9%)	12(24.5%)	26(33.7%)
(4)	12(20.3%)	12(30.8%)	17(28.8%)	19(36.5%)	18(36.7%)	24(31.2%)
(5)	2(3.4%)	1(2.6%)	7(11.8%)	3(5.8%)	5(10.2%)	4(5.2%)
(6)	8(13.6%)	3(7.7%)	3(5.1%)	3(5.8%)	1(2.1%)	6(7.8%)

・職業別

	農 林 業 (N=49)	漁 業 (N=5)	自 営 工 業 (N=5)	自 営 商 業 (N=18)	公 務 員 (N=20)	会 社 員 (N=58)	自 専 由 門 業 職 (N=16)	家 庭 婦 人 (N=39)	学 生 (N=3)	無 職 (N=90)	そ の 他 (N=25)
(1)	5 (10.2%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	1 (5.6%)	2 (10.0%)	4 (6.9%)	1 (6.3%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)	8 (8.9%)	2 (8.0%)
(2)	14 (28.6%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	4 (22.2%)	4 (20.0%)	8 (13.8%)	2 (12.5%)	6 (15.4%)	0 (0.0%)	15 (16.7%)	3 (12.0%)
(3)	9 (18.3%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	6 (33.3%)	5 (25.0%)	19 (32.8%)	3 (18.7%)	16 (41.0%)	0 (0.0%)	26 (28.9%)	7 (28.0%)
(4)	17 (34.7%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	4 (22.2%)	8 (40.0%)	20 (34.5%)	7 (43.8%)	10 (25.6%)	2 (66.7%)	25 (27.8%)	7 (28.0%)
(5)	2 (4.1%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	3 (16.7%)	1 (5.0%)	6 (10.3%)	3 (18.7%)	1 (2.6%)	1 (33.3%)	4 (4.4%)	1 (4.0%)
(6)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	12 (13.3%)	5 (20.0%)

問 あなたは平成5年5月に深江町復興計画が策定されたことを知っていますか。

- (1) はい
- (2) いいえ
- (3) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	37(62.7%)	21(53.8%)	41(69.5%)	27(51.9%)	28(57.1%)	49(63.6%)
(2)	18(30.5%)	18(46.2%)	18(31.5%)	23(44.2%)	16(32.7%)	24(31.2%)
(3)	4(6.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(3.9%)	5(10.2%)	4(5.2%)

問 深江町復興計画には地域住民の意向が反映されていると思いますか。

- (1) よく反映されている
- (2) だいたい反映されている
- (3) やや反映されている
- (4) 反映されていない
- (5) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=37人)	瀬野地区 (N=21人)	諏訪地区 (N=41人)	馬場地区 (N=27人)	船津地区 (N=28人)	小林地区 (N=49人)
(1)	4(10.8%)	3(14.3%)	5(12.2%)	1(3.7%)	0(0.0%)	6(12.3%)
(2)	16(43.3%)	6(28.6%)	19(46.4%)	13(48.2%)	11(39.3%)	15(30.6%)
(3)	11(29.7%)	8(38.1%)	11(26.8%)	9(33.3%)	11(39.3%)	18(36.7%)
(4)	4(10.8%)	1(4.7%)	6(14.6%)	3(11.1%)	6(21.4%)	9(18.4%)
(5)	2(5.4%)	3(14.3%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)	1(2.0%)

問 あなたは平成8年度に建設省の雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っていますか。

- (1) 良く知っている
- (2) だいたい知っている
- (3) あまり知らない
- (4) 全く知らない
- (5) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	7(11.9%)	2(5.1%)	4(6.8%)	2(3.9%)	5(10.2%)	2(2.6%)
(2)	18(30.5%)	8(20.5%)	19(32.2%)	15(28.8%)	11(22.5%)	24(31.2%)
(3)	19(32.2%)	19(48.7%)	28(47.4%)	23(44.2%)	20(40.8%)	39(50.6%)
(4)	6(10.2%)	7(18.0%)	8(13.6%)	10(19.2%)	8(16.3%)	5(6.5%)
(5)	9(15.2%)	3(7.7%)	0(0.0%)	2(3.9%)	5(10.2%)	7(9.1%)

問 雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、今後の災害対策としてどのようなことがらが必要と思いますか。

- (1) 応急仮設住宅の住環境改善（広さ、防音、温度）
- (2) 火山保険制度（損害保険）
- (3) 災害危険地の土地の買い上げ制度
- (4) 雲仙岳災害対策金のような基金創設
- (5) 災害対策基本法の改正（警戒区域設定権者の変更、損失補償など）
- (6) 九州大学島原地震火山観測所の充実
- (7) 無人化施工などによる危険地区における防災工事を行なう技術開発
- (8) 商工業などの間接被害に対する救済対策
- (9) 道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保
- (10) 海上輸送路の確保
- (11) 積極的な応急・緊急対策（仮設導流堤、矢板工など）の導入
- (12) 災害ボランティアの活動
- (13) 地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行ない方

(14) 復興・復旧に対する情報提供システム

(15) その他

(16) 無回答

・地区別（複数回答）

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	26(44.1%)	19(48.7%)	13(22.0%)	12(23.1%)	16(32.7%)	20(26.0%)
(2)	30(50.8%)	16(41.0%)	29(49.2%)	21(40.4%)	19(38.8%)	30(39.0%)
(3)	18(30.5%)	13(33.3%)	17(28.8%)	8(15.4%)	12(24.5%)	15(19.5%)
(4)	26(44.1%)	16(41.0%)	24(40.7%)	14(26.9%)	13(26.5%)	22(28.6%)
(5)	25(42.4%)	11(28.2%)	17(28.8%)	15(28.8%)	12(24.5%)	21(27.3%)
(6)	18(30.5%)	24(61.5%)	19(32.2%)	23(44.2%)	17(34.7%)	28(36.4%)
(7)	17(28.8%)	6(15.4%)	16(27.1%)	15(28.8%)	8(16.3%)	12(15.6%)
(8)	16(27.1%)	7(17.9%)	19(32.2%)	18(34.6%)	10(20.4%)	21(27.3%)
(9)	28(47.5%)	18(46.2%)	26(44.1%)	22(42.3%)	17(34.7%)	42(54.5%)
(10)	13(22.0%)	7(17.9%)	8(13.6%)	12(23.1%)	11(22.4%)	23(29.9%)
(11)	26(44.1%)	16(41.0%)	13(22.0%)	13(25.0%)	8(16.3%)	22(28.6%)
(12)	19(32.2%)	12(30.8%)	13(22.0%)	7(13.5%)	13(26.5%)	18(23.4%)
(13)	11(18.6%)	5(12.8%)	9(15.3%)	6(11.5%)	6(12.2%)	16(20.8%)
(14)	20(33.9%)	15(38.5%)	20(33.9%)	17(32.7%)	13(26.5%)	27(35.1%)
(15)	2(3.4%)	0(0.0%)	3(5.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(16)	6(10.2%)	1(2.6%)	4(6.8%)	6(11.5%)	9(18.4%)	11(14.3%)

問 「大野木場災害メモリアル計画」は深江町が災害復興計画で目指している火山観光化に役立つと思いますか。

(1) 大いに期待できる

(2) かなり期待できる

(3) やや期待できる

(4) あまり期待できない

(5) ほとんど期待できない

(6) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	9(15.3%)	6(15.4%)	7(11.8%)	2(3.8%)	6(12.2%)	5(6.5%)
(2)	17(28.8%)	6(15.4%)	6(10.2%)	9(17.3%)	5(10.2%)	12(15.6%)
(3)	14(23.7%)	11(28.2%)	22(37.3%)	18(34.7%)	17(34.7%)	30(38.9%)
(4)	9(15.3%)	11(28.2%)	20(33.9%)	19(36.6%)	14(28.6%)	24(31.2%)
(5)	2(3.4%)	2(5.1%)	2(3.4%)	2(3.8%)	3(6.1%)	3(3.9%)
(6)	8(13.5%)	3(7.7%)	2(3.4%)	2(3.8%)	4(8.2%)	3(3.9%)

問 がまだず計画では27のプロジェクトが決定されましたが、重点プロジェクトのうち、あなたが重要と考え

ていることがらは何ですか。

- (1) 道の駅の整備事業
- (2) 地域高規格道路（島原道路）の整備事業
- (3) 街なみ環境整備事業
- (4) 砂防指定地利活用推進事業
- (5) 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業
- (6) 島原半島農林業立国宣言事業
- (7) 担い手育成畑地帯総合整備事業
- (8) 島原・深江地区農地区画整備事業
- (9) あすを築く漁協合併総合対策事業
- (10) 雲仙岳災害復興種苗放流事業
- (11) 広域型増殖場造成事業
- (12) 漁村加工推進圏形成事業
- (13) 島原火山科学博物館（仮称）建設事業
- (14) 土石流災害遺構保存公園（仮称）整備事業
- (15) 島原半島広域観光ルート形成事業
- (16) 小浜温泉リフレッシュセンター建設事業
- (17) 国立公園緑のダイヤモンド計画「雲仙ルネッサンス計画（仮称）」事業
- (18) 島原半島商工業振興支援事業
- (19) 復興記念病院（仮称）建設事業（島原温泉病院の建て替え）
- (20) 地域・生活情報通信基盤の整備事業
- (21) ボランティア団体のネットワーク化推進事業
- (22) 高等看護学校の設置事業
- (23) 観光系学科（高等学校）の設置調査事業
- (24) 原城史料館整備事業
- (25) 島原復興アリーナ（仮称）建設事業
- (26) 島原半島市町村合併調査検討事業
- (27) がまだず計画推進のための基金設置事業
- (28) 無回答，無効回答

・地区別（複数回答）

	大野木場地区 (N=34人)	瀬野地区 (N=25人)	諏訪地区 (N=37人)	馬場地区 (N=30人)	船津地区 (N=30人)	小林地区 (N=50人)
(1)	9(26.5%)	12(48.0%)	12(32.4%)	8(26.7%)	12(40.0%)	9(18.0%)
(2)	14(41.2%)	10(40.0%)	20(54.1%)	18(60.0%)	15(50.0%)	25(50.0%)
(3)	8(23.5%)	2(8.0%)	9(24.3%)	5(16.7%)	5(16.7%)	14(28.0%)
(4)	9(26.5%)	3(12.0%)	5(13.5%)	6(20.0%)	5(16.7%)	8(16.0%)
(5)	11(32.4%)	10(40.0%)	11(29.7%)	9(30.0%)	11(36.7%)	16(32.0%)
(6)	2(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(6.7%)	1(3.3%)	4(8.0%)
(7)	3(8.8%)	0(0.0%)	5(13.5%)	2(6.7%)	1(3.3%)	7(14.0%)
(8)	13(38.2%)	9(36.0%)	17(45.9%)	7(23.3%)	7(23.3%)	21(42.0%)
(9)	1(2.9%)	2(8.0%)	3(8.1%)	1(3.3%)	2(6.7%)	1(2.0%)

(10)	2(5.9%)	2(8.0%)	6(16.2%)	3(10.0%)	5(16.7%)	3(6.0%)
(11)	3(8.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(6.7%)	3(6.0%)
(12)	1(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(13.3%)	2(4.0%)
(13)	5(14.7%)	8(32.0%)	9(24.3%)	10(33.3%)	3(10.0%)	6(12.0%)
(14)	5(14.7%)	2(8.0%)	6(16.2%)	3(10.0%)	4(13.3%)	4(8.0%)
(15)	11(32.4%)	8(32.0%)	8(21.6%)	5(16.7%)	6(20.0%)	11(22.0%)
(16)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(17)	5(14.7%)	2(8.0%)	4(10.8%)	4(13.3%)	5(16.7%)	2(4.0%)
(18)	5(14.7%)	4(16.0%)	0(0.0%)	5(16.7%)	5(16.7%)	6(12.0%)
(19)	14(41.2%)	10(40.0%)	16(43.2%)	15(50.0%)	12(40.0%)	27(54.0%)
(20)	3(8.8%)	2(8.0%)	2(5.4%)	2(6.7%)	1(3.3%)	7(14.0%)
(21)	1(2.9%)	1(4.0%)	2(5.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(6.0%)
(22)	6(17.6%)	4(16.0%)	8(21.6%)	2(6.7%)	7(23.3%)	8(16.0%)
(23)	2(5.9%)	0(0.0%)	1(2.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(8.0%)
(24)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(5.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(25)	4(11.8%)	3(12.0%)	3(8.1%)	4(13.3%)	1(3.3%)	4(8.0%)
(26)	4(11.8%)	2(8.0%)	4(10.8%)	8(26.7%)	4(13.3%)	10(20.0%)
(27)	9(26.5%)	4(16.0%)	2(5.4%)	1(3.3%)	7(23.3%)	5(10.0%)
(28)	4(11.8%)	5(20.0%)	6(16.2%)	6(20.0%)	5(16.7%)	8(16.0%)

・職業別（複数回答）

	農 林 業 (N=32)	漁 業 (N=4)	自 営 工 業 (N=2)	自 営 商 業 (N=12)	公 務 員 (N=17)	会 社 員 (N=37)	自 専 由 門 業 職 (N=8)	家 庭 婦 人 (N=17)	学 生 (N=0)	無 職 (N=57)	そ の 他 (N=14)
(1)	7 (21.9%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	4 (33.3%)	2 (11.8%)	7 (18.9%)	3 (37.5%)	7 (41.2%)	0 (0.0%)	24 (42.1%)	3 (21.4%)
(2)	15 (46.9%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	5 (41.7%)	11 (64.7%)	23 (62.2%)	4 (50.0%)	8 (47.1%)	0 (0.0%)	23 (40.4%)	6 (42.9%)
(3)	5 (15.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (33.3%)	3 (17.6%)	10 (27.0%)	2 (25.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	9 (15.8%)	5 (35.7%)
(4)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	8 (21.6%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	15 (26.3%)	2 (14.3%)
(5)	5 (15.6%)	0 (0.0%)	2 (100%)	6 (50.0%)	6 (35.3%)	12 (32.4%)	4 (50.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	21 (36.8%)	6 (42.9%)
(6)	3 (9.4%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)
(7)	10 (31.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)
(8)	19 (59.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (33.3%)	1 (5.9%)	9 (24.3%)	4 (50.0%)	5 (29.4%)	0 (0.0%)	26 (45.6%)	3 (21.4%)
(9)	2 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	3 (5.3%)	0 (0.0%)
(10)	2 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	2 (11.8%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	7 (12.3%)	3 (21.4%)
(11)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)	0 (0.0%)

(12)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)
(13)	5 (15.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)	5 (29.4%)	9 (24.3%)	0 (0.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	11 (19.3%)	2 (14.3%)
(14)	4 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	5 (13.5%)	0 (0.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	5 (8.8%)	3 (21.4%)
(15)	6 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	3 (17.6%)	11 (29.7%)	2 (25.0%)	8 (47.1%)	0 (0.0%)	13 (22.8%)	5 (35.7%)
(16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(17)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	3 (17.6%)	3 (8.1%)	2 (25.0%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)	2 (14.3%)
(18)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	12 (32.4%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)	1 (7.1%)
(19)	11 (34.4%)	1 (25.0%)	2 (100%)	5 (41.7%)	9 (52.9%)	18 (48.6%)	6 (75.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	28 (49.1%)	8 (57.1%)
(20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	5 (13.5%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	6 (10.5%)	1 (7.1%)
(21)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (5.3%)	0 (0.0%)
(22)	4 (12.5%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	1 (8.3%)	2 (11.8%)	6 (16.2%)	2 (25.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	12 (21.1%)	3 (21.4%)
(23)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	1 (7.1%)
(24)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(25)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	3 (17.6%)	7 (18.9%)	1 (12.5%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	3 (21.4%)
(26)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (8.3%)	6 (35.3%)	4 (10.8%)	3 (37.5%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	10 (17.5%)	2 (14.3%)
(27)	9 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	7 (18.9%)	1 (12.5%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	7 (12.3%)	1 (7.1%)
(28)	4 (28.1%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	4 (33.3%)	3 (17.6%)	2 (5.4%)	1 (12.5%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	8 (14.0%)	2 (14.3%)

問 あなたは、がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つと思いますか。

- (1) 大いに期待できる
- (2) かなり期待できる
- (3) あまり期待できない
- (4) ほとんど期待できない
- (5) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=34人)	瀬野地区 (N=25人)	諏訪地区 (N=37人)	馬場地区 (N=30人)	船津地区 (N=30人)	小林地区 (N=50人)
(1)	4(11.8%)	2(8.0%)	3(8.1%)	2(6.7%)	2(6.7%)	3(6.0%)
(2)	18(52.9%)	14(56.0%)	19(51.4%)	11(36.7%)	15(50.0%)	30(60.0%)
(3)	10(29.4%)	6(24.0%)	12(32.4%)	15(50.0%)	12(40.0%)	16(32.0%)

(4)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(2.7%)	1(3.3%)	0(0.0%)	1(2.0%)
(5)	2(5.9%)	3(12.0%)	2(5.4%)	1(3.3%)	1(3.3%)	0(0.0%)

・職業別

	農 林 業 (N=32)	漁 業 (N=4)	自 営 工 業 (N=2)	自 営 商 業 (N=12)	公 務 員 (N=17)	会 社 員 (N=37)	自 専 由 門 業 職 (N=8)	家 庭 婦 人 (N=17)	学 生 (N=0)	無 職 (N=57)	そ の 他 (N=14)
(1)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)	1 (7.2%)
(2)	19 (59.4%)	2 (50.0%)	1 (50.0%)	6 (50.0%)	5 (29.4%)	23 (62.2%)	4 (50.0%)	10 (58.8%)	0 (0.0%)	25 (43.9%)	10 (71.4%)
(3)	9 (28.1%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	5 (41.7%)	11 (64.7%)	11 (29.7%)	2 (25.0%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	23 (40.3%)	2 (14.2%)
(4)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)
(5)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	1 (12.5%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)	1 (7.2%)

問 平成6年6月に深江町が作成した土石流、火砕流に対する避難方法などを示した防災マップや防災ガイドブックを配布しました。あなたはこれを見たことがありますか。

- (1) ある
- (2) ない
- (3) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	33(55.9%)	29(74.4%)	47(79.7%)	39(75.0%)	32(65.3%)	57(74.0%)
(2)	19(32.2%)	6(15.4%)	11(18.6%)	13(25.0%)	11(22.5%)	15(19.5%)
(3)	7(11.9%)	4(10.2%)	1(1.7%)	0(0.0%)	6(12.2%)	5(6.5%)

問 あなたがお住まいの自治会で避難訓練が行なわれたことがありますか。

- (1) ある
- (2) ない
- (3) わからない
- (4) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	27(45.8%)	33(84.6%)	43(72.9%)	32(61.6%)	39(79.6%)	32(41.6%)
(2)	16(27.1%)	1(2.6%)	12(20.3%)	14(26.9%)	4(8.2%)	33(42.8%)
(3)	10(16.9%)	2(5.1%)	3(5.1%)	6(11.5%)	4(8.2%)	8(10.4%)
(4)	6(10.2%)	3(7.7%)	1(1.7%)	0(0.0%)	2(4.0%)	4(5.2%)

問 あなたの地区は土石流が発生したときの避難対象地区に含まれていますか。

- (1) はい
- (2) いいえ
- (3) わからない
- (4) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	19(32.2%)	22(56.4%)	16(27.1%)	5(9.6%)	7(14.3%)	9(11.7%)
(2)	17(28.8%)	8(20.5%)	36(61.0%)	44(84.7%)	37(75.5%)	53(68.8%)
(3)	16(27.1%)	6(15.4%)	5(8.5%)	1(1.9%)	3(6.1%)	11(14.3%)
(4)	7(11.9%)	3(7.7%)	2(3.4%)	2(3.8%)	2(4.1%)	4(5.2%)

問 深江町において、今後心配される災害は何ですか。

- (1) 雲仙普賢岳の火砕流
- (2) 水無川の土石流
- (3) 雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊
- (4) 地震による津波
- (5) 地震による密集家屋の火災
- (6) 台風による風害
- (7) 特に心配なことがらはない
- (8) その他
- (9) 無回答

・地区別 (複数回答)

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	13(22.0%)	5(12.8%)	13(22.0%)	10(19.2%)	5(10.2%)	22(28.6%)
(2)	20(33.9%)	22(56.4%)	16(27.1%)	27(51.9%)	16(32.7%)	26(33.8%)
(3)	38(64.4%)	13(33.3%)	27(45.8%)	27(51.9%)	14(28.6%)	38(49.4%)
(4)	7(11.9%)	11(28.2%)	11(18.6%)	7(13.5%)	28(57.1%)	8(10.4%)
(5)	11(18.6%)	8(20.5%)	10(16.9%)	13(25.0%)	15(30.6%)	16(20.8%)

(6)	21 (35.6%)	19 (48.7%)	25 (42.4%)	19 (36.5%)	26 (53.1%)	36 (46.8%)
(7)	1 (1.7%)	4 (10.3%)	7 (11.9%)	6 (11.5%)	1 (2.0%)	8 (10.4%)
(8)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.6%)
(9)	5 (8.5%)	4 (10.3%)	3 (5.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (3.9%)

問 水無川の砂防ダムは1号砂防ダムが平成10年2月に完成しており、2号砂防ダムが平成9年に着工しています。あなたは砂防ダム群の建設をどのように建設すべきとお考えですか。

- (1) 基本構想（当初の計画）どおりに建設する
- (2) 堆積土砂量が増えているので、規模を更に大きくする
- (3) 噴火が終息したので、測量や地質調査を行なって基本構想を見直す
- (4) 土石流が出なくなったので、規模を小さくする
- (5) その他
- (6) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	24 (40.7%)	18 (46.1%)	29 (49.1%)	26 (50.0%)	12 (24.5%)	28 (36.3%)
(2)	7 (11.9%)	2 (5.1%)	6 (10.2%)	6 (11.5%)	9 (18.4%)	13 (16.9%)
(3)	12 (20.3%)	12 (30.8%)	16 (27.1%)	10 (19.2%)	17 (34.7%)	22 (28.6%)
(4)	3 (5.1%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	2 (3.9%)	1 (2.0%)	1 (1.3%)
(5)	1 (1.7%)	1 (2.6%)	1 (1.7%)	2 (3.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(6)	12 (20.3%)	6 (15.4%)	5 (8.5%)	6 (11.5%)	10 (20.4%)	13 (16.9%)

問 深江町には災害時の近隣の協力を行なうために、自主防災組織が自治会に結成されていますが、自主防災組織があなたの自治会に結成されていることを知っていますか。

- (1) はい
- (2) いいえ
- (3) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=59人)	瀬野地区 (N=39人)	諏訪地区 (N=59人)	馬場地区 (N=52人)	船津地区 (N=49人)	小林地区 (N=77人)
(1)	32 (54.2%)	29 (74.4%)	44 (74.6%)	37 (71.2%)	37 (75.5%)	46 (59.7%)
(2)	19 (32.2%)	5 (12.8%)	14 (23.7%)	13 (25.0%)	8 (16.3%)	19 (24.7%)
(3)	8 (13.6%)	5 (12.8%)	1 (1.7%)	2 (3.8%)	4 (8.2%)	12 (15.6%)

問 この災害が発生する前から農業をしていましたか。

- (1) 専業農家をしていた
- (2) 兼業農家をしていた
- (3) 無回答

・地区別

	大野木場地区 (N=22 人)	瀬野地区 (N=15 人)	諏訪地区 (N=22 人)	馬場地区 (N=12 人)	船津地区 (N=9 人)	小林地区 (N=35 人)
(1)	19(86.4%)	8(53.3%)	13(59.1%)	7(58.4%)	4(44.4%)	16(45.7%)
(2)	3(13.6%)	7(46.7%)	9(40.9%)	4(33.3%)	4(44.4%)	18(51.4%)
(3)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.8%)	1(11.2%)	1(2.9%)

問 現在、農業をしていますか。

- (1) 専業農家をしている
- (2) 兼業農家をしている
- (3) 再開したいと考えている
- (4) 農業をやめた
- (5) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=22 人)	瀬野地区 (N=15 人)	諏訪地区 (N=22 人)	馬場地区 (N=12 人)	船津地区 (N=9 人)	小林地区 (N=35 人)
(1)	9(40.9%)	6(40.0%)	10(45.5%)	5(41.7%)	3(33.3%)	9(25.7%)
(2)	2(9.1%)	1(6.7%)	4(18.2%)	5(41.7%)	1(11.1%)	15(42.9%)
(3)	4(18.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(4)	6(27.3%)	8(53.3%)	5(22.7%)	1(8.3%)	3(33.3%)	9(25.7%)
(5)	1(4.5%)	0(0.0%)	3(13.6%)	1(8.3%)	2(22.3%)	2(5.7%)

問 農地はどうされましたか。

- (1) 砂防事業や防災事業の用地として売却した
- (2) 営農希望者に貸している
- (3) その他
- (4) 無回答、無効回答

・地区別

	大野木場地区 (N=6 人)	瀬野地区 (N=8 人)	諏訪地区 (N=5 人)	馬場地区 (N=1 人)	船津地区 (N=3 人)	小林地区 (N=9 人)
(1)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(2)	3(50.0%)	6(75.0%)	3(60.0%)	1(100%)	3(100%)	5(55.6%)
(3)	2(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(33.3%)
(4)	1(16.7%)	2(25.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(11.1%)

深江町の復興・振興
に関するアンケート調査報告書

1999年8月1日 発行

発行者
長崎大学工学部社会開発工学科
高橋 和雄

〒852-8521

長崎市文教町1-14

長崎大学工学部社会開発工学科

Tel:095-847-1111 (内)2710

Tel&Fax:095-848-9639

E-mail:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp
